

令和5年度

年間学習計画
〈シラバス〉



高知県立高知北高等学校 定時制 昼間部

はじめに

本校昼間部は、単位制の学校です。

単位制の学校では必履修科目(全員が履修しなければならない科目)もありますが、その他の科目は、将来進んでいく進路を考慮しつつ、自分で選択(登録)していくことになります。

したがって、各教科・科目について、学習計画・学習内容等を知っておくことが大切です。

本冊子は、その参考資料として作成しました。

この「年間学習計画」は、生徒の皆さんが本校昼間部で学ぶにあたり、

1	学習目標	2	学習内容	3	日常の学習にあたってのアドバイス
4	観点別評価の規準	5	備考		

等をまとめています。教科登録や日々の学習に役立ててください。

(注意) 1. 授業の進捗については、生徒の実態も考慮しながら進みますので、学習計画表と一部異なる場合があります。

また、体育等の実習を伴う科目の場合、授業の出席者数等によって、学習内容が一部変更される場合があります。

2. この冊子は、令和5年度用に作成されています。



目 次

<p>【国語】</p> <p>現代の国語 1</p> <p>言語文化 3</p> <p>文学国語 5</p> <p>古典探究 7</p> <p>【地歴・公民】</p> <p>地理総合 9</p> <p>歴史総合 11</p> <p>公共 13</p> <p>倫理 15</p> <p>政治・経済 17</p> <p>【数学】</p> <p>数学Ⅰ 19</p> <p>数学Ⅱ 21</p> <p>数学A 23</p> <p>数学B 27</p> <p>【理科】</p> <p>科学と人間生活 29</p> <p>物理基礎 31</p> <p>化学基礎 33</p> <p>生物基礎 35</p> <p>地学基礎 37</p> <p>【外国語(英語)】</p> <p>英語コミュニケーションⅠ 39</p> <p>英語コミュニケーションⅡ 41</p> <p>論理・表現Ⅰ 43</p> <p>【保健体育】</p> <p>保健1 45</p> <p>保健2 47</p> <p>体育1 49</p> <p>体育2 51</p> <p>【芸術】</p> <p>音楽Ⅰ 53</p> <p>音楽Ⅱ 55</p> <p>美術Ⅰ 57</p> <p>美術Ⅱ 59</p> <p>工芸Ⅰ 61</p> <p>工芸Ⅱ 63</p> <p>書道Ⅰ 65</p> <p>書道Ⅱ 67</p>	<p>【家庭】</p> <p>家庭総合 69</p> <p>家庭基礎 71</p> <p>消費生活 73</p> <p>服飾手芸 75</p> <p>保育基礎 77</p> <p>【情報】</p> <p>情報Ⅰ 81</p> <p>【商業】</p> <p>ビジネス基礎 83</p> <p>簿記 85</p> <p>情報処理 87</p> <p>ソフトウェア活用 89</p> <p>【自立活動】</p> <p>未来を拓く(Ⅰ～Ⅲ) 91</p> <p>【その他】</p> <p>総合探究 92</p> <p>共通講座 93</p> <p>特別講座 104</p> <p>高大連携 110</p> <p>登録基礎表 114</p>
---	--

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2単位	学年・科・コース等	1年次
使用教科書	新編 現代の国語 (東京書籍)			副教材等	伝える伝わるワーク		
科目の目標							
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。							【知識及び技能】
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。							【思考力、判断力、表現力等】
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。							【学びに向かう力、人間性等】
評価の観点の趣旨							
知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。		「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。			言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとするとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。		
指導領域		話すこと・聞くこと		書くこと		読むこと	
配当する授業時数 ※2単位設定の場合 (年間総時間数:標準70単位時間)		20~30単位時間程度		30~40単位時間程度		10~20単位時間程度	

※**知技**=知識・技能、**言葉**=言葉の特徴や使い方に関する事項、**情報**=情報の扱いに関する事項、**文化**=我が国の言語文化に関する事項
思判表=思考・判断・表現、**話聞**=話すこと・聞くこと、**書**=書くこと、**読**=読むこと、**態**=主体的に学習に取り組む態度

学期	月	時間数	評価の観点※						単元名	教材(題材)	評価方法及び言語活動
			知技			思判表		態			
			言葉	情報	文化	話聞	書				
前期	4月	6	○					○	1. 伝える伝わるワーク	・義務教育範囲の振り返り	【記述の確認】目的や意図に応じて、文章の種類や文体、語句などの表現の仕方を工夫しながら推敲を行う。
		5		○				○	2. 自己を見つめる	・ルリボシカミキリの青	【記述の確認】自分が興味関心をもっていることについて、具体例を挙げて紹介文を書く。
	5月	5		○		○				・気になるニュースについて話そう	【行動の確認】収集した情報を整理し、発表の構成を考えながら、ペア(グループ)で発表しあう。
		5	○			○			3. 言葉と生活I	・分かりやすい説明をしよう	【行動の確認】学校の場所を知らない人に、口頭で説明する文を作成する。
	6月	1	○					○	前期中間考査 (評価する単元: 1 ~ 3)		【知技内容テスト】「伝える伝わるワーク」「ルリボシカミキリの青」の語彙や文の構造、内容に関するもの等。 【思判表内容テスト】初見の地図を見て、説明する文を作成する。
		4			○			○		4. 他者に出会う	・水の東西
	7月	5	○					○	5. 伝える伝わるワーク	・文章のねじれ・あいまいな表現 など	【記述の確認】文の構造や修飾語・被修飾語の関係などに注意しながら、ねじれない文章を書く。
		8月	3		○				○	6. 言葉と生活I	・異なる種類の文章を読み比べよう
	3			○				○	・グラフや写真の読み取り方		【記述の確認】グラフや写真を比較しながら、情報を読みとる。
	9月	1	○					○	前期末考査 (評価する単元: 4 ~ 6)		【知技内容テスト】「伝える伝わるワーク」「水の東西」の語彙や文の構造、内容等に関するもの等。 【思判表内容テスト】初見のグラフから、内容を読み取る。

後期	10月	4		○		○			○	7. 社会と関わる	・鍋洗いの日々	【行動の確認】「働くとはどういうことか?」、考えたことをペアやグループで発表し、共有する。			
		3			○	○			○		・真夏のひしこ漁				
	11月	5		○			○				○	・憧れの職業について調べ、整理してまとめよう	【記述の確認】「憧れの職業」について調べて整理したことをスライドでまとめる。		
		12月	1	○						○	○	後期中間考査 (評価する単元: 7)	【知技内容テスト】「鍋洗いの日々」「真夏のひしこ漁」の語彙や文の構造、内容に関するもの等。 【思判表内容テスト】筆者の心情や人物像に関する問いに答える。		
	1月		5							○	○	8. 言葉と生活2	・発想を広げる方法を使って話し合おう	【行動の確認】思考ツールを活用して、話し合いを行う。	
		2月	3		○						○	○	9. 未来に目を向ける	・推論の仕方	【記述の確認】論理的な思考力問題に挑戦し、演繹・帰納を理解する。
	5				○					○	○	・真の自立とは		【記述の確認】筆者の述べる「自立」に対して、「賛成」「反対」いずれかの立場にたち、意見文を完成させる。	
	3月	5		○							○	○	10. 言葉と生活2	・相手に応じた言葉の選び方	【行動の確認】ロールプレーを行い、実践的な敬語を身につける。
			1	○							○	○	学年末考査 (評価する単元: 8 ~ 10)	【知技内容テスト】「真の自立とは」の語彙や文の構造、内容に関するものや、正しく敬語表現が使えているか。 【思判表内容テスト】初見の論理的な思考問題に答える。	
	備考	通信科目の授業については上記に準じます。 評価は授業時の活動、定期考査、およびレポートの提出により総合的に行います。											合計 70時間		

教科	国語	科目	言語文化	単位数	2単位	学年	1年次
使用教科書	新編言語文化(東京書籍)			副教材等	なし		
科目の目標(学習の目標)							
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 【知識及び技能】 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 【学びに向かう力、人間性等】							
評価の観点の趣旨							
知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。		「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。			言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。		
指導領域		話すこと・聞くこと		書くこと		読むこと	
配当する授業時数 ※2単位設定の場合 (年間総時間数:標準70単位時間)		/		5~10単位時間程度		【古典】40~45単位時間程度 【近代以降の文章】20単位時間程度	

※**知技**=知識・技能、**言葉**=言葉の特徴や使い方に関する事項、**文化**=我が国の言語文化に関する事項
思判表=思考・判断・表現、**書**=書くこと、**読**=読むこと、**態**=主体的に学習に取り組む態度

学期	月	時間数	評価の観点※						単元名	教材(題材)	評価方法及び言語活動	
			知技			思判表						態
			言葉	情報	文化	話聞	書	読				
前期	4月	4	○	/	/	/	/	○	○	1. 随筆を読む ・さくらさくらさくら ・「花」といえば「桜」?	【記述の確認】短歌の内容と読まれた心情について考え、筆者の考えを整理する。 【記述の確認】内容を踏まえて、他の作品での言葉の使われ方を調べ、まとめる。	
	5月	6	/	/	○	/	/	○	○	2. 古文入門 ・古文に親しむ ・児のそら寝	【行動の確認】作品から好きな文章を選び、暗誦する。 【行動の確認】歴史的仮名遣いに注意しながら音読する。	
	6月	5	/	/	○	/	/	○	○	3. 漢文入門 I ・訓読の基本(訓読・格言・再読文字)	【記述の確認】漢文を訓読にしたがって書き下し、現代語訳する。	
		1	○	/	/	/	/	○	○	前期中間考査 (評価する単元:2. 古文入門と3. 漢文入門)	【知技内容テスト】歴史的仮名遣い、訓読のきまり	
		6	○	/	/	/	/	○	○	4. 小説 I 一触れ合う心 ・とんかつ	【記述の確認】文脈に基づき、場面ごとに登場人物の心情をまとめる。	

後期	7月	5			○			○	○	5. 随筆	・徒然草 ・枕草子	【記述の確認】作者の書き方を踏まえて随想的な文章を書く。	
	8月	5			○			○	○	6. 漢文入門2	・故事成語	【記述の確認】故事成語を用いた短文を作る。	
	9月	1	○					○	○	前期期末考査 (評価する単元:4. 小説1、5. 随筆)		【知技内容テスト】語句の読み書きおよび意味。文学史。 【思判表内容テスト】教材を読み、登場人物の心情や人物像に関する問いに答える。	
	10月	6			○			○	○	7. 漢詩	・絶句と律詩 ・訳詩を書く	【記述の確認】漢詩を一つ選び、内容や表現を吟味して訳詩を書く。	
	11月	5				○			○	○	8. 短歌・和歌	・柳あをめる【短歌】 ・折々のうた ・短歌を作る	【記述の確認】「本歌取り」の技法を使って短歌を作り、相互に批評し合う。
		6	○						○	○	9. 小説2 一 葛藤する心	・羅生門	【記述の確認】原作と比較し、重要と思われる箇所について改変理由について考察し、まとめる。
		1	○						○	○	後期中間考査 (評価する単元:9小説2)		【知技内容テスト】語句の読み書きおよび意味。 【思判表内容テスト】教材を読み、登場人物の心情や人物像に関する問いに答える。
		12月	6	○					○	○	10. 現代の詩歌	・俳句 ・詩 ・歌詞の意味や表現技法について考えよう	【記述の確認】歌詞の意味や表現技法について考え、まとめる。
	1月	6				○			○	11. 物語	・伊勢物語 ・和歌を自分の言葉で書き換える	【記述の確認】「伊勢物語」内の和歌を自分の言葉で書き換え、元の歌と比較しながら表現の工夫について話し合う。	
	2月	6				○			○	○	12. 論語	・論語一八章 ・『論語』の注釈を読む	【記述の確認】解釈の分かれる文章について、古人の解釈を踏まえ、自身の考えを理由を挙げて述べる。
		1				○			○	○	学年末考査 (評価する単元:11. 物語、12. 論語)		【知技内容テスト】語句の読み書きおよび意味。書き下し文。文学史。 【思判表内容テスト】教材を読み、登場人物の心情や孔子の思想に関する問いに答える。
	備考	通信科目の授業については上記に準じます。 評価は授業時の活動、定期考査、およびレポートの提出により総合的に行います。											合計 70時間

教科	国語	科目	文学国語	単位数	3単位	学年	2年次以上
使用教科書	新文学国語(三省堂)			副教材等	なし		
科目の目標(学習の目標)							
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 【知識及び技能】							
(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】							
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 【学びに向かう力、人間性等】							
評価の観点の趣旨							
知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。		「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。			言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。		
指導領域		話すこと・聞くこと		書くこと		読むこと	
配当する授業時数 ※3単位設定の場合 (年間総時間数:標準105単位時間)				23~30単位時間程度		75~83単位時間程度	

※**知技**=知識・技能、**言葉**=言葉の特徴や使い方に関する事項、**文化**=我が国の言語文化に関する事項

思判表=思考・判断・表現、**書**=書くこと、**読**=読むこと、**態**=主体的に学習に取り組む態度

学期	月	時間数	評価の観点※					単元名	教材(題材)	評価方法及び言語活動	
			知技			思判表					態
			言葉	情報	文化	話聞	書				
前期	4月	6	○	/	/	/	○	○	1. 発想と感覚 文学の言葉 を感じ取る	・言葉の響きを味わう 「二十億光年の孤独」 ・発想の展開を捉える 「虹の雌雄」	【記述の確認】表現や発想のおもしろさについて、グループで話し合い、考えをまとめて書く。
	5月	10	/	/	○	/	○	○	2. 読みの深まり 解釈の多様 性を楽しむ	・さまざまな読み方を考 える「予感」 ・読みの広がりを追う 「雉始雌」	【記述の確認】物語の展開において文章の構成や表現にどのような工夫がなされているかを分析し、解説文を書く。
	6月	3	/	/	○	/	○	○	3. 表現プラザI みんなでつなぐ リレー小説	・読み手に興味を持たせ る構成や展開を工夫する 「冒頭書き出し例集」	【記述の確認】グループでリレー形式の小説を書き、相互に感想を交換する。
		1	○	/	/	/	○	○	前期中間考査 (評価する単元:1と2)		【知技内容テスト】語句の読み書きと意味。詩の技法や日本文化に関する内容を説明する。
前期	6月	12	○	/	/	/	○	○	4. 人間の姿と 心情の表現に 読 みひたる	・〈執着〉する心を捉える 「山月記」	【記述の確認】感情表現を抜き出し、登場人物の心情を説明する文章を書く。
	7月								5. 作品の挑戦 作家のストラ テジーを読み解 く	・作品の主題を深める 「少年という名前のメカ」 ・作中の「謎」を考える 「パースデイ・ガール」	【記述の確認】作品の内容や形式について、書評を書く。
	8月	12	○	/	/	/	○	○			

後 期	9 月	3	○					6. 表現プラザ2 想像からの語り	・心情の語り方を工夫する「未知へ」「夕焼け」「売炭翁」	【記述の確認】作者や登場人物の心情を自由に想像し、詩を一人称で語る文章に書き換える。	
		1	○					前期期末考査 (評価する単元:4と5)		【知技内容テスト】語句の読み書きと意味、比喩などの表現技法。 【思判表内容テスト】教材を読み、登場人物の心情や人物像に関する問いに答える、	
	10 月	12	○					7. 意味と解釈 表現の意味を捉え直す	・叙述から心情を想像する「こころ」	【記述の確認】作品が成立した背景や他の作品との関係を踏まえて作品を解釈する文章を書く。	
		11 月 12	○		○			8. 近代の創造 近代の文章に価値を見出す	・極限の表現に迫る「永訣の朝」 ・時代を超えた心情に迫る「たけくらべ」 ・作家の人間像を捉える「正岡子規—もうひとつの顔」	【記述の確認】近代作家について調べ、その人生についての文章を書く。	
	11 月	1	○					後期中間考査 (評価する単元:7と8)		【知技内容テスト】語句の読み書きと意味。 【思判表内容テスト】教材を読み、登場人物の心情や人物像に関する問いに答える。	
		12 月 3	○					9. 表現プラザ3 現代に甦る歌物語	・読み手を引きつける表現の工夫をする「古典和歌・近世俳句」	【記述の確認】和歌・俳句からストーリーを想像して現代版歌物語を書く。	
	12 月	12	○		○			10. 史実と虚構 歴史の語り方について考える	・史書が伝えるものを捉える「項羽と劉邦—『史記』を読む」 ・物語に投影された解釈を考える「花山天皇の退位—『大鏡』を読む」	【記述の確認】事件の経過を時系列に沿ってまとめ、事件の要因について、本文に書かれた内容をもとに考察して書く。	
		1 月 3	○					11. 表現プラザ4 誘惑する書評	・交流を通して文章を整える「ちりめんの赤色に映える恋の哀切」 「大和ことばの柔らかさ」	【記述の確認】好きな本を選んで書評を書き、相互評価したことを踏まえて推敲する。	
	2 月	13	○		○			12. 文学の普遍性③ 自分と未来をつなぐ文学の魅力を探る	・人間の持つ本性について考える「山椒魚」 ・人間の存在について考える「珊瑚のリング」 ・人生の未来図について考える「旅する本」	【記述の確認】物語の登場人物の言動や考え方からどのような思いを持ったか、文章にまとめる。	
		1	○					学年末考査 (評価する単元:10と12)		【知技内容テスト】語句の読み書きと意味。 【思判表内容テスト】教材を読み、登場人物の心情や人物像に関する問いに答える。	
	備考										合計 105時 間

教科	国語	科目	古典探究	単位数	3単位	学年・科・コース等	2年次以上
使用教科書	新編 古典探究（東京書籍）			副教材等	なし		
科目の目標							
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 【学びに向かう力、人間性等】</p>							
評価の観点の趣旨							
知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。		「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のもの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
指導領域		話すこと・聞くこと		書くこと		読むこと	
配当する授業時数 ※3 単位設定の場合 (年間総時間数: 標準105単位時間)						105単位時間程度	

※**知技**=知識・技能、**言葉**=言葉の特徴や使い方に関する事項、**情報**=情報の扱い方に関する事項、**文化**=我が国の言語文化に関する事項
思判表=思考・判断・表現、**話聞**=話すこと・聞くこと、**書**=書くこと、**読**=読むこと、**態**=主体的に学習に取り組む態度

学期	月	時間数	評価の観点※					単元名	教材(題材)	評価方法及び言語活動
			知技		思判表		態			
			言葉	情報文化	話聞	書読				
前期	4月	9	○	/	/	/	○	○	1. 随想を味わう ・宇治拾遺物語 ・十訓抄	【記述の確認】帝と篁のやりとりのおもしろさや、和歌を含んだ説話の展開のおもしろさについて、文章にまとめる。
	5月	8	○	/	/	/	○	○	2. 故事と小話 ・小話 ― 四編	【記述の確認】「故事成語」が現代の日本語ではどのように使われるのか確認し、短文を作成する。
	6月	1	○	/	/	/	○	○	3. 随筆を読む ・徒然草	【行動の確認】教科書の挿絵を比較し、どのような違いがあるのかを話し合う。
	7月	8	○	/	/	/	○	○	前期中間考査 (評価する単元: 1～3)	【知技内容テスト】古典に用いられた語句の意味や用法等。 【思判表内容テスト】文章の種類を踏まえて、古典特有の表現や内容について答える。
	8月	8	○	/	/	/	○	○	4. 作り物語を読む ・竹取物語	【記述の確認】「朝廷」への手紙と歌に込められているかぐや姫の心情をまとめる。
	9月	9	○	/	/	/	○	○	5. 唐詩と文 ・唐詩 ― 八首	【行動の確認】印象に残った詩をあげ、どこが印象的だったのかを話し合う。
	10月	9	○	/	/	/	○	○	6. 日記を読む ・土佐日記 ・更級日記	【記述の確認】冒頭の一文から、作者がどのような日記を書こうとしているのかを考え、まとめる。(土佐日記)
	11月	1	○	/	/	/	○	○	前期期末考査 (評価する単元: 4～6)	【知技内容テスト】古典に用いられた語句の意味や用法等。 【思判表内容テスト】文章の種類を踏まえて、古典特有の表現や内容について答える。

後期	10月	7				○				○	○	7. 中国の知恵	・寓話 一 五編	【記述の確認】各寓話を時代順に並べ替え、時代ごとに要求される思想が徐々に変化していることをまとめる。	
		7				○				○	○	8. 随想を味わう (古文 II部)	・枕草子	【記述の確認】現代版「ありがたきもの」を文語で書く。	
	11月	7	○									○	9. 史記を読む	・項羽と劉邦	【記述の確認】「四面楚歌」という言葉を使った4コマ漫画を描く。
		5	○									○	10. 歌物語を楽しむ (古文 II部)	・大和物語	【行動の確認】「をば」を山に捨てた男の行動に共感できるか否かを話し合う。
	12月	1	○									○	後期中間考査 (評価する単元: 7 ~ 10)		【知技内容テスト】古典に用いられた語句の意味や用法等。 【思判表内容テスト】文章の種類を踏まえて、古典特有の表現や内容について答える。
		8	○									○	11. 作り物語を味わう (古文 II部)	・源氏物語	【行動の確認】本文と土佐光吉によって描かれた絵を比べて、気が付いたことを話し合う。
	2月	9					○					○	12. 中国の思想 (漢文 II部)	・儒家と道家	【記述の確認】「人間の本性」が善か、悪かについて、自分の考えをまとめる。
		8					○					○	13. 和歌の世界	・小倉百人一首の世界	【記述の確認】好きな歌を一首選び、その歌の意味や読まれた状況などについて調べ、鑑賞文を書く。
	3月	1	○									○	学年末考査 (評価する単元: 11 ~ 13)		【知技内容テスト】古典に用いられた語句の意味や用法等。 【思判表内容テスト】文章の種類を踏まえて、古典特有の表現や内容について答える。
	備考														合計 105時間

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	4単位	学年	2年次以上
使用教科書	高等学校 新地理総合(帝国書院)			副教材等	標準高等地図、準拠ノート		

学習の目標

地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化が進み国際理解の必要性が増している現代において、主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力を培う。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。
定期考査，ワークシート，行動観察	定期考査，ワークシート，発表・話し合い	行動観察，ワークシート，発表・話し合い，レポート(Sの科目)

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当	
				(1)	(2)	(3)		
前期	4	第1部 地図でとらえる現代世界	・日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。				70	
		第1章 地図と地理情報システム	・日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。	○	○	○		
			現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。	○	○	○		
			地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○		
	5	第2章 結び付きを深める現代世界	現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解している。	○	○	○		
			現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○		
			現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○		
	6	第2部 国際理解と国際協力						
		第1章 生活文化の多様性と国際理解	世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。	○	○	○		
			世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○		
7		生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○			
	追究事例 産業力が世界の生活文化に与える影響	アメリカ合衆国では、世界標準の工業製品が生み出されたり、世界の食を支える農産物が生産されたりしている。この国の産業は、人々の生活にどのような影響を与えているのか理解し、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○			

8・9	追究事例 経済成長による人々の生活の変化 -東アジア-	東アジアは第二次世界大戦後に急速に経済成長が進んだ地域である。中国や韓国などでは、どのような生活文化がみられ、経済成長の影響を受けて、どのように変化しているのか理解し、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
	追究事例 地域統合が人々の生活や産業に与える影響	ヨーロッパでは、二度の世界大戦を機にEUを中心とした政治・経済の統合が進められている。EUの統合によって、ヨーロッパの人々の生活文化はどのように変化してきたのだろうか理解し、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
10	第2章 地球的課題と国際協力	世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。	○	○	○
		地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解している。	○	○	○
		世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
11		地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○
12	第3部 持続可能な地域づくりと私たち				
	第1章 自然環境と防災	自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。	○	○	○
1		さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルが身に付いている。	○	○	○
		地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
2		自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○
	第2章 生活圏の調査と地域の展望	生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。	○	○	○
		生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○	○	○
		生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○
合計					140
時間					

70

後期

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	4単位	学年	2年次以上
使用教科書	新選 歴史総合(東京書籍)			副教材等	準拠ノート		

学習の目標

- ①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ②近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ③近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。
定期考査, ワークシート, 行動観察	定期考査, ワークシート, 発表・話し合い	行動観察, ワークシート, 発表・話し合い, レポート(Sの科目)

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	第1章 歴史の扉 1節 歴史と私たち	○諸資料を活用し、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解している。	○	○	○	70
		2節 歴史の特質と資料	○日本や世界のさまざまな地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、画像などの資料を活用し、資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解している。	○	○	○	
	5	第2章 近代化と私たち 1節 近代化への問い	○交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料を活用し、近代化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現している。	○	○	○	
		2節 結び付く世界と日本の開国	○18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、18世紀のアジアの経済と社会を理解している。	○	○	○	
	6	3節 国民国家と明治維新	○国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、立憲制と国民国家の形成を理解している。	○	○	○	
			○帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。	○	○	○	
			○帝国主義が起こった原因や、帝国主義国による世界分割の進行と世界秩序の変容について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	
	7		○日本で明治政府が行ったさまざまな改革や、その当時の東アジアの国際関係について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	
			○20世紀初期、帝国主義に対して世界各地の人々ほどのような態度を示したのかについて理解する。	○	○	○	
			○帝国主義国による植民地支配とそこで暮らす人々の生活などについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	

8・9	4節 近代化と現代的な諸課題	○自由・制限, 平等・格差, 対立・協調などの観点を基に主題を設定し, 事象の背景や原因, 結果や影響などに着目して, 多面的・多角的に考察し, 表現することを通して, 現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解している。	○	○	○
	2節 第一次世界大戦と大衆社会	○第一次世界大戦の性格と惨禍, 国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し, 表現することを通して, 総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。	○	○	○
		○第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して, 第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し, 表現することを通して, 大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。	○	○	○
10	3節 経済危機と第二次世界大戦	○各国の世界恐慌への対応の特徴, 国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し, 表現することを通して, 国際協調体制の動揺を理解している。	○	○	○
		○第二次世界大戦の性格と惨禍, 社会状況や人々の生活, 日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し, 表現することを通して, 第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。	○	○	○
11	4節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	○自由・制限, 平等・格差, などの観点を基に主題を設定し, 多面的・多角的に考察し, 表現することを通して, 現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解している。	○	○	○
12	第4章 グローバル化と私たち 1節 グローバル化への問い	○冷戦と国際関係, 人と資本の移動, 資源・エネルギーと地球環境, 感染症, 多様な人々の共存などに関する資料を活用し, グローバル化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し, 問いを表現している。	○	○	○
	2節 冷戦と世界経済	○地域紛争と冷戦の関係, 第三世界の国々の経済政策の特徴, 欧米やソヴィエト連邦の政策転換などを多面的・多角的に考察し, 表現することを通して, 国際政治の変容を理解している。	○	○	○
1		○冷戦が各国経済に及ぼした影響などに着目して, 冷戦下の世界経済や地域連携の特徴などを多面的・多角的に考察し, 表現することを通して, 世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。	○	○	○
	3節 世界秩序の変容と日本	○市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し, 表現することを通して, 市場経済の変容と課題を理解している。	○	○	○
		○冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し, 表現することを通して, 冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解している。	○	○	○
2					
	4節 現代的な諸課題の形成と展望	○現代的な諸課題に関する主題を設定し, 多面的・多角的に考察し, 表現することを通して, 歴史的経緯を踏まえて, 持続可能な社会に向けて, 現代的な諸課題の展望を探究している。	○	○	○
合計					140
					時間

後期

70

教科	公民	科目	公共	単位数	3単位	学年	1年次
使用教科書	公共(実教出版)			副教材等	なし		

学習の目標

人間と社会の在り方についての見方、考え方を働かせ、現代の諸課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目的とする。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために、必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の現実を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
定期考査，ワークシート，行動観察	定期考査，ワークシート，発表・話し合い	行動観察，ワークシート，発表・話し合い，レポート(Sの科目)

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間配当
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	第1部 公共の扉 第1章 社会を作る私たち	・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解している。	○	○	○	50
			・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していくこととする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。	○	○	○	
			・社会に参画する自立した主体とは、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	
	5	第2章 人間としてよく生きる	・伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。	○	○	○	
			・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	○	○	○	
	6	第3章 他者とともに生きる	・社会に参画する自立した主体とは、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	
			・人間は対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解させる。	○	○	○	
	7		・自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○	
		第4章 民主社会の倫理	・各人の意見や利害を公平・公正に調整することを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。	○	○	○	
			・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	

8・9	第5章 民主国家における基本原理	・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。	○	○	○
		・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
10	第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち	・法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成されていくことについて理解している。	○	○	○
	1 現代の民主政治と日本国憲法	・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	○	○	○
11	第1章 日本国憲法の基本的性格	・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	○	○	○
	第2章 日本の政治機構と政治参加	・司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。	○	○	○
12	2 現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会	・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	○	○	○
		・雇用と労働問題、財政及び租税の役割、社会保障の充実、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる課題を基に、活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。	○	○	○
1		・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	○	○	○
	3 国際社会と人類の課題 第1章 国際政治の動向と課題	・国際法の意義と役割や領土が領空や領海を含むものであり、国民の基本的な生活を保障し資源を確保する領域であること、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について理解している。	○	○	○
2		・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	○	○	○
	第2章 国際経済の動向と課題	・国際社会において相互依存関係が一層深まっていること、国際社会における貧困や格差が解消されていない状況やこれらの解決が地球的な課題であることについて理解している。	○	○	○
	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	○	○	○
		平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明できる。	○	○	○
合計					105
時間					

後期

55

教科	公民	科目	倫理	単位数	2単位	学年	2年次以上
使用教科書	高等学校 倫理(第一学習社)			副教材等	なし		

学習の目標

人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。
- ・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けている。	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりしている。	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題に関連して、学習上の課題を意欲的に追究しようとしたり、他者と共によりよく生きる自己の形成に向けて、多面的・多角的に考察しようとしたりしている。
定期考査，ワークシート，行動観察	定期考査，ワークシート，発表・話し合い	行動観察，ワークシート，発表・話し合い

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当	
				(1)	(2)	(3)		
前期	4	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方					35	
		第1章 人間の心と自己形成	■青年期の課題を踏まえ、人格、感情、認知、発達についての心理学の考え方をもち、様々な人間の心のあり方を理解し、自分の生きている青年期はどのような位置にあり、どのような発達課題があるのかを考えている。	○	○	○		
	5	第2章 人間の存在や価値と宗教 1 キリシアの思想	■古代ギリシアの思想をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解し、自己の課題と結びつけて思索している。	○	○	○		
		2 ユダヤ教とキリスト教	■キリスト教をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解し、自己の課題と重ね合わせて思索している。	○	○	○		
		3 イスラーム	■イスラームをもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解し、自己の課題と重ね合わせて思索している。	○	○	○		
		4 仏教	■仏教をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解し、自己の課題と重ね合わせて思索している。	○	○	○		
	6	5 中国の思想	■儒教などの中国の思想をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解し、自己の課題と重ね合わせて思索している。	○	○	○		
		6 宗教や芸術	■人生における宗教や芸術のもつ意義について理解する。・芸術とは何か、芸術が人生や社会に与える影響はどのようなものかについて、自らの生き方と関わらせて思索を深めている。	○	○	○		
	7	第3章 人間のあり方と社会						
		1 人間の尊厳	■人間の尊厳に関する思想について、代表的な先哲の思想を通して理解し、人間の尊厳を自覚することの意義について考察している。	○	○	○		
		2 科学革命の時代と自然観	■人間は自然をどのように捉えてきたかを理解し、科学技術の発達と自然との共生について主体的に考えている。					

8・9	3 自由で平等な社会の実現	■社会契約の思想、人格の尊厳に関する思想、人倫の思想、功利主義の思想などについて、代表的な先哲の思想を通して理解し、民主社会を実現した社会契約の思想について、多面的・多角的に考察している。	○	○	○
	4 人間性の回復と主体性の確立	■社会の発展に関する思想、公共性に関する思想、プラグマティズムなどについて、代表的な先哲の思想を通して理解し、自由で平等な社会について考察している。	○	○	○
10	第4章 現代の人間と社会をとらえる思想				
	1 現代の思想と人間像	■現象学、言語哲学、構造主義などについて、代表的な先哲の思想を通して理解し、私たちはこれらから何を学ぶことができるかを考察し、これからの生き方につなげようとしている。	○	○	○
11	2 生命への畏敬と社会参加	■社会参加と奉仕の意義を理解し、社会参加の中にも生きがいがあることを理解し、様々な思想家の主張を振り返りながら、私たちの生き方はどのようなものであればよいのかを、多面的・多角的に考察している。	○	○	○
	第5章 国際社会に生きる日本人としての自覚				
12	1 日本固有の思想	■日本人の人間観、自然観、宗教観などと、古来の日本人の心情と考え方の関係を理解し、国際社会に生きる日本人としての人間観、自然観、宗教観などの特質について、主体的に考えている。	○	○	○
	2 外来思想の受容	■日本人の人間観、自然観、宗教観などと、外来思想の受容との関係を理解し、国際社会に生きる日本人としての人間観、自然観、宗教観などの特質について、主体的に考えている。	○	○	○
1	3 町人思想のめざめと庶民思想	■日本人の人間観、自然観、宗教観などと、国学や江戸時代の庶民の思想との関係を理解し、国際社会に生きる日本人としての人間観、自然観、宗教観などの特質について、主体的に考えている。	○	○	○
	4 西洋思想との出会い	■日本人の人間観、自然観、宗教観などと、西洋思想の受容との関係を理解し、国際社会に生きる日本人としての生き方・考え方を考察している。	○	○	○
2	第2編 現代の諸課題と倫理				
	第1章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理				
1	1 生命の問題と倫理課題	■生命との関わりにおいて、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。	○	○	○
	2 地球環境の問題と倫理的課題	■地球環境との関わりにおいて、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。	○	○	○
2	3 科学技術の進展と倫理的課題	■科学技術との関わりにおいて、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。	○	○	○
	第2章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理	■福祉について倫理的課題を見だし、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。	○	○	○
			合計	70	時間

35

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	2単位	学年	2年次以上
使用教科書	高等学校 政治・経済(第一学習社)			副教材等	なし		

学習の目標

社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2)国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。

(3)よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断している。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
定期考査, ワークシート, 行動観察	定期考査, ワークシート, 発表・話し合い	行動観察, ワークシート, 発表・話し合い

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	第1編 現代日本の政治・経済の諸課題	・政治や政治権力の意味とその役割について、理解している。 ・法の意義と機能について多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	35
		第1章 現代日本の政治・経済	・法の支配や立憲主義の意味と意義について、理解している。	○	○	○	
		第1節 日本国憲法と現代政治のあり方	・国家の統治原理として法の支配や立憲主義を確立することの大切さについて多面的・多角的に考察し表現している。 ・基本的人権が確立した背景や経緯について、理解している。	○	○	○	
			・個人の尊重や憲法によって保障されている自由や平等について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・新しい人権が主張されるようになった背景や、新しい人権の具体的内容について、理解している。	○	○	○	
	5		・人類は人権保障に向けてどのように努力してきたか、理解している。 ・権利と義務との関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	
			・民主政治の考え方や、議院内閣制や大統領制の特徴について、理解している。 ・よりよい民主政治のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	
			・国会の地位と構成について、理解している。 ・法律はどのようにして成立するのか、理解している。 ・国会の課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	
	6	第2節 望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方	・日本の内閣と国会の関係について、理解している。 ・内閣総理大臣と内閣の権限について、理解している。 ・今後の行政の課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	
			・地方自治の本旨の意味と日本の地方自治制度について、理解している。 ・地方自治における住民の権利と住民運動の意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	
			・政党の意義と役割について理解している。 ・日本の政党政治や選挙の課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	
7	第3節 市場経済の機能と限界	・経済の役割と、市場経済における人々の選択について、理解している。 ・資本主義経済の特質とその変容について、理解している。	○	○	○		
		・価格はどのようにして決まるのか、具体的な市場を取り上げて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・三つの経済主体の活動と、経済循環における役割について、理解している。	○	○	○		
		・自立した消費者としてどのような行動をとるべきか、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・「市場経済の機能と限界」についてよりよい社会の実現を視野に現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○		

8・9	第4節 持続可能な財政および租税のあり方	・財政の機能としくみについて、理解している。・租税の種類やその特徴について、理解している。 ・財政における国と地方の役割分担について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
		・財政における国と地方の役割分担について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・持続可能な財政のあり方を多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○	○	○
	第5節 金融を通じた経済活動の活性化	・金融のはたらきと金融機関の役割について、理解している。 ・日本銀行の金融政策とその影響について理解し、説明している。	○	○	○
10		・現在の金融をめぐる動向とその課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・金融を通じた経済活動の活性化のしくみやあり方を多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○	○	○
	第6節 経済活動と福祉の向上	・日本経済における産業構造の変化について、理解している。・現在の日本経済の現状と課題について、理解している。 ・日本の中小企業や農業経営者が直面している課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
11		・労働三法の内容について、理解している。 ・現在の日本の労働問題や、労働環境をめぐる課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
	第2章 現代日本の諸課題の探究	・日本の社会保障制度について、理解している。 ・日本の社会保障制度の課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
12	第2編 グローバル化する国際社会の諸課題 第1章 現代の国際政治・経済 第1節 国際法の果たす役割	・社会的な見方・考え方を働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる社会の諸課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察し、よりよいあり方についての自分の考えを説明している。	○	○	○
		・21世紀以降の国際社会の動向について、理解している。 ・国際社会の多極化や国際協力について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
1		・国際法と国内法の違いや、国際法の種類や特徴について、理解している。 ・領土問題などの国際紛争の解決のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
	第2節 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割	・勢力均衡と集団安全保障の違い、国際連合の機能と主要機関の役割について、理解している。 ・今日の国際情勢の変化を受けて国際連合はどのような役割を強化するべきか多面的・多角的に考察し表現している。	○	○	○
2		・国際法の果たす役割について、国際社会の特質や国際紛争の諸要因と関連付けて、将来、国際社会においてどのような制度やしきみを作っていくことが必要か、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
	第3節 相互依存関係が深まる国際経済の特質	・平和主義の理念と日本の防衛政策の関連について、理解している。 ・日米安全保障協力の变化と自衛隊の海外派遣について理解し、自分の考えを説明している。	○	○	○
2		・比較優位の考え方や国際分業の利点について、理解している。 ・現在の世界と日本の貿易の現状と動向について、考察し、表現している。	○	○	○
	第4節 国際経済において求められる日本の役割	・国際収支の動向をもとに、日本の対外経済取引の現状について、考察し、表現している。 ・変動相場制における為替相場の決定のしくみについて、理解している。	○	○	○
	第2章 国際社会の諸課題の探究	・国際経済における日本の地位について、理解している。 ・国際経済の安定と成長のために果たすべき日本の役割について考察し、表現している。	○	○	○
		・社会的な見方・考え方を働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる社会の諸課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察し、よりよいあり方についての自分の考えを説明している。	○	○	○
合計					70
時間					

35

時間

教科	数学	科目	数学 I	単位数	3単位	学年	1年次
使用教科書	最新 数学 I (数研出版)			副教材等	プリント等		

学習の目標		
(1)数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
定期考査(知識・技能問題)	定期考査(思考問題)・発表・提出物等	教師による行動観察・授業態度・総合的な取り組み状況・振り返りシートの記述等

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	第1章 数と式 第1節 数と式 1. 多項式	式についての用語の意味を理解する。また、特定の文字や式の次数への着目を通して、式について多様な見方をすることができる。単項式、多項式とその整理の仕方に関心をもち、考察しようとする。	○		○	50
		2. 多項式の加法・減法・乗法	多項式の加法・減法は、同類項をまとめることによってできることを理解している。指数法則を理解し、計算に用いることができる。分配法則を用いて、式を展開することができる。	○	○		
		3. 展開の公式	展開の公式を用いて、式を展開することができる。	○			
		4. 式の展開の工夫	おきかえを利用し、多項式の展開の公式に帰着させることができる。式の形の特徴に着目して掛ける順番を工夫し、計算を簡単にすることができる。	○			
		5. 因数分解	共通因数を見つけ、共通因数のくり出しができる。因数分解の公式を用いて、式を因数分解できる。展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする。	○		○	
	5	6. いろいろな因数分解	多項式を適切な形に整理したり、おきかえなどを利用したりして、因数分解の公式に帰着させることができる。複雑な式についても、項を組み合わせる、降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで、因数分解をすることができる。式の特徴に着目して複雑な式の因数分解に取り組もうとする。	○	○	○	
		第2節 実数 7. 実数 8. 根号を含む式の計算	中学校までに学習した数を分類、統合し、実数について理解する。また、絶対値の定義を数直線と関連付けて理解し、絶対値の性質について理解する。平方根の定義を理解し、根号を含む式の計算をすることができる。また、分母の有理化を理解し、分母に根号を含む基本的な分数について有理化したり計算したりすることができる。	○	○	○	
		第3節 1次不等式 9. 不等式 10. 不等式の性質	不等式の意味を理解することができる。xの値の範囲を、数直線上に図示できる。具体的な数に対して、不等式の解であるかどうかを判断できる。不等号に等号が付いているものと付いていないものの違いを考察しようとする。 不等式の性質における不等号と関連付けながら不等式の性質を考察することができる。不等式の性質を、数直線と対応させて考察できる。	○	○	○	
		11. 1次不等式の解き方	不等式の性質、1次不等式の解法を理解し、1次不等式を解くことができる。不等式の性質から、1次不等式の解法を考察しようとする。	○	○	○	
		12. 連立不等式	数直線を用いて、2つの不等式の共通範囲を求めることができる。連立不等式の解を、数直線を用いて表示し、解を求めることができる。A<B<Cの形の不等式を連立不等式として解くことができる。連立不等式の解を考察しようとする。	○	○	○	
		13. 不等式の利用	身近な問題に対し、適切に変数を定め、1次不等式で表現できる。身近な問題を、1次不等式を用いて解決しようとする。	○	○	○	
		7	第2章 集合と命題 1. 集合と部分集合	集合の要素であるかどうかを判定することができる。集合を{ }を用いて表すことができる。部分集合、空集合、2つの集合の包含関係を理解している。集合をそれぞれの場合に通しで表すことができる。ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して考察することができる。集合について、それぞれの特徴や関係に合った表現方法を考察しようとする。	○	○	
	2. 共通部分、和集合、補集合		共通部分、和集合、補集合を求めることができる。ド・モルガンの法則に関心をもち、考察しようとする。	○		○	
	3. 命題と集合		命題や条件の意味を理解している。命題の真偽を、集合や反例などを用いて判定することができる。必要条件、十分条件の意味を理解している。条件の否定を理解し、否定を述べることができる。ド・モルガンの法則を理解しており、「かつ」「または」の否定を述べることができる。命題とその対偶の真偽が一致することを理解している。条件を満たすものの集合の包含関係が、命題の真偽に関連していることに着目し、命題について調べようとする態度がある。	○	○	○	
	9	4. 命題と証明	対偶や背理法を用いて証明することができる。直接証明するのが難しい命題については、対偶や背理法の利用を考え、証明することができる。直接証明法では難しい命題も、対偶や背理法を用いれば証明できることに興味・関心をもち、考察しようとする。	○	○	○	
		第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1. 関数	xの関数yが与えられたとき、xの値に対するyの値を求めることができる。y=f(x)やf(x)の表記を理解しており、関数の値f(a)を求めることができる。身近な問題を、関数の式で表すことができる。日常生活に見られる具体例から関数を見つけようとする。	○	○	○	
		2. 関数とグラフ	座標平面について理解し、関数のグラフがかけられる。1次関数と直線について、2次関数の式が2次式で表されることについて理解している。関数を表、式、グラフによって考察することができる。そのグラフをかこうとする。	○	○	○	
		3. y=ax ² のグラフ	2次関数y=ax ² のグラフの頂点、軸について理解している。放物線のもつ性質に興味・関心を示し、調べようとする。	○		○	
		4. y=ax ² +qのグラフ	2次関数y=ax ² +qのグラフの頂点、軸について理解し、放物線をかき、それをy軸方向に平行移動させることができる。2次関数y=ax ² +qのグラフの特徴を考察することができる。	○	○		
		5. y=a(x-p) ² のグラフ	2次関数y=a(x-p) ² のグラフの頂点、軸について理解し、放物線をかき、それをx軸方向に平行移動させることができる。2次関数y=a(x-p) ² のグラフの特徴を考察することができる。	○	○		
		6. y=a(x-p) ² +qのグラフ	2次関数y=a(x-p) ² +qのグラフの頂点、軸について理解し、放物線をかき、それをx軸方向、y軸方向に平行移動させることができる。2次関数y=a(x-p) ² +qのグラフの特徴を考察することができる。	○	○		
7. y=ax ² +bx+cのグラフ		y=ax ² +bx+cのグラフをかぐためには、y=a(x-p) ² +qの形に変形する必要があることを理解している。平行移動は、頂点の移動を考察すればよいことを理解している。一般の2次関数について、頂点の座標を考察しようとする。	○	○	○		

後期	10	8. 2次関数の最大・最小	2次関数の最大値, 最小値を求めることができる。定義域が限られた場合においても求めることができる。また, グラフを使って, 理解しようとする。身近な問題を, 2次関数の最大・最小の考えを活用して解決しようとする。	○	○	○	
		9. 2次関数の決定	与えられた条件を関数の式に表現し, 2次関数を決定することができる。2次関数の決定において, 適した2次関数の式の形を使うことができる。また, 決定条件に興味, 関心をもち, 考察しようとする。	○	○	○	
	11	10. 2次方程式	2次方程式は, 因数分解による解法が難しい場合に, 解の公式を利用すれば, 解を求めることを理解している。2次方程式の解の個数と解の種類を判別式の符号から求めることができる。実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。2次方程式がどんな場合でも解けるように, 解の公式を得て, それを積極的に利用しようとする。	○	○	○	
		11. 2次関数のグラフとx軸の共有点	2次関数のグラフと, 2次方程式の関係を理解している。2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を, Dの値から考察できる。2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べ, その意味を探ろうとする。	○	○	○	
		12. 2次不等式	2次関数のグラフを利用して, 2次不等式を解く方法を理解し, 2次不等式を解くことができる。関数のグラフ, 方程式, 不等式を関連づけて考えることができる。1次関数のグラフと1次不等式の関係から, 2次不等式の場合を考えようとする。	○	○	○	
	12	13. 2次不等式の利用	身近な問題を, 2次不等式を用いて解決しようとする。			○	
		第4章 図形と計量					
		第1節 三角比					
		1. 鋭角の三角比		三角比は, 直角三角形の辺の比であることを理解し, $\sin\theta$, $\cos\theta$, $\tan\theta$ の値を求めることができる。三角比の表を用いて, 三角比の値や角を調べることができる。三角比の値が角の大きさによって定まることを理解している。	○	○	○
		2. 三角比の利用	三角比を使って, 距離や高さを求めることができる。直接測ることのできない距離などの求め方を考えようとし, 具体的な事象を三角比の問題として見ることがができる。	○	○	○	
	12	3. 三角比の相互関係	三角比の相互関係を用いて, 三角比の1つの値から残り2つの三角比の値を求めることができる。 $90^\circ - A$ の三角比の公式を利用できる。三角比の相互関係を調べようとする。	○	○	○	
		4. 三角比の拡張	座標を用いた鈍角の三角比の定義を理解し, 三角比の値を求めることができる。鈍角も含めて三角比の相互関係を用いて, 三角比の1つの値から残り2つの三角比の値を求めることができる。 $180^\circ - \theta$ の公式を利用できる。三角比の相互関係が鈍角のときも成り立つことを調べようとする。	○	○	○	
		5. 三角比が与えられたときの角	座標を用いて, θ の三角比の値から θ を求めることができる。直線の傾きと正接の関係を考察することができる。 θ の三角比が与えられたときに θ を求める際, 図を積極的に利用しようとする。	○	○	○	
	1	6. 正弦定理	正弦定理における $A=B=C=D$ の関係式を適切に処理できる。正弦定理を用いて三角形の外接円の半径や辺の長さを求めることができる。正弦定理の図形的意味を考察する。	○	○	○	
		7. 余弦定理	余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。余弦定理の図形的意味を考察する。	○	○	○	
		8. 三角形の面積	2辺の長さとその間の角の大きさが与えられた三角形の面積を求めることができる。3辺の長さが与えられた三角形の面積を求めることができる。三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。	○	○	○	
		9. 図形の計量	四角形を対角線で2つの三角形に分割して, 面積を求めることができる。正弦定理や余弦定理を用いて, 測量問題が解決できる。日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。	○	○	○	
	2	第5章 データの分析					
		1. データの整理		度数分布表について理解し, 度数分布表からデータの特徴を読み取ることができる。度数分布表に整理し, ヒストグラムで表すことができる。データを整理して全体の傾向を考察しようとする。	○	○	○
		2. データの代表値		平均値や最頻値, 中央値の定義や意味を理解し, それらを求めることができる。データの分布の仕方によっては, 代表値として平均値を用いることが必ずしも適切ではないことを理解している。身近な統計における代表値の意味について考察しようとする。	○	○	○
3. データの散らばり		範囲, 四分位数, 偏差, 分散, 標準偏差の定義とその意味を理解している。分散, 標準偏差を公式を用いて求めることができる。箱ひげ図をかき, データの分布を比較することができる。データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。	○	○	○		
4. データの相関		散布図, 相関表を作成し, 2つの変量の間の相関を考察することができる。相関と因果関係について, 興味・関心をもつ。	○	○	○		
5. 相関係数		相関係数の定義とその意味を理解し, 定義に従ってそれを求めることができる。相関係数は散布図の特徴を数値化したものであること, 数値化して扱うことよきを理解している。相関関係の大きさを数値化する方法を考察しようとする。	○	○	○		
6. 分割表		分割表の意味を理解し, 数値の割合を計算して新たな表を作成することができる。問題の解決や改善を図るために, 現状のデータの分布を望ましいと考える方向に変えるための条件や改善策を, コンピュータなどの情報機器を積極的に用いるなどして探ろうとする。	○	○	○		
7. 仮説検定の考え方		仮説検定の考え方を理解し, 具体的な事象に当てはめて考えることができる。不確実な事象の起こりやすさに着目し, 実験などを通して, 問題の結論について判断したり, その妥当性について批判的に考察したりすることができる。身近な事柄において, 仮説検定の考え方を活用して判断しようとする態度がある。	○	○	○		

通信科目の授業については上記に準じるとともに, レポートの提出と成績が重要となる。

合計 105

時間

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4単位	学年	2年次以上
使用教科書	最新 数学Ⅱ(数研出版)			副教材等	プリント等		

学習の目標		
<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡素・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p> <p>(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の課程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>		
評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察することができる。座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡素・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察することができる。関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察することができる。関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりすることができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の課程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
定期考査(知識・技能問題)	定期考査(思考問題)・発表・提出物 等	教師による行動観察・授業態度・総合的な取り組み状況・振り返りシートの記述 等

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間配当
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	第1章 式と証明 第1節 式と計算 1. 多項式の乗法と因数分解	展開の公式を用いて、3乗に関わる式を展開することができる。式の形の特徴に着目して変形し、因数分解の公式が適用できるようにすることができる。数学Ⅰで既習の2次式の展開公式を利用して、3次式の展開公式を導くことができる。やや複雑な式の因数分解に取り組もうとする。3乗に関わる展開の公式を自ら導こうとする。	○	○	○	70
		2. 二項定理	パスカルの三角形の性質を理解し、パスカルの三角形の作り方がわかる。二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。	○	○	○	
		3. 多項式の割り算	多項式の割り算の計算方法を理解している。多項式の割り算の結果を等式で表して考察することができる。	○	○	○	
		4. 分数式の乗法・除法	分数式を分数と同じように約分して扱うことができる。分数式の乗法・除法ができる。分数式の計算の結果を、既約分数式または多項式に表すことができる。	○	○	○	
	5	5. 分数式の加法・減法	分数式の加法・減法ができる。分数式を分数と同じように通分して扱うことができる。分数式の計算の結果を、既約分数式または多項式に表すことができる。	○	○	○	
		6. 恒等式	恒等式の性質を理解している。恒等式となるように、係数を決定することができる。恒等式の係数を決定する際に、係数比較法と数値代入法とを、比較して考察しようとする。	○	○	○	
		第2節 等式・不等式の証明 7. 等式の証明	$A=B$ の証明を、適切な方法で行うことができる。比例式を $=k$ とおいて処理することができる。与えられた条件式の利用方法を考え、等式を証明することができる。	○	○	○	
		8. 不等式の証明	実数の大小関係の基本性質を理解している。不等式 $A>B$ を証明するには $A-B>0$ を示せばよいことを利用して、不等式を証明することができる。実数の平方の性質や平方の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。	○	○	○	
		9. 相加平均と相乗平均	相加平均と相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。	○	○	○	
	6	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 1. 複素数	複素数の相等の定義を理解している。複素数の四則計算ができる。除法では、分母と共役な複素数を分母と分子に掛ければよいことを理解している。負の数の平方根を理解している。複素数の表記を理解し、複素数 $a+0i$ を実数 a と同一視できる。平方根を負の数にまで拡張することができる。	○	○	○	
		2. 2次方程式の解と判別式	2次方程式の解の公式を利用して、2次方程式を解くことができる。判別式を利用して、2次方程式の解を判別することができる。	○	○	○	
		3. 解と係数の関係	解と係数の関係を使って、2次方程式の解の和と積を求めることができる。解と係数の関係を使って、対称式の値を求めることができる。2数を解とする2次方程式を作ることができる。	○	○	○	
		第2節 高次方程式 4. 剰余の定理と因数定理	剰余の定理を利用して、多項式を1次式で割ったときの余りを求めることができる。 $P(k)=0$ である k の値のみつけ方を理解し、高次式を因数分解できる。	○	○	○	
		5. 高次方程式の解法	因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。高次方程式の2重解、3重解の意味を理解している。高次方程式を1次方程式や2次方程式に帰着させることができる。	○	○	○	
	7	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点	数直線上において、2点間の距離を求めることができる。数直線上において、線分の内分点、外分点の位置を求めることができる。数直線上において、線分の内分点、外分点の座標を求めることができる。	○	○	○	
		2. 平面上の点	座標平面について理解している。座標平面上において、2点間の距離、線分の内分点、外分点の座標を求めることができる。図形的条件(点対称など)を式で表現できる。三角形の重心の座標の公式を理解している。	○	○	○	
		3. 直線の方程式	与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 x 軸に垂直な直線は $y=mx+n$ の形で表せないことを理解している。	○	○	○	
	8・9	4. 2直線の平行と垂直	2直線の平行条件、垂直条件を理解して、それを利用できる。点と直線の距離の公式を理解して、それを利用できる。2直線の平行・垂直の関係を、直線の傾きに着目して考察しようとする。	○	○	○	
		第2節 円 5. 円の方程式	与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 x, y の2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。3点を通る円の方程式を求めることができる。	○	○	○	
		6. 円と直線	円と直線の共有点の座標を求めることができる。円と直線の位置関係を、適切な方法で判定できる。円の接線の公式を理解して、それを利用できる。円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。	○	○	○	
		第3節 軌跡と領域 7. 軌跡	軌跡を求めるには、逆についても調べる必要があることを理解している。軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。	○	○	○	
8. 不等式の表す領域		不等式の表す領域を図示することができる。不等式を満たす x, y の組を、座標平面上の点の集合としてみる可以尝试。	○	○	○		
9. 連立不等式と領域		連立不等式の表す領域を図示することができる。領域を利用して、1次式の最大値・最小値の求め方を理解している。連立不等式を満たす x, y の組を、座標平面上の点の集合としてみる可以尝试。	○	○	○		

後期	10	第4章 三角関数 第1節 三角関数 1. 一般角	一般角を表す動径を図示したり、動径を表す角を $\alpha + 360^\circ \times n$ と表したりすることができる。一般角を動径とともに考察することができる。	○	○	
		2. 弧度法	弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算ができる。扇形の弧の長さや面積を求める際に、中心角が弧度法であることを理解している。扇形の弧の長さや面積の公式を理解している。	○	○	○
		3. 三角関数	弧度法で表された角の三角関数の値を、三角関数の定義によって求めることができる。三角関数の相互関係を理解し、それらを利用して様々な値を求めたり、式変形をしたりすることができる。	○	○	○
		4. 三角関数のグラフ	いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。単位円周上の点の動きから、三角関数のグラフを考察することができる。三角関数の性質を、グラフの特徴とともに考察することができる。	○	○	○
	11	5. 三角関数を含む方程式、不等式	三角関数を含む方程式・不等式の解き方を理解している。三角関数の相互関係を利用して、三角関数を含む2次方程式を解くことができる。	○	○	○
		第2節 加法定理 6. 加法定理	加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。	○		○
		7. 加法定理の応用	2倍角、半角の公式を利用して、三角関数の値を求めることができる。2倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式を解くことができる。	○	○	○
		8. 三角関数の合成	三角関数の合成を理解している。三角関数の合成を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。	○	○	
	12	第5章 指数関数と対数関数 1. 指数法則	累乗根の定義を理解し、累乗根の計算ができる。指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を用いた計算をすることができる。累乗根を含む計算で、分数の指数を利用して計算することができる。	○	○	○
		2. 指数関数とそのグラフ	指数関数のグラフの概形、特徴を理解している。底と1の大小に注意して、指数関数を含む不等式を解くことができる。	○	○	○
		3. 対数	指数と対数とを相互に書き換えることができる。対数の定義を理解し、対数の値を求めることができる。	○	○	○
		4. 対数の性質	対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。底の変換公式を利用して、logのつかない数に変換できる。	○	○	
		5. 対数関数とそのグラフ	対数関数のグラフの概形、特徴を理解している。底と1の大小に注意して、対数関数を含む不等式を解くことができる。対数の性質を用いる際に、真数が正であることに着目できる。	○	○	○
		6. 常用対数	正の数を $a \times [10]^n$ の形に表現して、対数の値を求めることができる。常用対数の定義を理解し、それに基づいて種々の値を求めることができる。常用対数を利用して、桁数の問題や小数首位の問題を解くことができる。	○		○
	1	第6章 微分法と積分法 第1節 微分法 1. 平均変化率と微分係数	平均変化率の定義を理解し、それを求めることができる。極限値を計算して微分係数を求めるとき、分母のhは0でないことを理解している。微分係数の定義を理解し、それを求めることができる。	○	○	
		2. 導関数	定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。導関数を表す種々の記号を理解して、それらを適切に使って表現することができる。	○	○	
		3. いろいろな関数の微分	導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。変数がx以外の関数について、導関数を求めることができる。	○		
		4. 接線	接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。曲線上にない点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解している。	○	○	○
	2	5. 関数の増減	導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。関数の増減を調べるのに、増減表を書いて考察している。関数の増減を接線の傾きから考察することができる。	○	○	○
		6. 関数の極大・極小	関数の極値を調べるのに、増減表を書いて考察している。導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。関数の極値から関数を決定する際に、必要十分条件に注意して考察することができる。	○	○	○
		7. 関数の最大・最小	導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。最大・最小の応用問題では、変数のとり方、定義域に注意している。導関数を利用して、最大値・最小値の応用問題を解くことができる。	○	○	○
8. 方程式・不等式への応用		導関数を利用して、方程式の実数解の個数、不等式の証明の問題を解くことができる。方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。	○	○	○	
第2節 積分法 9. 不定積分		微分法の逆演算としての不定積分を考察することができる。積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めようとする。			○	
10. 不定積分の計算		不定積分の計算では、積分定数を書き漏らさずに示すことができる。不定積分の定義や性質を理解し、それを利用する不定積分の計算方法を理解している。与えられた条件を満たす関数を、不定積分を利用して求めることができる。	○			
11. 定積分		定積分の定義を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。	○			
12. 定積分の性質		定積分の公式や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。上端が変数xである定積分で表された関数を微分して処理することができる。上端がxである定積分を、xの関数とみなすことができる。	○	○		
13. 面積		直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかいて考察することができる。	○	○	○	

70

*数学 I を履修していること

*通信科目の授業については上記に準じるとともに、レポートの提出と成績が重要となる。

合計 140

時間

教科	数学	科目	数学A	単位数	2単位	学年	2年次以上
使用教科書	最新 数学A(数研出版)			副教材等	プリント等		

学習の目標	
(1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
(2) 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、理論的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	
(3) 数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	

評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、理論的に考察することができる。不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察することができる。	数学の良さを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
定期考査	定期考査(思考問題)・発表・提出物等	教師による行動観察・授業態度・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当	
				(1)	(2)	(3)		
前期	4	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1. 集合	集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。共通部分、和集合、補集合を求めることができる。集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。日常語の「かつ」「または」「…でない」との関連を認識しようとする。	○	○	○	35	
		2. 集合の要素の個数	要素を書き並べて表して、集合の要素の個数を求めることができる。和集合の要素の個数の公式を用いることができる。補集合の要素の個数の公式を用いることができる。日常的な事象に対して集合を考え、人数などを求めることができる。ベン図を利用して集合を図示することで、要素の個数を考察することができる。集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に数えようとする。	○	○	○		
		3. 樹形図、和の法則、積の法則	場合の数を、もれなく重複なく数える手段として、樹形図が有用であることを理解している。樹形図や和の法則、積の法則を用いることができる。場合の数を数える適切な方針を考察することができる。自然数の正の約数の個数を数える方法を考察することができる。1つの原則を決めて、樹形図などを利用して、もれなく重複することなく数えようとする。正の約数の順列の用語、記号、公式を理解し、利用できる。具体的な問題を通じて、どのような場合に順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。	○	○	○		
		4. 順列	順列の用語、記号、公式を理解し、利用できる。具体的な問題を通じて、どのような場合に順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。積の法則から順列の公式を考察することができる。具体的な問題を通じて、どのような場合に順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。	○	○	○		
		5. 円順列と重複順列	円順列の用語、公式を理解し、利用できる。重複順列の用語、公式を理解し、利用できる。既知の順列や積の法則をもとにして、円順列、重複順列を考察することができる。具体的な問題を通じて、どのような場合に円順列、重複順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。順列、円順列、重複順列の違いに興味・関心をもつ。	○	○	○		
		6. 組合せ	組合せの用語、記号、公式を理解し、利用できる。組分けの問題を処理できる。同じものを含む順列の総数を求めることができる。順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。特殊な条件が付く組合せを、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。同じものを含む順列を、組合せで考察することができる。組合せの考え方を利用して、図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。	○	○	○		
	5	7. 確率 8. 確率の意味 9. 確率の計算	確率の意味を理解している。身近な試行によって起こる事象と関連づけながら、実験などを通じて確率に興味・関心をもつ。 事象を集めて表すことができる。試行や事象の定義を理解している。確率の定義に基づき、事象の確率を求めることができる。試行の結果として起こる事象を既知の集合と結びつけて考えることができる。不確実な事象を、同様に確からしいという概念をもとに数量的にとらえることができる。	○	○	○		
		10. 和事象の確率	積事象、和事象の意味を理解し、具体的な事象に対して、積事象、和事象を集めて表すことができる。事象の排反の意味を理解し、2つの事象が排反であるかを判断できる。 和事象、積事象、排反、空事象、確率の基本性質を集合と関連づけて考察しようとする。	○	○	○		
		11. 余事象の確率	確率の加法定理を用いて、確率を求めることができる。一般の和事象の確率を求めることができる。 一般の和事象の確率を集合と関連づけて考察しようとする。	○	○	○		
		12. 独立な試行の確率	余事象の確率の公式を利用して、確率を求めることができる。2つの独立な試行を行うとき、その結果として起こる事象の確率について考察することができる。独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。	○	○	○		
		13. 反復試行の確率	独立な試行の意味を理解している。独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。2つの独立な試行を行うとき、その結果として起こる事象の確率について考察することができる。独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。	○	○	○		
		14. 条件付き確率	反復試行の確率を、公式を用いて求めることができる。反復試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。具体的な事象について、反復試行の確率を、興味をもって調べようとする。	○	○	○		
		15. 期待値	条件付き確率の定義、意味を理解している。条件付き確率を、公式を用いて求めることができる。確率の乗法定理を用いて、確率を求めることができる。くじ引きの確率が、引く順番に関係なく等しくなることに興味をもつ。	○	○	○		
		6	第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質 1. 角の二等分線と比	平行線の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。線分の内分と外分を理解し、内分する点と外分する点を図示することができる。三角形の内角・外角の二等分線と比の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。	○	○		○
			2. 三角形の外心、内心、重心	線分を分ける点や、三角形の角の二等分線と比について調べようとする態度がある。 外心の性質を用いて、具体的な問題を処理できる。内心の性質を用いて、具体的な問題を処理できる。重心の性質を用いて、具体的な問題を処理できる。	○	○		○
3. チェバの定理・メネラウスの定理	三角形の面積と線分の比の性質を理解している。チェバの定理を用いて、線分比を求めることができる。メネラウスの定理を用いて、線分比を求めることができる。身近な問題に対し、チェバの定理を活用できることを理解し、図形の性質に興味・関心をもつ。		○	○	○			
4. 円周角の定理	円周角の定理の逆を用いて、4点が同一円周上にあることを調べることができる。		○	○	○			

前期	6	5. 円に内接する四角形	円に内接する四角形の性質を用いて、角の大きさを求めることができる。四角形が円に内接するかどうかを判定できる。三角形の外接円と四角形の外接円の違いを認識し、円に内接する四角形の性質や四角形が円に内接する条件を理解する。三角形の外接円と四角形の外接円の違いを認識し、円に内接する四角形の性質や四角形が円に内接する条件を考察しようとする。	○	○	○	35	
		6. 円と接線	円の接線の性質を用いて、辺や線分の長さを求めることができる。円と直線の位置関係に3つの場合があることを理解している。	○	○			
		7. 接線と弦の作る角	接線と弦の作る角の定理を利用して、角の大きさを求めることができる。接線と弦の作る角についての定理の証明方法を理解する。接線と弦の作る角についての定理を証明する際に、鋭角の場合と鈍角の場合に分けて考察しようとする。	○	○	○		
	7・8	8. 方べきの定理	方べきの定理を用いて、線分の長さを求めることができる。方べきの定理の証明方法を理解する。方べきの定理は、円周角の定理や円に内接する四角形の性質などを用いて証明されることに興味をもつ。	○	○	○		
		9. 2つの円	2円の位置関係に5つの場合があることを理解している。2円の共通接線について理解し、その長さを求めることができる。2円の位置関係を、動的な面から観察することができる。2つの円の位置関係の判定条件として、中心間の距離と半径の関係について、積極的に考察しようとする。	○	○	○		
		第3節 作図	垂線を引く、垂直二等分線を引く、角の二等分線を引く、平行線を引くなどの基本的な作図を行うことができる。作図の各過程において、平面図形のどの性質を用いているかを考察できる。数学で扱う作図と、日常において図形をかくこととは、何が違うか考えてみようとする。	○	○	○		
		10. 基本の作図		○	○	○		
		11. いろいろな作図	円周角の定理を利用して、円の外部の点を通る円の接線を作図することができる。平行線と比の性質を利用して、線分を内分する点を作図することができる。正五角形の作図方法に関心をもつ。	○		○		
		12. 空間における直線と平面	空間における2直線の位置関係に3つの場合があることや、2直線のなす角を理解し、それらの問題を処理できる。直線と平面の位置関係に3つの場合があることを理解し、問題を処理できる。また、ある直線が平面上の2直線に垂直のとき、直線と平面が垂直であることを理解している。2平面の位置関係に2つの場合があることを理解している。また、2平面のなす角を理解し、問題を処理することができる。空間における図形の位置関係について考えてみようとする。	○		○		
	13. 多面体	5種類の正多面体の特徴を理解し、それに基づいて面、頂点、辺の数を求めることができる。正多面体どうしの関係を利用して、正多面体の体積を求めることができる。どんな多面体にもオイラーの多面体定理が成り立つことに興味をもち、簡単な多面体で確かめようとする。正多面体が5種類である理由に関心をもち、その理由を調べようとする。	○		○			
	9	第3章 数学と人間の活動		○		○		
		1. 約数と倍数	約数・倍数の意味を理解している。日常生活における具体的な事象の考察に、約数と倍数の考えを活用しようとする。	○		○		
		2. 素数と素因数分解	「エラトステネスのふるい」を利用して、100以下の素数を求めることができる。自然数の素因数分解を求めることができる。数学史に興味・関心をもつ。暗号技術に素因数分解の考えが活用されていることに興味・関心をもつ。	○		○		
3. 整数の割り算		整数 a を正の整数 b で割る割り算を、 a と b の間に成り立つ等式として捉えることができる。カレンダーの曜日の規則と整数の割り算の関係を理解し、問題を処理することができる。問題解決の過程を振り返って、割り算の余りの性質について考察を深めることができる。カレンダーの話題を通じて、日常に関連した法則や規則を数学を用いてとらえることに興味・関心をもつ。	○	○	○			
1. 1次不定方程式		公約数、最大公約数の意味を理解し、それらを求めることができる。素因数分解を利用して最大公約数を求める方法を理解している。また、互いに素の意味を理解し、2つの整数が互いに素であるかどうか判定できる。	○					
2. ユークリッドの互除法		互除法の原理を理解し、互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができる。互除法の原理の証明に興味・関心をもつ。数学史に興味・関心をもつ。	○		○			
3. 1次不定方程式	1次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。互除法の計算を連にたどることにより、1次不定方程式の整数解の1つを必ず見つけられる優秀性に関心をもつ。	○		○				
通信科目の授業については上記に準じるとともに、レポートの提出と成績が重要となる。							合計	70
								時間

教科	数学	科目	数学A	単位数	3単位	学年	2年次以上
使用教科書	最新 数学A(数研出版)			副教材等	プリント等		

学習の目標		
(1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、理論的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 (3) 数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、理論的に考察することができる。不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察することができる。	数学の良さを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
定期考査	定期考査(思考問題)・発表・提出物等	教師による行動観察・授業態度・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	第1章 場合の数と確率					50
		第1節 場合の数					
		1. 集合	集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。共通部分、和集合、補集合を求めることができる。集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。日常語の「かつ」「または」「…でない」との関連を認識しようとする。	○	○	○	
		2. 集合の要素の個数	要素を書き並べて表して、集合の要素の個数を求めることができる。和集合の要素の個数の公式を用いることができる。補集合の要素の個数の公式を用いることができる。日常的な事象に対して集合を考え、人数などを求めることができる。ベン図を利用して集合を図示することで、要素の個数を考察することができる。集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に数えようとする。	○	○	○	
	5	3. 樹形図、和の法則、積の法則	場合の数を、もれなく重複なく数える手段として、樹形図が有用であることを理解している。樹形図や和の法則、積の法則を用いることができる。場合の数を数える適切な方針を考察することができる。自然数の正の約数の個数を数える方法を考察することができる。1つの原則を決めて、樹形図などを利用して、もれなく重複することなく数えようとする。正の約数の個数を数えることに興味をもつ。	○	○	○	
		4. 順列	順列の用語、記号、公式を理解し、利用できる。具体的な問題を通じて、どのような場合に順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。積の法則から順列の公式を考察することができる。具体的な問題を通じて、どのような場合に順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。	○	○		
		5. 円順列と重複順列	円順列の用語、公式を理解し、利用できる。重複順列の用語、公式を理解し、利用できる。既知の順列や積の法則をもとにして、円順列、重複順列を考察することができる。具体的な問題を通じて、どのような場合に円順列、重複順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。順列、円順列、重複順列の違いに興味・関心をもつ。	○	○	○	
	6	6. 組合せ	組合せの用語、記号、公式を理解し、利用できる。組分けの問題を処理できる。同じものを含む順列の総数を求めることができる。順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。特殊な条件が付く組合せを、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。同じものを含む順列を、組合せて考察することができる。組合せの考え方を活用して、図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。	○	○	○	
		第2節 確率					
		7. 確率の意味	確率の意味を理解している。身近な試行によって起こる事象と関連づけながら、実験などを通じて確率に興味・関心をもつ。	○		○	
		8. 確率の計算	事象を集合で表すことができる。試行や事象の定義を理解している。確率の定義に基づき、事象の確率を求めることができる。試行の結果を事象としてとらえ、事象を既知の集合と結びつけて考えることができる。不確実な事象を、同様に確からしいという概念をもとに数量的にとらえることができる。	○	○		
		9. 確率の基本性質	積事象、和事象の意味を理解し、具体的な事象に対して、積事象、和事象を集合で表すことができる。事象の排反の意味を理解し、2つの事象が排反であるかを判断できる。和事象、積事象、排反、空事象、確率の基本性質を集合と関連づけて考察しようとする。			○	
		10. 和事象の確率	確率の加法定理を用いて、確率を求めることができる。一般の和事象の確率を求めることができる。一般の和事象の確率を集合と関連づけて考察しようとする。	○		○	
		7	11. 余事象の確率	余事象の確率の公式を利用して、確率を求めることができる。2つの独立な試行を行うとき、その結果として起こる事象の確率について考察することができる。独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。	○	○	
	12. 独立な試行の確率		独立な試行の意味を理解している。独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。2つの独立な試行を行うとき、その結果として起こる事象の確率について考察することができる。独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。	○	○	○	
13. 反復試行の確率	反復試行の確率を、公式を用いて求めることができる。反復試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。具体的事象について、反復試行の確率を、興味をもって調べようとする。		○	○	○		
8・9	14. 条件付き確率	条件付き確率の定義、意味を理解している。条件付き確率を、公式を用いて求めることができる。確率の乗法定理を用いて、確率を求めることができる。くじ引きの確率が、引く順番に関係なく等しくなることに興味をもつ。	○		○		
	第2章 図形の性質						
	第1節 三角形の性質						
	1. 角の二等分線と比	平行線の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。線分の内分と外分を理解し、内分する点と外分する点を図示することができる。三角形の内角・外角の二等分線と比の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。線分を分ける点や、三角形の角の二等分線と比について調べようとする態度がある。	○		○		
8・9	2. 三角形の外心、内心、重心	外心の性質を用いて、具体的な問題を処理できる。内心の性質を用いて、具体的な問題を処理できる。重心の性質を用いて、具体的な問題を処理できる。	○		○		
	3. チェバの定理・メネラウスの定理	三角形の面積と線分の比の性質を理解している。チェバの定理を用いて、線分比を求めることができる。メネラウスの定理を用いて、線分比を求めることができる。身近な問題に対し、チェバの定理を活用できることを理解し、図形の性質に興味・関心をもつ。	○		○		
	4. 円周角の定理	中学校で学んだ円周角の定理やその逆について理解している。円周角の定理を用いて、角の大きさを求めることができる。円周角の定理の逆を用いて、4点が同一円周上にあることを調べることができる。	○				

後期	10	5. 円に内接する四角形	円に内接する四角形の性質を用いて、角の大きさを求めることができる。四角形が円に内接するかどうかを判定できる。三角形の外接円と四角形の外接円の違いを認識し、円に内接する四角形の性質や四角形が円に内接する条件を理解する。三角形の外接円と四角形の外接円の違いを認識し、円に内接する四角形の性質や四角形が円に内接する条件を考察しようとする。	○	○	○
		6. 円と接線	円の接線の性質を用いて、辺や線分の長さを求めることができる。円と直線の位置関係に3つの場合があることを理解している。	○	○	
		7. 接線と弦の作る角	接線と弦の作る角の定理を利用して、角の大きさを求めることができる。接線と弦の作る角についての定理の証明方法を理解する。接線と弦の作る角についての定理を証明する際に、鋭角の場合と鈍角の場合に分けて考察しようとする。	○	○	○
	11	8. 方べきの定理	方べきの定理を用いて、線分の長さを求めることができる。方べきの定理の証明方法を理解する。方べきの定理は、円周角の定理や円に内接する四角形の性質などを用いて証明されることに興味をもつ。	○	○	○
		9. 2つの円	2円の位置関係に5つの場合があることを理解している。2円の共通接線について理解し、その長さを求めることができる。2円の位置関係を、動的な面から観察することができる。2つの円の位置関係の判定条件として、中心間の距離と半径の関係について、積極的に考察しようとする。	○	○	○
		第3節 作図	垂線を引く、垂直二等分線を引く、角の二等分線を引く、平行線を引くなどの基本的な作図を行うことができる。作図の各過程において、平面図形のどの性質を用いているかを考察できる。数学で扱う作図と、日常において図形をかくこととは、何が違うか考えてみようとする。	○	○	○
		10. 基本の作図	円周角の定理を利用して、円の外部の点を通る円の接線を作図することができる。平行線と比の性質を利用して、線分を内分する点を作図することができる。正五角形の作図方法に関心をもつ。	○	○	○
	12	11. いろいろな作図	円周角の定理を利用して、円の外部の点を通る円の接線を作図することができる。平行線と比の性質を利用して、線分を内分する点を作図することができる。正五角形の作図方法に関心をもつ。	○	○	○
		12. 空間における直線と平面	空間における2直線の位置関係に3つの場合があることや、2直線のなす角を理解し、それらの問題を処理できる。直線と平面の位置関係に3つの場合があることを理解し、問題を処理できる。また、ある直線が平面上の2直線に垂直のとき、直線と平面が垂直であることを理解している。2平面の位置関係に2つの場合があることを理解している。また、2平面のなす角を理解し、問題を処理することができる。空間における図形の位置関係について考えてみようとする。	○		○
	1	13. 多面体	5種類の正多面体の特徴を理解し、それに基づいて面、頂点、辺の数を求めることができる。正多面体どうしの関係を利用して、正多面体の体積を求めることができる。どんな多面体にもオイラーの多面体定理が成り立つことに興味をもち、簡単な多面体で確かめようとする。正多面体が5種類である理由に関心をもち、その理由を調べようとする。	○		○
		第3章 数学と人間の活動				
		1. 約数と倍数	約数・倍数の意味を理解している。日常生活における具体的な事象の考察に、約数と倍数の考えを活用しようとする。	○		○
		2. 素数と素因数分解	「エラトステネスのふるい」を利用して、100以下の素数を求めることができる。自然数の素因数分解を求めることができる。数学史に興味・関心をもつ。暗号技術に素因数分解の考えが活用されていることに興味・関心をもつ。	○		○
		3. 整数の割り算	整数 a を正の整数 b で割る割り算を、 a と b の間に成り立つ等式として捉えることができる。カレンダーの曜日の規則と整数の割り算の関係を理解し、問題を処理することができる。問題解決の過程を振り返って、割り算の余りの性質について考察を深めることができる。カレンダーの話題を通じて、日常に関連した法則や規則を数学を用いてとらえることに興味・関心をもつ。	○	○	○
	2	2. 1次不定方程式	公約数、最大公約数の意味を理解し、それらを求めることができる。素因数分解を利用して最大公約数を求める方法を理解している。また、互いに素の意味を理解し、2つの整数が互いに素であるかどうか判定できる。	○		○
1. 最大公約数		公約数、最大公約数の意味を理解し、それらを求めることができる。素因数分解を利用して最大公約数を求める方法を理解している。また、互いに素の意味を理解し、2つの整数が互いに素であるかどうか判定できる。	○		○	
2. ユークリッドの互除法		互除法の原理を理解し、互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができる。互除法の原理の証明に興味・関心をもつ。数学史に興味・関心をもつ。	○		○	
	3. 1次不定方程式	1次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。互除法の計算を逆にしたことにより、1次不定方程式の整数解の1つを必ず見つけられる優位性に関心をもつ。	○		○	

通信科目の授業については上記に準じるとともに、レポートの提出と成績が重要となる。

合計 105
時間

教科	数学	科目	数学B	単位数	2単位	学年	2年次以上
使用教科書	最新 数学B(数研出版)			副教材等	プリント等		

学習の目標

- (1) 数列, 統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学と社会生活の関りについて認識を深め, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
(2) 離散的な変化の規則性に着目し, 事象を数学的に表現し考察する力, 確率分布や標本分布の性質に着目し, 母集団の傾向を推測し判断したり, 標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力, 日常の事象や社会の事象を数学化し, 問題を解決したり, 解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。
(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
数列, 統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学と社会生活の関りについて認識を深め, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	離散的な変化の規則性に着目し, 事象を数学的に表現し考察ができる。また, 確率分布や標本分布の性質に着目し, 母集団の傾向を推測し判断したり, 標本調査の方法や結果を批判的に考察ができる。そして, 日常の事象や社会の事象を数学化し, 問題を解決したり, 解決の過程や結果を振り返って考察することができる。	数学の良さを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとしている。
定期考査(知識・技能問題)	定期考査(思考問題)・発表・提出物等	教師による行動観察・授業態度・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	第1章 数列 第1節 数列とその和 1. 数列	数列の定義, 表記について理解ができる。数列の一般項から, 各項を求めることができる。数列に関する用語, 記号を適切に用いることができる。数の並び方に興味をもち, その規則性を発見しようとしている。	○		○	35
		2. 等差数列	等差数列の公差, 一般項などを理解している。初項と公差を文字で表して, 条件から数列の一般項を決定できる。等差数列の項を書き並べて, 隣接する項の関係が考察できる。	○	○		
		3. 等差数列の和	等差数列の和の公式を, 適切に利用して数列の和が求められる。自然数の和, 奇数の和, 倍数の和が求められる。等差数列の和を工夫して求める方法に興味をもち, 等差数列の和の公式を導こうとしている。	○		○	
		4. 等比数列	等比数列の公比, 一般項などを理解している。初項と公比を文字で表して, 条件から数列の一般項を決定できる。等比数列の項を書き並べて, 隣接する項の関係が考察できる。	○	○		
	5	5. 等比数列の和	等比数列の項を書き並べて, 隣接する項の関係が考察できる。等比数列の和を工夫して求める方法に興味をもち, 等比数列の和の公式を導こうとしている。	○		○	
		6. 和の記号Σ 7. 自然数の2乗の和	記号Σの意味を理解し, Σの式を和の形で表したり, 数列の和をΣの式で表したりすることができる。Σの性質や, Σk, Σk ² などの公式を適切に用いて, Σで表された和を計算することができる。自然数の2乗の和を工夫して求める方法に興味をもち, 自然数の2乗の和の公式を導こうとしている。	○		○	
	6	8. いろいろな数列の和	第k項をkの式で表して, 初項から第n項までの和が求められる。数列の和S _n と第n項a _n の関係を理解し, 数列の一般項が求められる。初項から第n項までの和に着目して, 一般項を考察できる。f(k+1)-f(k)を用いる和の求め方に興味をもち, 具体的な問題に活用しようとする。	○	○	○	
		9. 階差数列	階差数列を利用して, もとの数列の一般項が求められる。数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。	○	○		
7	第2節 漸化式と数学的帰納法 10. 漸化式と一般項	漸化式の意味を理解し, 具体的に項が求められる。漸化式を適切に変形して, その数列の特徴を考察することができる。おき換えを利用して, 漸化式から一般項を求めることができる。初項と漸化式から一般項が求められる。初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解している。おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について, 考察しようとする。	○	○			
8・9	11. 数学的帰納法	数学的帰納法を用いて, 等式, 不等式を証明できる。数学的帰納法を用いて, 整数の性質を証明できる。自然数nに関する命題の証明には, 数学的帰納法が有効なことを理解している。数学的帰納法を利用して, いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。	○	○	○		

後期	10	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 1. 確率変数と確率分布	確率分布を計算式や分布表を用いて表すことができる。試行の結果を確率分布で表すことの意味がとらえられている。確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることよさに気づき、確率分布について積極的に考察しようとする。	○	○	○	35
		2. 確率変数の期待値 3. 分散と標準偏差	確率変数の期待値, 分散, 標準偏差を求めることができる。確率変数の期待値, 分散, 標準偏差を用いて確率分布の特徴を考察することができる。	○	○	○	
		4. 二項分布	反復試行の結果を, 二項分布を用いて表すことができる。二項分布に興味・関心をもち, さいころを投げるなどの具体的な事項について考察しようとする。	○		○	
		5. 二項分布と期待値, 分散, 標準偏差	二項分布に従う確率変数の期待値, 分散, 標準偏差を求めることができる。二項分布に従う確率変数の期待値, 分散, 標準偏差の公式について, 確率分布の定義から導出することができる。二項分布のグラフに関心をもち, 調べてみようとする。	○	○	○	
	11	6. 連続型確率変数	連続的な確率変数について理解し, 確率密度関数から確率を求めることができる。面積を利用した確率分布の表し方を理解している。	○	○		
	12	7. 正規分布	標準正規分布表を用いて, 標準正規分布に関する確率の計算ができる。正規分布に従う確率変数 X を標準正規分布に従う確率変数 Z に変換できる。標準正規分布表を用いて, 正規分布に関する確率の計算ができる。日常の身近な問題を統計的に処理するのに正規分布を利用できる。正規分布の特徴を理解し, さまざまな視点からとらえられる。連続的な確率変数である正規分布に興味をもち, 正規分布について積極的に考察しようとする。	○	○	○	
	1	8. 二項分布の正規分布による近似	二項分布に従う確率変数に関する確率の計算を, 正規分布に従う確率分布で近似して求めることができる。二項分布のグラフと正規分布曲線の関係を考察することができる。	○	○		
		第2節 統計的な推測 9. 母集団と標本	全数調査と標本調査の特徴を理解し, 適する調査方法を選ぶことができる。母集団や標本の特徴を理解しようとする。無作為抽出の方法について関心をもち, 調べてみようとする。	○		○	
		10. 標本平均の分布	母平均と母標準偏差がわかれば, 標本平均の値がどのくらいの確率で現れるか推測できることを理解している。母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。	○	○		
	2	11. 母平均の推定 12. 母比率の推定	推定にかかわる用語・記号を適切に活用することができる。信頼区間の考え方をを用いて, 母平均や母比率の推定ができる。推定や信頼区間の考え方がわかる。母平均や母比率の推定に関心を示す。	○	○	○	
		13. 仮説検定	仮説検定にかかわる用語を適切に活用することができる。仮説検定の考え方をを用いて, 日常の身近な事象に対する主張を検定することができる。仮説検定の考え方がわかる。仮説検定に関心を示す。	○	○	○	

合計

70

時間

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2単位	学年	1年次
使用教科書	科学と人間生活(実教出版)			副教材等	プリント など		

学習の目標		
自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを見通しをもって行うことで理解を深め、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な基本となる資質・能力を育成する。		
評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。	人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察したりすることにより、それを表現することができる。	自然の事物・現象について科学的に探究しようとする態度が養われている。 自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。
定期考査・小テスト・ワークシート等	定期考査(思考問題)・実験プリント・振り返りシート・発表・話し合い・活動・質問等	授業態度・実験プリント・活動・提出物・総合的な取り組み状況等

※通信科目の評価については上記に準じるとともに、レポートの提出が重要となる。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	1章 科学技術の発展	科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解すること。			○	35
		2章 物質の科学	※1節か2節のどちらかを教員が選択し、授業を行う。			○	
	5	1節 材料とその再利用	身近な材料であるプラスチックや金属の種類、性質及び用途で資源の再利用について理解すること。		○		
		1. 生活の中のさまざまな物質					
		2. 金属					
	6	3. プラスチック	身近な衣料材料の性質や用途、食品中の主な成分の性質について理解すること。	○			
4. セラミック							
7	2節 食品と衣料	※1節か2節のどちらかを教員が選択し、授業を行う。		○			
8・9	7	3章 生命の科学	植物の生育、動物の行動及びヒトの視覚と光とのかかわりについて理解すること。			○	
		1節 ヒトの生命現象		○			
		1. 私たちの生活環境と眼		○	○		
	2. ヒトの生命活動と健康の維持	○	○				
3. ヒトの生命現象とDNA	○	○					
8・9	2節 微生物とその利用	様々な微生物の存在と生態系での働き、微生物と人間生活とのかかわりについて理解すること。			○		
1. 微生物と発酵	○						

後 期	10	2. 微生物の利用 3. 生態系での微生物	※1節か2節のどちらかを教員が選択し、授業を行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	11	4章 光や熱の科学 1節 熱の性質とその利用	熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について理解すること。			<input type="checkbox"/>
		1. 熱 2. 熱の発生 3. エネルギーの変換と利用		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	12	2節 光の性質とその利用	光を中心とした電磁波の性質とその利用について理解すること。			<input type="checkbox"/>
		1. 光 2. 電磁波の利用		<input type="checkbox"/>		
	1	5章 宇宙や地球の科学 1節 太陽と地球	※1節か2節のどちらかを教員が選択し、授業を行う。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1. 太陽系の天体と人間生活 2. 潮汐と人間生活 3. 太陽と放射エネルギー		太陽や月などの身近に見られる天体と人間生活とのかかわりに、太陽系における地球について理解すること。太陽・月・地球の位置関係や地球の自転が潮汐にかかわっていることを理解すること。				<input type="checkbox"/>
2	2節 身近な自然景観と自然災害	身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、太陽の放射エネルギーによる作用や地球内部のエネルギーによる変動と関連付けて理解すること。		<input type="checkbox"/>		
	1. 身近な景観のなりたち 2. 地球内部のエネルギー 3. 自然の恵みと自然災害			<input type="checkbox"/>		
	6章 こらからの科学と人間生活	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について学習を踏まえて、そのかかわり方について考える。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
合計						35
時間						70

教科	理科	科目	物理基礎	単位数	3単位	学年	2年次以上
使用教科書	新編 物理基礎(東京書籍)			副教材等	プリント など		

学習の目標							
<p>・日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>・観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>・物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>							

評価の観点・評価方法							
(1) 知識・技能		(2) 思考・判断・表現		(3) 主体的に学習に取り組む態度			
観察、実験などを通して、物理の基本法則について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		物理現象に対して、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。		物理に関する事象・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。			
定期考査・小テスト・ワークシート等		定期考査(思考問題)・実験プリント・振り返りシート・発表・話し合い・活動・質問等		授業態度・実験プリント・活動・提出物・総合的な取り組み状況等			

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	1編 物体の運動とエネルギー 1章 直線運動の世界	・運動している物体のようすを表すのに必要な物理量について理解する。	○		○	
			・等速直線運動のx-tグラフやv-tグラフの特徴について理解する。	○	○		
			・実験結果をもとに、速度と時間の関係を見いだす。	○	○	○	
	5		・自由落下運動のようすを表す式について、等加速度直線運動の式から導けることを理解する。	○	○	○	
			・投げた物体のようすをグラフで表すときの軸の取り方と式の間接を知る。	○	○		
			・水平投射、斜めに投げ上げた物体の運動について理解を深める。	○	○		
	6	2章 力と運動の法則	・力の3要素について理解し、必要に応じ演習を通して、力の合成と分解のしかたの理解を深める。	○		○	
			・身近な例を通して面から受ける力について考える。ばねの伸びや縮みとはたらく力の大きさについて理解する。	○	○		
			・身近な例をもとに、慣性の法則について理解する。	○	○		
	7		・物体にはたらく力、物体に生じる加速度、物体の質量についての関係(運動の法則)と運動方程式について理解し、ニュートンの運動の3法則について知る。	○	○	○	
			・綱引きを例に、動摩擦力の学習をもとにして、物体が静止しているときの摩擦力に気付く。	○		○	
			・アルミニウムカップを用いて、重さと空気抵抗の関係を実感する。船の例をもとに、水深と水圧、大気圧について理解する。	○	○		
8・9	3章 力学的エネルギー	・日常生活の中で使用するエネルギーに着目し、考える。	○				
		・荷物を持って階段を上がることを例に、仕事や仕事の効率について考える。	○		○		
		・身の回りの現象を例に、運動エネルギーや位置エネルギーについて考える。	○				

後期	10		・運動エネルギーと位置エネルギーが移り変わる運動について定量的な実験を行い、力学的エネルギーとの関係について理解する。	○	○	○	
			・必要に応じ、演習を通して、力学的エネルギー保存の法則について理解を深める。	○			
	11	2編 さまざまな物理現象とエネルギー					
		1章 熱	・温度が熱運動の激しさを表し、熱がエネルギーであることについて理解する。	○			
			・調理などで使用される器具などをもとに、熱量の保存や身のまわりのもとの比熱容量の関係について考える。	○	○	○	
			・熱を加える以外にも内部エネルギーを大きくすることができことや、熱効率について理解する。	○		○	
	12	2章 波	・波が波源の振動のエネルギーを伝えていく現象であることや波の速さ、波長、周期、振動数の関係を理解する。	○		○	
			・横波と縦波、重ね合わせ、定在波について理解する。	○	○		
			・弦楽器や管楽器の固有振動について考える。	○	○	○	
	1	3章 電気	・電流と電気抵抗、回路、電圧と電気抵抗について理解する。	○	○	○	
			・家庭用コンセントを例に、磁力や磁場、直流と交流について理解する。	○	○		
			・電磁波が身近なところでどのように利用されているか考える。	○			
	2	4章 エネルギーとその利用	・エネルギー保存の法則について理解する。	○			
			・放射能と放射線について理解し、エネルギー資源をどのように利用していくべきか考える。	○		○	
		2年次生の学習内容 演習・実験を行う	・知識を定着させ、理解を深める。	○		○	
合計						35	
時間						70	

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	3単位	学年	2年次以上
使用教科書	新編 化学基礎(東京書籍)			副教材等	プリント など		

学習の目標		
<p>・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</p> <p>・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>		
評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
物質とその変化についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
定期考査・小テスト・ワークシート等	定期考査(思考問題)・実験プリント・振り返りシート・発表・話し合い・活動・質問等	授業態度・実験プリント・活動・提出物・総合的な取り組み状況等

※通信科目の評価については上記に準じるとともに、レポートの提出が重要となる。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		編・章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	1編 科学と人間生活 1章 化学とは何か 身のまわりのさまざまな化学	<ul style="list-style-type: none"> 物質には性質があり、私たちはそれを利用して生活していることを理解する。 純物質と混合物の性質を理解する。 混合物を純物質に分離する方法を理解する。 	○		○	
		2章 物質の成分と構成元素 1節 物質の成分		○	○	○	
	5	2節 物質の構成元素	<ul style="list-style-type: none"> 物質は約120種類の元素からつくられていることを理解する。 純物質(単体と化合物)・同素体・炎色反応(元素を確認)について理解する。 	○		○	
		3節 物質の三態	<ul style="list-style-type: none"> 物質には三態があることを理解し、三態における熱運動について推察する。 物理変化・化学変化・状態変化の違いを理解する。 	○	○	○	
		2編 物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表 1節 原子の構造	<ul style="list-style-type: none"> 物質を構成する粒子が原子であることに気づく。 原子の構造(陽子・中性子・電子)について理解する。 原子の電子配置について理解する。 	○		○	
	6	2節 電子配置と周期表	<ul style="list-style-type: none"> 元素の周期表を理解し、元素の性質の規則性について考察する。 	○	○	○	
		2章 化学結合 1節 イオンとイオン結合	<ul style="list-style-type: none"> 電子配置からイオンの生成を理解する。 イオン化エネルギー、イオン結合、イオン結晶の性質を理解する。 	○		○	
		2節 分子と共有結合	<ul style="list-style-type: none"> 分子は、非金属元素の原子が結びついてきた粒子であることを知る。 共有結合、分子式や構造式、分子の極性、共有結合の結晶について理解する。 金属結合、金属の性質とその利用について理解する。 化学結合と結晶の分類についてまとめる。 	○		○	
	7	3節 金属と金属結合 4節 化学結合と物質の分類	<ul style="list-style-type: none"> 原子量・分子量・式量について理解する。 	○	○	○	
		3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式 1節 原子量・分子量・式量	<ul style="list-style-type: none"> 単位としての物質量を理解し、物質量と粒子の数・質量・気体の体積の関係を理解する。 	○	○	○	
		2節 物質質量	<ul style="list-style-type: none"> 質量パーセント濃度を理解する モル濃度を理解する 	○		○	
	8・9	3節 溶液の濃度		○	○	○	

後 期	10	4節 化学反応の表し方	・化学反応式、イオン反応式の書き方を理解する。	○	○
		5節 化学反応式の表す量的関係	・化学反応式の表す量的な関係について理解し、反応前後で変化する物質の質量や体積を予想する。	○	○
	11	2章 酸と塩基 1節 酸と塩基	・酸と塩基の性質、酸と塩基の定義について理解する。 ・酸と塩基の価数、酸と塩基の強弱について理解する。 ・pHの表す数値の意味について理解し、酸性、塩基性の強弱の表し方を学ぶ。	○	○
		2節 水素イオン濃度とpH	・pHの指示薬とpHの測定について理解する。	○	○
	12	3節 中和反応と塩の生成	・酸と塩基の組み合わせで、どのような化学反応式が起こるか理解する。 ・塩の種類について理解する。	○	○
		4節 中和滴定	・中和反応の量的関係について理解する。 ・中和滴定の操作について理解する。	○	○
				・滴定曲線について理解する。	○
	1	3章 酸化還元反応 1節 酸化と還元	・酸素、水素、電子の授受と酸化、還元について理解する。 ・酸化数と酸化還元反応について理解する。	○	○
		2節 酸化剤と還元剤	・酸化剤と還元剤の定義について理解する。 ・酸化剤と還元剤のイオン反応式の作り方を理解する。 ・電子の授受と酸化還元反応式について理解する。 ・酸化剤と還元剤の働きの強さについて理解する。 ・酸化還元滴定について理解する。	○	○
			・金属のイオン化傾向について理解する。 ・金属の反応性について理解する。	○	○
	2	3節 金属の酸化還元反応	・電池のしくみについて理解する。	○	○
		4節 酸化還元反応の応用	・金属の製錬について理解する。 ・電気分解について理解する。	○	○
					53
	合計				105
					時間

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	3単位	学年	2年次以上
使用教科書	高等学校 新生物基礎(第一学習社)			副教材等	プリント など		

学習の目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 ・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
 ・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
定期考査・小テスト・ワークシート等	定期考査(思考問題)・実験プリント・振り返りシート・発表・話し合い・活動・質問等	授業態度・実験プリント・活動・提出物・総合的な取り組み状況等

※通信科目の評価については上記に準じるとともに、レポートの提出が重要となる。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	第1章 生物の特徴 探究的な学習の進め方 観察・実験・調査の手引き	・科学的な探究の流れを理解する ・光学顕微鏡の操作を理解する	○	○		
		第1節 生物の共通性	・多様な生物の共通性を見出す(観察1) ・生物にみられる3つの共通性を理解する	○	○		
			・生物の共通性は起源が共有されるものであると考察できる	○	○	○	
	5	第2節 生物のエネルギー	・原核生物と真核生物にみられる細胞構造と細胞小器官の特徴を理解する	○			
			・生命活動におけるエネルギーの重要性を理解する	○	○		
			・ATPの構造とその役割を資料から読み取ることができる ・カタラーゼの触媒作用が理解できる	○		○	
	6	第2章 遺伝子の働き 第1節 遺伝情報とDNA	・身近な材料を用いてDNAを抽出する	○			
			・DNAの塩基の相補的な結合を示した資料からDNAの構造の特徴を見だし、DNAの基本的な構造を理解する	○		○	
	7	第2節 遺伝情報とタンパク質合成	・玉ねぎの根端資料を用いて、細胞周期を理解する	○	○		
			・生体内には多種多様なタンパク質が存在し、酵素などとしてさまざまな働きをしていることを理解する	○	○		
8・9		・DNAの塩基配列がmRNAの塩基配列に写し取られ(転写)、これがアミノ酸配列に置き換えられる(翻訳)という流れを理解する	○	○			
		・遺伝子が常に発現しているのではなく、細胞によって発現する遺伝子が異なっていることを理解する	○	○	○		

後 期	10	第3章 ヒトのからだの調節	・恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する	○		
		第1節 からだの調節と情報の伝達	・からだには体内環境の変化を情報として伝達するしくみがあることを見だし、自律神経系と内分泌系による調節について理解する(運動前後の心拍数の変化測定やチロキシン分泌調節を例に理解する)	○	○	○
			・糖尿病の原因と症状について理解する	○	○	
	11		・体温調節のしくみについて理解する	○	○	
			・血液凝固のしくみと体内環境の維持との関係について理解する	○		
			・生体防御について理解する	○	○	
	12	第2節 免疫	・資料から、白血球の役割について理解を深める	○	○	○
			・自然免疫と獲得免疫の病原体排除の流れを理解する	○		○
			・二次応答について、資料をもとに同じ感染症にかかりにくい理由を考察する	○	○	○
	1		・身近な免疫に関する疾患や医療方法について理解する	○	○	
		第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移	・植生は相観によって3つに大別され、森林・草原・荒原の特徴を理解する ・グラフを通じて光の強さと光合成速度の関係を、グラフを通じて理解する ・植生は不変ではなく、遷移していることを調査結果をもとに考察し、理解する			
			・湿生遷移、二次遷移について理解する ・現存するバイオームと、その地域における気温や降水量の分布を対応させた資料から、多様なバイオームがみられることを理解する	○		○
	2	第2節 生態系とその保全	・土壌生態系を構成する生物の観察から、身近な環境でみられる生物の種の多様性に気づく ・生態系の種の多様性や個体数は環境と密接に関係していることを理解する	○	○	
			・食物連鎖を通じて間接的に他生物に影響を与えることがあることを理解する ・キーストーン種によって生態系のバランスが保たれている場合があることを理解する	○	○	○
		2年次生の学習内容 演習・実験を行う	・知識を定着させ、理解を深める	○	○	
					35	
					合計	70
					時間	

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	3単位	学年	2年次以上
使用教科書	高等学校 地学基礎(啓林館)			副教材等	プリント など		

学習の目標		
地球や地学現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地学現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地学現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・地球や地学現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、平和・自然環境の保全に寄与する態度を養う。		
評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
地球や地学現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	地球や地学現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	地球や地学現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
定期考査・小テスト・ワークシート等	定期考査(思考問題)・実験プリント・振り返りシート・発表・話し合い・活動・質問等	授業態度・実験プリント・活動・提出物・総合的な取り組み状況等

※通信科目の評価については上記に準じるとともに、レポートの提出が重要となる。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	第1部 固体地球とその活動 第1章 地球	・地球の概観について学び、その内部構造について理解する				52
		第1節 地球の概観		○		○	
		第2節 地球の内部構造		○		○	
	5	第2章 活動する地球	・プレートと地球の活動について学び、地質構造、変成岩の形成、地震、火山活動、火成岩の形成について理解する。				
		第1節 プレートテクトニクスと地球の活動		○	○	○	
		第2節 地震		○	○	○	
	6	第3節 火山活動と火成岩の形成	【第4部 自然と共生:第2節 地震災害】	○	○	○	
			【第4部 自然と共生:第2節 火山災害】				
	7	第2部 大気と海洋 第1章 大気の構造	・大気の層構造および水と気象の関係について学ぶ				
		第1節 大気圏		○		○	
	8・9	第2節 水と気象		○	○	○	
		第2章 太陽放射と大気・海洋の運動 第1節 地球のエネルギー収支	・地球全体のエネルギー収支について理解し、大気の大循環や海水の循環について学ぶ	○	○	○	
10	第2節 大気の大循環		○	○	○		
	第3節 海水の循環		○		○		
	第3章 日本の天気 第1節 日本の位置	・日本で見られる冬から春、夏から秋への季節の気象について学ぶ	○		○		

後期	11	第2節 冬から春の天気	【第4部 自然と共生:第3節 気象災害】	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		第3節 夏から秋の天気		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	12	第3部 移り変わる地球 第1章 地球の誕生	・宇宙のはじまりの様子や太陽系の誕生、および太陽系の各天体の特徴について学ぶ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		第1節 宇宙の誕生		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	1	第2節 太陽系の誕生	・古生物の変遷と地球環境の変化について学ぶ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		第2章 地球と生命の進化 第1節 先カンブリア時代		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		第2節 顕生代		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2	第3章 地球史の読み方 第1節 地層からわかること	・堆積岩とその形成や地層について学び、地球の歴史の組み立てについて理解する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		第2節 地層の形成 第3節 地層の読み方		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		第4部 自然との共生 第1節 地球環境と人類		・地球環境に及ぼす人間活動の影響について理解し、日本の自然災害と防災について学ぶ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
第4節 災害と社会 第5節 人間生活と地球環境の変化		<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
合計				53	105	時間

教科	外国語	科目	英語コミュニケーション I	単位数	3単位	学年	1年次
使用教科書	All Aboard! English Communication I (東京書籍)			副教材等	なし		

学習の目標

○日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、

- ・必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
- ・必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
- ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。
- ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。
- ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。

評価規準(評価の観点及び趣旨)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

学期	月	記録に残す評価の領域					単元	題材内容	評価方法及び内容
		L	R	S I	S P	W			
前期	4月 5月 6月						Warm-up 1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベット ・教室で使う表現 ・辞書の使い方/疑問詞 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを使って単語を正確に書き、発音する。 ・授業でよく使われる英語表現を理解し、使ってみる。 ・疑問詞のある疑問文と答え方を学習する。
				○			Pre-Lesson 1 My name is Ito Neko	・be 動詞	【やりとり】名前・性格・特徴などについて自己紹介する。
				○			Pre-Lesson 2 I like Junk Food	・一般動詞	【やりとり】自己紹介に日常の行動や好みを付け加える。
				○			Lesson 1 Breakfast around the World	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の朝食を紹介するスピーチ ・過去形 	【やりとり】好きな食べ物について質問し合う。
		○	○	○			前期中間考査 (Pre-Lesson 1、Pre-Lesson 2、Lesson 1)		<ul style="list-style-type: none"> ・リスニングテスト ・スピーキングテスト ・筆記テスト(R、W)
	7月 8月 9月					○	Lesson 2 Australia's Cute Quokkas	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアの野生動物クオッカと観光のルール ・進行形: <be 動詞+動詞の-ing 形> 	【発表】好きな動物について、理由とともに伝える。
						○	Lesson 3 A Train Driver In Sanriku	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地を運行する列車運転士のスピーチ ・助動詞: can, will 	【書く】ある場所への行き方とそこでできることについて調べ、説明を書く。
						○	Lesson 4 A Miracle Mirror	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の観光地について書かれたメール ・to 不定詞: <to+動詞の原形> 	【書く】行ってみたい場所と理由を伝える。
		○	○		○	○	前期期末考査 (Lesson 2、Lesson 3、Lesson 4)		<ul style="list-style-type: none"> ・リスニングテスト ・スピーキングテスト ・筆記テスト(R、W)

学 期	月	記録に残す 評価の領域					単元	題材内容	評価方法及び内容
		L	R	S I	S P	W			
後 期	10月 11月 12月			○			Lesson5 Learning from the Sea	・長浜高校水族館部のユニークな部活動について ・動名詞:〈動詞の-ing形〉	【やりとり】将来の夢について述べる。
					○		Lesson6 A Funny Picture from the Edo Period	・江戸時代の浮世絵師, 歌川国芳についてのスピーチ ・受け身:〈be 動詞+過去分詞〉	【発表】自分の好きな絵についてのスピーチをする。
						○	Lesson7 A Diary of Hope	・アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業 ・比較表現:〈-er〉〈the -est〉〈as+原級+as〉	【書く】関心のある人物について調べ、書く。
		○	○		○	○	後期中間考査 (Lesson5、Lesson6、Lesson7)		・リスニングテスト ・スピーキングテスト ・筆記テスト(R、W)
	12月 1月 2月				○		Lesson8 A Door to a New Life	・ロボットカフェを紹介する実況中継 ・現在完了形:〈have[has]+過去分詞〉	【発表】人の生活を豊かにするロボットについて考え、提案する。
						○	Lesson9 Fighting Plastic Pollution	・プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動 ・名詞を後ろから説明する分詞	【書く】プラスチックごみ問題についてできることを考え、書く。
				○			Lesson10 Pigs from across the Sea	・第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、現在の交流 ・関係代名詞:who, which	【やりとり】海外の文化や社会に対する理解を深める活動について述べる。
		○	○		○	○	後期期末考査 (Lesson8、Lesson9、Lesson10)		・リスニングテスト ・スピーキングテスト ・筆記テスト(R、W)
							合計		105 時間

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4単位	学年	2年次以上
使用教科書	All Aboard! English Communication II (東京書籍)		副教材等	なし			

学習の目標

- 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、
- 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
 - 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
 - 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。
 - 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。
 - 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。

評価規準(評価の観点及び趣旨)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>

学 期	月	記録に残す 評価の領域					単元	題材内容	評価方法及び内容
		L	R	S I	S P	W			
前 期	4月 5月 6月						Pre-Lesson My Plans for This Year 今年やってみたいこと	新学期にあたり、今年の計画について考え、クラスメートと対話したり、インタビューしたりする。	今年やってみたいことについて、英語で述べる。
					○		Lesson 1 A Colorful Island ブラーノ島	・イタリアのブラーノ島への旅行を報告するSNSを通して、その島の特色について学習する。 ・関係代名詞: what	【発表】海外で行ってみたい場所について、英語で述べる。
				○			Lesson 2 With the Beatles サムのリクエスト	・曲をリクエストしたラジオ番組の聴取者とディスクジョッキーの対話を通して、世代を超えて人気のあるバンドについて学習する。 ・比較表現: more, the most	【やりとり】世代を超えて人気のある人物について、英語で述べる。
					○		Lesson 3 Wild Men ワイルドマンの世界	・ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」についてのスピーチを通して、人間社会と自然について考える。 ・it の用法	【書く】身近な行事について、英語で紹介する。
		○	○		○	○	前期中間考査 (Lesson 1, 2, 3)		・リスニングテスト・スピーキングテスト ・筆記テスト(R,W)
	7月 8月 9月					○	Lesson 4 Little Hero ハチドリのはずく	・世界最小の鳥であるハチドリを紹介する記事とハチドリの物語を通して、不断の努力と不屈の心について考える。 ・間接疑問文	【書く】自分の好きな物語を英語で紹介する。
					○		Lesson 5 Special Makeup in Kabuki 歌舞伎メイクの物語	・日本の伝統文化である歌舞伎と隈取について学習する。 ・to不定詞を含む表現	【発表】日本の伝統文化について、英語で説明する。
							Reading 1 Mujina	江戸時代を舞台にした怪談を読み、情景や登場人物の心情を読み取る。	情景や登場人物の心情を想像しながら、怪談を題材にした物語を暗唱する。
		○	○		○	○	前期末考査 (Lesson 4, Lesson 5, Reading)		・リスニングテスト・スピーキングテスト ・筆記テスト(R,W)

学期	月	記録に残す 評価の領域					単元	題材内容	評価方法及び内容
		L	R	S I	S P	W			
後期	10月 11月 12月					○	Lesson 6 Seeds for Future Generations 伝統野菜を未来につなぐ	・海外の高校生に向けた、伝統野菜についてのグループ発表を通して、伝統の継続について考える。 ・動詞の目的語になる if 節	【書く】地元で有名な場所やものについて、英語で説明する。
				○			Lesson 7 Over the Wall アートで世界をつなぐ	・世界中で壁画を描く活動についての話を通して、世界の人々と交流する方法について学習する。 ・関係副詞: where, when	【やりとり】世界の人々と交流する方法について、英語で述べる。
					○		Lesson 8 Inspiration from Nature 自然のデザインに学ぶ	・生物模倣についてのオンライン講演の授業を通して、自然のデザインをヒントに開発された製品について学習する。 ・知覚動詞	【発表】自然界のデザインをヒントにした製品について、英語で発表する。
		○	○		○	○	後期中間考査 (Lesson 6、Lesson 7、Lesson 8)		・リスニングテスト・スピーキングテスト ・筆記テスト(R,W)
	12月 1月 2月			○			Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate 甘いチョコレートの苦い現実	・チョコレートをめぐる現実を取り上げた雑誌記事を通して、カカオ農園の実態と児童労働及びその解決策について学習する。 ・使役動詞	【やりとり】社会的な問題について、英語で意見を述べる。
						○	Lesson 10 Fighting Angel ナイチンゲール	・医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯について学習する。 ・分詞構文	【書く】職業について、英語で説明する。
							Reading 2 Bear's Pie	「アメリカで、ある小さなレストランを営む夫婦には、10年前に家を出た息子がいた」という内容の朗読劇の結末を考えて、それを演じる。	登場人物の気持ちを考えながら朗読劇を演じる。
		○	○	○		○	後期期末考査 (Lesson 9、Lesson 10、Reading 2)		・リスニングテスト・スピーキングテスト ・筆記テスト(R,W)
合計								140 時間	

教科	外国語	科目	論理・表現 I	単位数	2単位	学年	2年次以上
使用教科書	MY WAY Logic and Expression I (三省堂)		副教材等	なし			

学習の目標

「話すこと」日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、

【やり取り】

- ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。
- ・ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝え合うことができるようにする。

【発表】

- ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。
- ・スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝えることができるようにする。

「書くこと」日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、

- ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。
- ・聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。

評価規準(評価の観点及び趣旨)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>

学期	月	記録に残す評価の領域					単元	題材内容	評価方法及び内容
		L	R	SI	SP	W			
前期	4月			○			Lesson1	(Part1)・学校の場所について、事実を尋ねたり、初対面のあいさつをしたりする。・be動詞の現在形	【SI】学校の場所について、事実などを尋ねたり、初対面のあいさつをしたりしている。
	5月						Let's talk about Ourselves	(Part2)・自分自身のことについて、事実や自分の考え、気持ちを発表する。・一般動詞の現在形	【SP】自分自身のことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、発表している。
	6月							Lesson2	(Part1)・好きだった教科について、事実や自分の考え、気持ちを伝え合う。・動詞の過去形
							School Life	(Part2)・部活動について、事実や自分の考え、気持ちを書く。・現在進行形、過去進行形	【W】部活動について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、正確に書いている。
				○	○	○	前期中間考査 (Lesson1、Lesson2)		・スピーキングテスト ・筆記テスト (Grammar, W)
	7月			○			Lesson3	(Part1)・週末の予定について、事実や自分の考え、気持ちを伝え合う。・未来表現	【SI】週末の予定について、事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合っている。
	8月						The Arts	(Part2)・好きな絵について、事実や自分の考え、気持ちを発表する。 ・基本時制(現在形、過去形、未来表現)	【SP】好きな絵について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、発表している。
	9月					○		Lesson4	(Part1)・注文したい料理について、事実や自分の考え、気持ちを伝え合う。・現在完了形(完了、経験)
							Food and Culture	(Part2)・日本の食文化について、事実や自分の考え、気持ちを整理し、書く。 ・現在完了形(継続)、現在完了進行形	【W】日本の食文化について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、正確に書いている。

学 期	月	記録に残す 評価の領域					単元	題材内容	評価方法及び内容
		L	R	SI	SP	W			
				○			Lesson5 Welcome to Our Town	(Part1)・観光の目的地について、事実や自分の考え、気持ちを伝え合う。・助動詞	【SI】観光の目的地について、事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合っている。
					○			(Part2)・地域の特徴やマスコットキャラクターについて、事実や自分の考え、気持ちを発表する。・受動態	【SP】地域の特徴やマスコットキャラクターについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、発表している。
				○	○	○	前期期末考査 (Lesson3, Lesson4, Lesson5)	・スピーキングテスト ・筆記テスト (Grammar, W)	
後 期	10月 11月			○			Lesson6 Travelling Abroad	(Part1)・買いたいおみやげについて、事実や自分の考え、気持ちを伝え合う。 ・不定詞(名詞的用法、形容詞的用法)	【SI】買いたいおみやげについて、事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合っている。
						○		(Part2)・旅行での出来事について、事実を書く。 ・不定詞(副詞的用法など)	【W】旅行での出来事について、事実などを整理し、正確に書いている。
			○			Lesson7 Sports	(Part1)・スポーツの試合について、事実を伝え合う。・動名詞	【SI】スポーツの試合について、事実などを伝え合っている。	
				○			(Part2)・車いす競技について、事実や自分の考え、気持ちを発表するための基本的な語句や文を身に付ける。・分詞による後置修飾、分詞構文	【SP】車いす競技について、基本的な語句や文を用いて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、発表している。	
			○	○	○	後期中間考査 (Lesson6, Lesson7)	・スピーキングテスト ・筆記テスト (Grammar, W)		
後 期	12月 1月 2月			○			Lesson8 Everyday Technology	(Part1)・紙の本と電子書籍のよさについて、事実や自分の考え、気持ちを伝え合う。・比較(比較級)	【SI】紙の本と電子書籍のよさについて、事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合っている。
						○		(Part2)・科学技術製品について、事実や自分の考え、気持ちを書く。・比較(最上級、同等比較)	【W】科学技術製品について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、正確に書いている。
			○			Lesson9 Take Care	(Part1)・身体の具合について、事実を伝え合う。 ・関係代名詞(主格、目的格)	【SI】身体の具合について、事実などを伝え合っている。	
				○			(Part2)・健康について、事実や自分の考え、気持ちを発表する。・関係代名詞(目的格の省略など)	【SP】健康について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、発表している。	
			○			Lesson10 SDGs – Take Action!	(Part1)・SDGsについて、事実や自分の考え、気持ちを伝え合う。・関係副詞	【SI】SDGsについて、事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合っている。	
					○		(Part2)・SDGsについて、事実や自分の考え、気持ちを書く。・仮定法	【W】SDGsについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、正確に書いている。	
			○	○	○	後期期末考査 (Lesson8, Lesson9, Lesson10)	・スピーキングテスト ・筆記テスト (Grammar, W)		
合計								70時間	

教科	保健・体育	科目	保健	単位数	1単位	学年	1年次
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)			副教材等	現代保健体育ノート		

学習の目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに技能を身に付ける。 ・健康について考え、合理的、計画的な解決に向けて取り組み、目的や状況に応じて伝える力を身に付ける。 ・生涯を通じて自他の健康の保持増進を支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を目指す。 		

評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・各種の指標や疾病構造の変化を通して健康を保持増進するための課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康や疾病構造の変化には、科学技術の発達、及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が深く関わっていることについて、理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見・理解している。 ・健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて簡単に説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と健康について各単元で健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・保健ノート取り組み ・課題プリント 	定期考査(思考問題) <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート・振り返りシート・発表・話し合い ・活動・質問等 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度や姿勢・教科書・ノート ・筆記用具の準備 ・ノート、レポートの記述・各種提出物(総合的な取り組み状況等)

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間配当	
		章・節		(1)	(2)	(3)		
前期	4	オリエンテーション	学習内容の概要、評価基準等。				18	
		健康の考え方と成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな健康の考え方。 ・健康を成り立たせている要因等について理解する。 					
		生活習慣病の予防と回復	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国の健康水準の変化とその背景。 ・わが国の現在の健康問題等について理解する。 					
	5	生活習慣病の予防と回復	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病の種類と要因。 ・生活習慣病の一次予防、二次予防等について理解する。 		○	○		○
		がんの原因と予防	<ul style="list-style-type: none"> ・がんの種類や原因。 ・がんの一次予防と二次予防。 					
		がんの治療と回復	<ul style="list-style-type: none"> ・がんのおもな治療法や緩和とケア。 ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策等について理解する。 					
	6	運動と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と運動の関係。 ・目的に応じた健康的な運動のしかた。 					
		食事と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・食事と健康の関係。 ・健康的な食事のとり方等について理解する。 		○	○		○
		休養・睡眠と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方。 ・健康と睡眠の関係及び健康によい睡眠のとり方等について理解する。 					
	7	喫煙と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙者やその周囲の人に起こる害。 ・喫煙対策。 					
飲酒と健康		<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響。 ・飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策等について理解する。 		○	○	○		
8・9	薬物乱用と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響。 ・薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策例等について理解する。 						

後期	10	精神疾患の特徴	・精神疾患を予防する方法。 ・精神疾患の早期発見等について理解する。				
		精神疾患の予防	・精神疾患を予防する方法。 ・精神疾患の早期発見等について理解する。	○	○	○	
		精神疾患からの回復	・精神疾患の治療。 ・精神疾患の適切な治療や回復のために必要な社会環境等について理解する。				
	11	感染症の予防	・感染症の予防対策について3原則。 ・感染症、個人と社会の対策等について理解する。				
		性感染症・エイズとその予防	・性感染症・エイズがほかの感染症。 ・性感染症・エイズの予防とその対策等について理解する。	○	○	○	
	12	健康に関する意思決定・行動選択	・意思決定・行動選択に影響を与える要因。 ・健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫等について理解する。	○	○	○	
		健康に関する環境	・健康を保持増進するための環境。 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくり等について理解する。				
	1	事故の現状と発生要因	・事故とその被害 ・事故の発生に関する要因等について理解する。				
		安全な社会の形成	・自他の安全を確保する行動 ・安全を確保する社会の取り組み等について理解する。	○	○	○	
		交通における安全	・交通事故防止のための取り組み ・交通事故と運転者の責任等について理解する。				
	2	応急手当の意義と基本	・応急手当の意義 ・応急手当の手順等について理解する。				
		日常的な応急手当	・けがに応じた応急手当 ・熱中症の応急手当等について理解する。	○	○	○	
		心肺蘇生法	・心肺蘇生法の意義と蘇生法について理解する。				
					合計	35	
						時間	

17

教科	保健・体育	科目	保健	単位数	1単位	学年	2年次
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)			副教材等	現代保健体育ノート		

学習の目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに技能を身に付ける。 ・健康について考え、合理的、計画的な解決に向けて取り組み、目的や状況に応じて伝える力を身に付ける。 ・生涯を通じて自他の健康の保持増進を支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を目指す。 		

評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・各種の指標や疾病構造の変化を通して健康を保持増進するための課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康や疾病構造の変化には、科学技術の発達、及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が深く関わっていることについて、理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見・理解している。 ・健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて簡単に説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と健康について各単元で健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・保健ノート取り組み ・課題プリント 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査(思考問題) ・ワークシート・振り返りシート・発表・話し合い ・活動・質問等 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度や姿勢・教科書・ノート ・ノート、レポートの記述・各種提出物(総合的な取り組み状況等)

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	オリエンテーション	学習内容の概要、評価基準等。				18
		ステージと健康	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージと死亡や健康。 ・各ライフステージにおける健康課題とその支援等について理解する。 	○	○	○	
	5	思春期と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期の体と健康。 ・思春期の心と健康等について理解する。 				
		性意識と性行動の選択	<ul style="list-style-type: none"> ・性意識とその尊重。 ・性に関する情報と性行動等について理解する。 				
	6	妊娠・出産と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・受精・妊娠・出産。 ・母子保健サービスの活用等について理解する。 	○	○	○	
		避妊と人工妊娠中絶	<ul style="list-style-type: none"> ・家族計画の意義と避妊法。 ・人工妊娠中絶等について理解する。 ・性について考えてみよう。 				
	7	結婚生活と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚生活の基盤となる心身の発達。 ・結婚生活と家族の健康等について理解する。 				
		中高年期と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢による変化と健康。 ・高齢者の健康を支える取り組み等について理解する。 				
	8・9	働くことと健康	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことと健康の関わり。 ・働き方と健康問題の変化等について理解する。 				
労働災害と健康		<ul style="list-style-type: none"> ・労働災害とその要因。 ・労働災害の防止等について理解する。 	○	○	○		
		健康的な職業生活	<ul style="list-style-type: none"> ・職場における取組。 ・仕事と生活の調和等について理解する。 				

後期	10	大気汚染と健康 水質汚濁、土壌汚染とその影響	<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染の原因と健康影響 ・大気汚染にかかわる地球規模の問題等について理解する。 ・水質汚濁とその健康影響。 ・土壌汚染とその健康影響。 ・大気汚染、水質汚濁、土壌汚染のかかわりについて等について理解する。 				
	11	環境と健康にかかわる対策	<ul style="list-style-type: none"> ・環境汚染の防止とその対策。 ・産業廃棄物いつの処理と健康等について理解する。 	○	○	○	
		ごみ処理と上下水道の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの処理の現状。 ・安全で良質な水の確保等について理解する。 ・過去の公害や海洋プラスチックについて考えてみよう 				
	12	食品の安全性	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性と健康。 ・食品の安全性に関する今日的課題等について理解する。 				
		食品衛生にかかわる活動	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性の確保。 ・食品の安全と私たちの役割等について理解する。 ・食品の広告について分析しよう。 	○	○	○	
	1	保健サービスとその活用	<ul style="list-style-type: none"> ・保健行政の役割。 ・保健サービスの活用等について理解する。 				
		医療サービスとその活用	<ul style="list-style-type: none"> ・医療の供給と医療保険。 ・医療機関と医療サービスの活用等について理解する。 				
		医薬品の制度とその活用	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の種類とその活用。 ・医薬品の副作用と安全性を守る取り組み等について理解する。 				
	2		<ul style="list-style-type: none"> ・薬害について知ろう。 	○	○	○	
		さまざまな健康活動や社会的対策 健康に関する環境づくりと社会参加	<ul style="list-style-type: none"> ・健康を支える保健活動と社会的対策等について理解する ・健康と環境づくり。 ・環境づくりへのさや解散かか情報の活用等について理解する。 ・健康対策について考えてみよう 				
	合計						35
	時間						

教科	保健・体育	科目	体育	単位数	2単位	学年	1年次
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標		
<p>・運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の多様性や体力の必要性について理解する。</p> <p>・運動を継続するために課題を発見し、解決に向けて思考・判断するとともに、自他の考えたことを伝えることができる。</p> <p>・競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・個の多様性を理解し、これらを大切に考え運動を楽しむ態度を身に付ける。</p>		

評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的・計画的な実践に関する具体的な知識を身に付けている。 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。また、健康や安全について必要な知識を身に付けている。	自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し、それらを表現している。また、個人及び社会生活における健康課題を発見しその解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表現している。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる。運動の合理的・計画的実践に主体的に取り組むことができる。また、健康を優先し、自他の健康と保持増進に取り組む健康な社会づくりに主体的に取り組もうとしている。
基礎体力、スポーツテスト、運動技能、運動の基礎。ゲームやゲーム運営、審判等総合鉄器な取り組み。	スポーツスキル、健康管理、安全管理、グループ活動等総合的な取り組み。	出席の状況。授業への取り組み、態度、マナー、提出物。道具や施設の使い方準備や片付け等総合的な取り組み。

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	オリエンテーション	評価方法 水泳 持久走 球技 体力づくり等 取り組みの内容等の説明				1
		体育理論	【体育理論】 運動やスポーツの合理的・計画的な実践を通して、知識や技能を深め、楽しさや喜びを味わい、それらを生涯にわたって豊かに実践できるようにするため、スポーツはどのような発展や変化をしてきたのか、どのような役割を果たしているのかといったスポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴などについて理解できる。	○	○	○	6
	5	体づくり	【体づくり運動】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の学習に主体的に取り組む、体力の構成要素や体づくり運動の実生活への取り入れ方などを理解し、自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。	○	○	○	7
		球技 (バドミントン、サッカー卓球、ソフトボール、バスケットボール、バレーボール等)	【球技】 ネットを挟んだ種目やゴールを目指す種目等、競技の特性やルールを理解しながら基礎練習に取り組むことができる。また自己の役割を自覚し、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、公正な態度や安全の確認、健康・安全に留意して練習やゲームができる態度を身に付ける。	○	○	○	18
	7	水泳 (平泳ぎ、クロール背泳 バタフライ等)	【水泳】前期 水泳の学習に主体的に取り組む、ルールやマナーを大切に。健康や安全を確保するとともに、体の動きや呼吸のバランスを体験しながら自己の能力や課題に適した運動を継続することができ、また記録の向上や競争の楽しさや喜びを深く味わうことができる。 体力に応じて複数の泳法を身に付けることができる。	○	○	○	8
		8・9					

後期	10	球技 (バドミントン、サッカー、卓球、ソフトボール、バスケットボール、バレーボール等)	【球技】後期 ネットを挟んだ種目やゴールを目指す種目等、競技の特性やルールを理解しながら基礎練習に取り組むことができる。また自己の役割を自覚し、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、公正な態度や安全の確認、健康・安全に留意して練習やゲームができる態度を身に付ける。	○	○	○	10
	11	陸上 持久走	【陸上競技】後期 記録の向上や競争の楽しさや喜びを深く味わい、陸上競技の学習に主体的に取り組み、ルールやマナーを大切にすることができる。健康や安全を確保するとともに、課題解決の方法などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。	○	○	○	10
	12						
	1	球技 (バドミントン、サッカー、卓球、ソフトボール、バスケットボール、バレーボール等)	【球技】後期 ネットを挟んだ種目やゴールを目指す種目等、競技の特性やルールを理解しながら基礎練習に取り組むことができる。また自己の役割を自覚し、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、公正な態度や安全の確認、健康・安全に留意して練習やゲームができる態度を身に付ける。	○	○	○	10
	2						
合計							70 時間

教科	保健・体育	科目	体育	単位数	2単位	学年	2年次
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標		
<p>・運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の多様性や体力の必要性について理解する。</p> <p>・運動を継続するために課題を発見し、解決に向けて思考・判断するとともに、自他の考えたことを伝えることができる。</p> <p>・競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・個の多様性を理解し、これらを大切に考え運動を楽しむ態度を身に付ける。</p>		

評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的・計画的な実践に関する具体的な知識を身に付けている。 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。また、健康や安全について必要な知識を身に付けている。	自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し、それらを表現している。また、個人及び社会生活における健康課題を発見しその解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表現している。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる。運動の合理的・計画的実践に主体的に取り組むことができる。また、健康を優先し、自他の健康と保持増進に取り組む健康な社会づくりに主体的に取り組もうとしている。
基礎体力、スポーツテスト、運動技能、運動の基礎。ゲームやゲーム運営、審判等総合鉄器な取り組み。	スポーツスキル、健康管理、安全管理、グループ活動等総合的な取り組み。	出席の状況。授業への取り組み、態度、マナー、提出物。道具や施設の使い方準備や片付け等総合的な取り組み。

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	オリエンテーション	評価方法 水泳 持久走 球技 体力づくり等 取り組みの内容等の説明				1
		体育理論	【体育理論】 運動やスポーツの合理的・計画的な実践を通して、知識や技能を深め、楽しさや喜びを味わい、それらを生涯にわたって豊かに実践できるようにするため、スポーツはどのような発展や変化をしてきたのか、どのような役割を果たしているのかといったスポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴などについて理解できる。	○	○	○	6
	5	体づくり	【体づくり運動】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の学習に主体的に取り組む、体力の構成要素や体づくり運動の実生活への取り入れ方などを理解し、自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。	○	○	○	7
		球技 (バドミントン、サッカー卓球、ソフトボール、バスケットボール、バレーボール等)	【球技】 ネットを挟んだ種目やゴールを目指す種目等、競技の特性やルールを理解しながら基礎練習に取り組むことができる。また自己の役割を自覚し、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、公正な態度や安全の確認、健康・安全に留意して練習やゲームができる態度を身に付ける。	○	○	○	18
	7	水泳 (平泳ぎ、クロール背泳 バタフライ等)	【水泳】前期 水泳の学習に主体的に取り組む、ルールやマナーを大切に。健康や安全を確保するとともに、体の動きや呼吸のバランスを体験しながら自己の能力や課題に適した運動を継続することができ、また記録の向上や競争の楽しさや喜びを深く味わうことができる。 体力に応じて複数の泳法を身に付けることができる。	○	○	○	8
		8・9					

後期	10	球技 (バドミントン、サッカー、卓球、ソフトボール、バスケットボール、バレーボール等)	【球技】後期 ネットを挟んだ種目やゴールを目指す種目等、競技の特性やルールを理解しながら基礎練習に取り組むことができる。また自己の役割を自覚し、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、公正な態度や安全の確認、健康・安全に留意して練習やゲームができる態度を身に付ける。	○	○	○	10
	11	陸上 持久走	【陸上競技】後期 記録の向上や競争の楽しさや喜びを深く味わい、陸上競技の学習に主体的に取り組み、ルールやマナーを大切にすることができる。健康や安全を確保するとともに、課題解決の方法などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。	○	○	○	10
	12						
	1	球技 (バドミントン、サッカー、卓球、ソフトボール、バスケットボール、バレーボール等)	【球技】後期 ネットを挟んだ種目やゴールを目指す種目等、競技の特性やルールを理解しながら基礎練習に取り組むことができる。また自己の役割を自覚し、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、公正な態度や安全の確認、健康・安全に留意して練習やゲームができる態度を身に付ける。	○	○	○	10
	2						
合計							70 時間

教科	芸術 I	科目	音楽 I	単位数	3単位	学年	1年次
使用教科書	「ON!」(音楽之友社)			副教材等	プリント		

学習の目標	
音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。	

評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などに関わり、及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけようとしている。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができている。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていこうとする態度を養う。
活動状況 ワークシート 筆記テスト	活動状況 実技テスト ワークシート 振り返りシート	活動状況 提出物 総合的な取り組み

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	みんなで歌おう	シンコーペーションの表現を身につけ、歌うことの楽しさを感じる。 “翼をください” “少年時代” など			○	5 5
		五線譜を見てみよう	楽譜の読み方などを学び、音楽表現の基礎・基本を身につける。	○		○	
	5	リズム	楽譜の読み方などを学び、音楽表現の基礎・基本を身につける。	○		○	
		メロディー		○		○	
	6	歌い継ぎたい愛唱歌	唱歌の詩の意味を理解し、詩とメロディー・リズムの関連を考え歌唱する。 “花の街” “夏の思い出” “里の秋” など	○	○	○	
		世界の心	楽曲の背景と曲想との関りを理解し、声の表現を工夫する。 “オーソレ ミオ” “アニーローリー” “おおシャンゼリゼ” など	○	○	○	
	7	ミュージカル	総合芸術であるミュージカルの特徴を理解し、劇や物語と音楽との関りを意識した表現の工夫や、鑑賞をする。 “A Whole New World” “すべての山に登れ”	○	○	○	
	8・9	ギターを弾こう	ギターの楽譜が読めるようになり、クラシックギターを用いてメロディーの基本的な演奏方法ができるようになる。	○		○	
10	アンサンブル			身体を使ったリズムによる音楽(ポディー・パーカッション)を通じて楽譜を読む力を身につけ、拍子や音量の強弱、音の質に注目する。	○	○	○

後期	11	鑑賞〈西洋音楽〉	西洋音楽の表現形態の特徴を理解する。 音楽のよさや美しさ、音楽を聴いて感じたことを自分の言葉で書くことにより、自己表現力を身につける。 “交響曲 管弦楽曲 協奏曲 室内楽曲 独奏曲 歌曲 合唱曲 オペラ”	○	○	50
	12					
	1	日本の歌	日本の芸術歌曲を歌唱し、“言葉と音楽”の関連について考え、理解を深める。また、音楽用語の意味をどのように歌唱するか、表現の工夫をする。 “この道”“小さな空”	○	○	○
	2					
			合計			105 時間

教科	芸術Ⅱ	科目	音楽Ⅱ	単位数	2単位	学年	2年次以上
使用教科書	「ON!2」(音楽之友社)			副教材等	プリント		

学習の目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり、及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
活動状況 ワークシート 筆記テスト	活動状況 実技テスト ワークシート 振り返りシート	活動状況 提出物 総合的な取り組み

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	みんなで歌おう	歌唱の活動を通して、表現を工夫したり、二部合唱に広げる楽しさを味わう。 “上を向いて歩こう” “やさしさに包まれたなら”			○	35
		日本の心 世界の心	多様な地域や国の音楽に親しむ。曲調に応じた豊かな表現を目指し、表現に必要な発声を身につける。 “ていんさぐぬ花” “愛の賛歌” “春の日の花と輝く”	○	○	○	
	5	舞台芸術 能と文楽 ミュージカル	・日本の音楽に触れ、良さや美しさを理解する。 ・劇や物語と音楽の関係を理解し、より豊かなイメージをもって表現したり鑑賞する。	○	○	○	
	6	ピアノで伴奏しよう	コードネームを理解し、メロディーのに対する和音の工夫を行い、キーボードで演奏する。	○		○	
	7						
8・9	ギターで伴奏しよう	アコースティック(フォーク)ギターでコード弾きができるようになる。	○		○		
10							

後期	11	鑑賞〈器楽曲〉	鑑賞を通して器楽に触れ、その特長や音楽の文化的・歴史的背景を理解する。	○	○	35
	12					
	1	歌唱と鑑賞〈声楽曲〉	日本とヨーロッパの芸術歌曲を歌唱・鑑賞し、歌詞の内容や楽曲の背景を研究し、より豊かなイメージをもって表現したり、鑑賞を通して楽曲の価値を理解する。 “歌の翼に” “Lascia chio pianga” “からたちの花” “初恋”	○	○	○
	2					
				合計	70	時間

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	3単位	学年	1年次
使用教科書	高校生の美術 I (日本文教出版)			副教材等	なし		

学習の目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わしている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。
ワークシート 実習・実技の状況 行動観察	ワークシート 実習・実技の状況 発表・話し合い活動	行動観察 実習・実技の状況 ワークシート

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当	
				(1)	(2)	(3)		
前期	4	オリエンテーション	美術を学ぶ目的とともに、作品や課題の提出の仕方、評価方法について理解する			○	1	
		立方体のデッサン	鉛筆でハッチングとトーンを練習し、明暗の表現を理解する	○				15
			画用紙でデッサンモチーフの立方体を組み立て、はさみの使い方、ペーパークラフトの基礎を学ぶ	○	○			
	透視図法や遠近感の出し方を理解する		○					
	面の表現や立体感の出し方を理解する		○					
	よく観察し、狙ったトーンやハッチングが的確に表現できるよう、練習や工夫を繰り返して完成度を高めることができる			○	○			
	合評により、ほかの生徒作品と見比べることでメタ認知を意識することができる			○	○			
	7	驚きのある形	色彩理論を理解し、作品の表現に応用することができる	○	○		24	
			美の構成要素を学び、作品の画面構成に応用することができる	○	○			
			開くと絵が3段階に変化するカードをトータルカラー(色紙)でデザインし、デザインの持つメッセージ性を理解する		○			
	8・9		デザインを考える中で、他者の視点に立って考えることの大切さに気付くことができる		○	○	24	
			トータルカラー(デザイン折り紙)を切り貼りして模様を作ることで、デフォルメなどの抽象化を体験する		○			
仕上がった作品の解説や見どころをまとめたカードを制作して、互いに鑑賞し合うことで反省点や他者の発想のよさに気付くことができる				○	○			

後期	10	読書感想画制作	モダンテクニックを学んで創造的な表現に生かすことができる	○	○	
			ブレインストーミングで想像力を働かせ、作品の発想に生かすことができる		○	○
			発想をアイデアスケッチにまとめて、下描きに応用することができる		○	
	11		アクリル絵の具の彩色方法を学び、作風に合った表現を選び取って描写することができる	○	○	
			仕上がった作品の解説や見どころをまとめたカードを制作して、互いに鑑賞し合うことで反省点や他者の発想のよさに気付くことができる		○	○
	12		版画の理論を学び、凹版の仕組みを理解することができる	○		
			題材に合った主題を選び、線描や点描のモノクロ表現を生かして描画することができる		○	○
			ニードルで版に線描写する際に、力を加減して強弱をつけることができる	○		
	1	ドライポイント版画	デッサンで学んだ遠近・立体表現を生かした描写ができる		○	
			刷りの技法を理解することができる	○		
			インクのふき取り方で刷りに変化をつけて自己の表現を見つけることができる	○	○	
	2		仕上がった作品の解説や見どころをまとめたカードを制作して、互いに鑑賞し合うことで反省点や他者の発想のよさに気付くことができる		○	○
1年間の制作を通して学んだことを文章でまとめて表現することができる				○	○	
合計						105
						時間

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	2単位	学年	2年次以上
使用教科書	高校生の美術2(日本文教出版)			副教材等	なし		

学習の目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。
ワークシート 実習・実技の状況 行動観察	ワークシート 実習・実技の状況 発表・話し合い活動	行動観察 実習・実技の状況 ワークシート

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当	
				(1)	(2)	(3)		
前期	4	オリエンテーション	美術Ⅰを振り返り、美術Ⅱで行う学習のイメージをつかむことができる			○	1	
		紙コップのデッサン	鉛筆でハッチングとトーンを練習し、明暗の表現を理解する	○				5
			透視図法や遠近感の出し方を理解する	○				
	5	紙コップのデッサン	面の表現や立体感の出し方を理解する	○			5	
			よく観察し、狙ったトーンやハッチングが的確に表現できるよう、練習や工夫を繰り返して完成度を高めることができる		○	○		
			合評により、ほかの生徒作品と見比べることでメタ認知を意識することができる		○	○		
	6	世界に一つだけの仮面を作ろう	彫刻や立体作品の加工方法を学び、制作に生かすことができる	○	○		20	
			豊かな発想で仕上がりのイメージをアイデアスケッチに表現することができる		○	○		
			芯材に粘土を付けて立体的な表現するにはどうすればよいか、思考しながら制作を進めることができる		○			
			乾燥したらやすり掛けて表面を成形し、アクリル絵の具で彩色する。この時、水分量や絵の具の濃度調節に注意しながら完成度を高めることができる。	○	○	○		
7	世界に一つだけの仮面を作ろう	仕上がった作品の解説や見どころをまとめたカードを制作して、互いに鑑賞し合うことで反省点や他者の発想のよさに気付くことができる		○	○			
8・9								

後期	10	空想画制作	モダンテクニックを復習し、創造的に表現するために応用できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
			ブレインストーミングで想像力を働かせ、作品の発想に生かすことができる		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			発想豊かにアイデアスケッチにまとめて、下描きに応用することができる		<input type="checkbox"/>	
	11	空想画制作	アクリル絵の具の彩色方法を学び、コラージュなどのモダンテクニックを主体とした着彩や作風に合った表現を選び取って描写することができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
			仕上がった作品の解説や見どころをまとめたカードを制作して、互いに鑑賞し合うことで反省点や他者の発想のよさに気付くことができる		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	12	点描画制作	デッサンの復習により、立体表現をつかむことができる	<input type="checkbox"/>		
			題材に合った主題を選ぶことができる		<input type="checkbox"/>	
			点描のモノクロ表現を生かして描画することができる		<input type="checkbox"/>	
	1	点描画制作	点の密度に変化をつけるなど描写に工夫し、自己の表現を見つけることができる		<input type="checkbox"/>	
根気強く点描することで厚みや重厚感のある作品に仕上げることができる					<input type="checkbox"/>	
仕上がった作品の解説や見どころをまとめたカードを制作して、互いに鑑賞し合うことで反省点や他者の発想のよさに気付くことができる				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
2		1年間の制作を通して学んだことを文章でまとめて表現することができる		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
				合計		70 時間

教科	芸術	科目	工芸 I	単位数	3単位	学年	1年次
使用教科書	工芸 I (日本文教出版)			副教材等	なし		

学習の目標

工芸の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3) 主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わしている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組もうとしている。
ワークシート 実習・実技の状況 行動観察	ワークシート 実習・実技の状況 発表・話し合い活動	行動観察 実習・実技の状況 ワークシート

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	工芸の学び方 ・オリエンテーション	工芸 I を学ぶ目的と、作品や課題の提出の仕方、評価方法についてを理解する			○	1
			生活の中で使用するかごの用途に合わせたデザインを考えることができる		○	○	
			制作に必要な材料取りができる	○	○		
	5	籐かご制作	米字組を用いた制作技法を理解し、底を編むことができる	○	○		35
			技法を理解し、側面を計画した角度に立ち上げて編むことができる	○		○	
			縁止めの種類を理解し、実際に使用する状況を想像して、全体のデザインに合った止め方を選ぶことができる		○	○	
	6		選んだ種類の縁止めの技法を理解し、完成度を高めて仕上げることができる	○		○	
	7	陶芸スプボール制作	陶芸の技法をまとめた動画を視聴して、制作の全容を把握することができる	○			6
			生活の中で使用するスプボールの用途に合わせた形や絵付けのデザインを考えることができる	○	○		
土練りと玉造りの技法を理解して成形し、削ることができる			○	○			
立てた計画をもとにして、発展させたデザインで絵付けと施釉ができる				○	○		
8・9							

後期	10	木エスプーン制作	制作の流れを理解し、使い勝手の良いデザインを考えることができる	○	○	○	30		
			傾斜角度を意識して実物大の図面を書き、型紙を制作することができる	○	○				
			型紙を木材に転写して木材を切り出すことができる	○					
			彫刻刀を使ってツボを彫ることができる	○	○				
			刃物や機械を使って全体の形が整ったら、サンドペーパーでやすり掛けする。この時、やすり掛けの順序や技法を理解し、要領良く作業を進めることができる	○	○				
	11	木エスプーン制作	手順を理解して、塗装する。この時、ウエスで研磨し、完成度を高めることができる。	○		○			
			12	型染めを用いた草木染ランチョンマット制作	防染糊を用いた型染の技法や工程を把握し、型紙の役割を理解する	○		○	○
					切り紙を練習して、型紙づくりに応用することができる	○		○	
					できた型紙を使って防染糊を塗布し、草木染で染色することができる	○		○	
			1	錫鑄造カトラリーレスト制作	鑄造の技法や工程を理解し、一連の作品とマッチするような使い勝手の良いカトラリーレストをデザインすることができる	○		○	○
2	錫鑄造カトラリーレスト制作	道具の扱い方を考えて図面をもとに油土で原型をつくることができる			○	○			
		石膏型から油土を取り除き、錫を鑄込む。この時、できるだけ石膏型の内壁を傷つけないように丁寧に作業することができる	○	○					
		型から割り出した鑄造作品を研磨して完成度を高めることができる		○	○				
合計						105	時間		

教科	芸術	科目	工芸Ⅱ	単位数	2単位	学年	2年次以上
使用教科書	工芸Ⅱ(日本文教出版)			副教材等	なし		

学習の目標

工芸の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて制作方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の図と創造的な工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に工芸の創造的な諸活動に取り組もうとしている。
ワークシート 実習・実技の状況 行動観察	ワークシート 実習・実技の状況 発表・話し合い活動	行動観察 実習・実技の状況 ワークシート

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	オリエンテーション	工芸Ⅰを振り返り、工芸Ⅱで行う学習のイメージをつかむことができる			○	1 29 5
			カードなどの道具を準備し、基礎の織り方を練習することで技法や工程を把握して、制作の全体像をつかむことができる	○			
			織りを間違えたときの対処を学び、応用することができる	○		○	
	5	カード織りによるバンド制作	生活の中で使用する場面を想像し、本制作の作品イメージを考えることができる		○	○	
			基本の織りで学んだ技法を応用し、本制作は織りの模様や穂移植を工夫することができる	○	○	○	
			本制作の準備を行い、織りの技法を理解して丁寧に作業できる		○	○	
			完成したバンドに金具を取り付け、実用性のある作品に仕上げることができる		○	○	
7	陶芸 ガラスを使った小物入れ制作	陶芸の技法や工程を理解し、作品の全体像をイメージすることができる	○	○			
		土練り、成形、削りを行い、自分のイメージする作品像に近づけることができる		○	○		

	8・9		絵付けや施釉を丁寧にを行い、完成度を高めることができる				○	
			前期の作品を互いに鑑賞し合い、客観的に自己の作品と向き合うことで反省することができる				○	
後期	10	和紙のランプシェード制作	作品制作の流れや技法を理解し、デザインを考えアイデアスケッチを描くことができる	○	○			
			電球の熱などの影響を踏まえて、安全面に配慮したデザインを考えることができる	○				
	アイデアスケッチをもとに実物大の図面を書くことができる				○			
	図面を参考にしながら、真鍮線で骨組みを形作り、ハンダ溶接して組み立てることができる				○			
	和紙を貼るときのことをイメージしながら骨組みの構造を考えて組み立てることができる				○			
	ランプを点灯したときに骨組みの透ける部分の構造を考えながら真鍮線を組み立てることができる				○			
	破れやすい和紙の特性を理解しながら、丁寧に完成度を高められるよう和紙を貼ることができる		○			○		
	ランプを点灯したときに和紙の重なりが見えないように注意しながら和紙を貼ることができる							○
	ランプシェードにマッチするような土台の板の形状を考えることができる					○		
	電動糸鋸やグラインダーなどの機器を活用して、土台の板を加工することができる		○					
1		電気配線の仕組みを理解して、電球のソケットや配線を組み立てることができる	○					
		作品を互いに鑑賞し合い、客観的に自己の作品と向き合うことで反省することができる					○	
2								
合計								70
								時間

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	3単位	学年	1年次
使用教科書	光村図書『書道 I』			副教材等	なし		

学習の目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
定期考査・小テスト・ワークシート・作品等	定期考査・作品・ワークシート・振り返りシート・発表・活動・質問等	授業態度・レポート・活動・提出物(作品を含む)・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	書道で学習すること 書写から書道へ	・小・中学校の国語科書写で学習した内容を確認し、高等学校で学ぶ「芸術科書道」について理解する。	○		○	55
		漢字の変遷とさまざまな書体	・漢字には、五つ書体があることを理解する。 ・それぞれの書体の成立過程とその歴史的背景、字形や線質の特徴を理解する。	○		○	
	5	楷書の学習 「孔子廟堂碑」 「九成宮禮泉銘」 「雁塔聖教序」 「顔氏家廟碑」	・「孔子廟堂碑」について、作品が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・虞世南の人物像や書道史における位置づけを確認する。 ・「孔子廟堂碑」の書風に即した用筆・運筆、字形等の特徴を理解し、臨書する。 ・「九成宮禮泉銘」について、作品が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・欧陽詢の人物像や書道史における位置づけを確認する。 ・「九成宮禮泉銘」の書風に即した用筆・運筆、字形等の特徴を理解し、臨書する。 ・「雁塔聖教序」について、作品が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・褚遂良の人物像や書道史における位置づけを確認する。 ・「雁塔聖教序」の書風に即した用筆・運筆、字形等の特徴を理解し、臨書する。 ・「顔氏家廟碑」について、作品が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・顔真卿の人物像や書道史における位置づけを確認する。	○	○	○	
			6	・「顔氏家廟碑」の書風に即した用筆・運筆、字形等の特徴を理解し、臨書する。 ・楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身に付ける。 ・楷書の各古典の書風に即した用筆・運筆、字形等の特徴を理解し、臨書する。			
7	行書の学習 「蘭亭序」 「風信帖」	・「蘭亭序」について、作品が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・王羲之の人物像や書道史における位置づけを確認する。 ・「蘭亭序」の書風に即した用筆・運筆、字形等の特徴を理解し、臨書する。 ・「風信帖」について、作品が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・空海の人物像や書道史における位置づけを確認する。 ・「風信帖」の書風に即した用筆・運筆、字形等の特徴を理解し、臨書する。 ・行書の古典の書体や用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	○	○	○		

後期	8・9	うちわへの創作	・楷書または行書の古典で学習した用筆・運筆を生かした作品を創作する。	○	○	○
	10	篆刻の学習 印を作ろう	・印の使い方や種類を理解する。 ・撰文・検字から押印・補刀までの制作手順を理解し、印を制作する。	○	○	○
		半切への臨書	・今までに学習してきた楷書または行書の古典の中から好きな古典を選び、臨書する。 ・選んだ古典の書風に即した用筆・運筆を意識しながら、半切に臨書する。 ・落款の書き方について説明し、理解する。	○	○	○
	11	仮名の学習 仮名の成立と種類 いろは歌 「蓬萊切」	・漢字の伝来から仮名の成立に至る過程で段階的に発生した仮名の種類を理解し、仮名の基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形を生かした表現をするための技能を身に付ける。 ・いろは歌で、仮名の基本的な用筆・運筆方法を学習する。 ・仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	○	○	○
	12	漢字仮名交じりの書 カレンダー創作	・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・漢字と仮名の調和した字形、漢字の大きさ、紙面への構成、目的や用途に応じた表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現について構想し、工夫する。(特に学習してきた古典の用筆などの特徴を生かした創作を意識する。) ・創作された作品の価値と根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって、捉える。	○	○	○
	1	創作活動 創作をしよう	・一年間学習してきた分野の中で、好きなものを選び、創作する。 ・各分野の用筆・運筆を念頭に仕上げられるようにする。 ・一年間の学習を振り返り、書を通して、自分を見つめ直す。	○	○	○
2						
合計						105 時間

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	2単位	学年	2年次以上
使用教科書	光村図書『書道Ⅱ』			副教材等	なし		

学習の目標

書道の創造的諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための知識・技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
ワークシート・作品等	作品・ワークシート・振り返りシート・発表・活動・質問等	授業態度・活動・提出物(作品を含む)・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	個性豊かな漢字の姿	・漢字の五書体の変遷と、その歴史的背景を理解する。 ・各書体の字形や線質の特徴を捉え、古典の豊かな個性を味わう。	○		○	35
		篆書の学習 「泰山刻石」	・篆書の基本点画の用筆・運筆を確認する。 ・「泰山刻石」が作られた経緯や書風、内容と大意、公式書体としての小篆について理解する。 ・書体に即した用筆・運筆を意識して臨書する。	○	○	○	
	5	「石鼓文」	・「石鼓文」が書かれた経緯や書風、内容を理解する。 ・書風に即した用筆・運筆を意識して臨書する。	○	○	○	
		「甲骨文」	・「甲骨文」の鋭い線質や直線を主とした点画などの特徴を理解する。 ・「甲骨文」が書かれた経緯や書風、内容を理解する。 ・書風に即した用筆・運筆を意識して臨書する。	○	○	○	
	6	隷書の学習 「乙瑛碑」	・「乙瑛碑」が書かれた経緯や書風、内容を理解する。 ・波磔など隷書の特徴的な用筆・運筆について確認する。 ・書体に即した用筆・運筆を意識して臨書する。	○	○	○	
		「居延漢簡」	・「居延漢簡」の伸びやかな波磔やリズムカルでスピード感のある書風を鑑賞し、作品の特徴を理解する。 ・書風に即した用筆・運筆を意識して臨書する。	○	○	○	
	7	草書の学習 「十七帖」	・「十七帖」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・学習のめあてを参考に、点画の連続や省略、柔らかさや線の太細など、臨書するポイントを確認する。 ・書体に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。	○	○	○	
		「書譜」	・「書譜」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・文字の大きさや線の太さ、墨の潤滑などの変化に富む書風を鑑賞し、作品の特徴を理解する。 ・書風に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。	○	○	○	
	8・9	「書譜」	・「書譜」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・文字の大きさや線の太さ、墨の潤滑などの変化に富む書風を鑑賞し、作品の特徴を理解する。 ・書風に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。	○	○	○	
うちの創作		・これまでに学習してきた篆書・隷書・草書から好きな書体を選び、漢字2~3文字でうちの創作する。 ・選んだ書体(古典作品)に即した用筆・運筆を意識して、創作する。	○	○			

後期	10	行書の学習 「集王聖教序」	<ul style="list-style-type: none"> ・「集王聖教序」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・「集王聖教序」における王羲之の書風の普遍的な魅力を鑑賞し、作品の特徴を理解する。 ・書風に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。 	○	○	○
		「温泉銘」	<ul style="list-style-type: none"> ・「温泉銘」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・「温泉銘」の独特の結構、抑揚に富んだ線質からなる切れ味鋭い書風を鑑賞し、作品の特徴を理解する。 ・書風に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。 	○	○	○
	11	「祭姪文稿」 「争坐位文稿」	<ul style="list-style-type: none"> ・顔真卿の三稿を鑑賞し、筆者顔真卿の心の動きが伝わるような勢いのある書きぶりを感じ取る。 ・「祭姪文稿」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解するとともに、顔真卿の人物像や書道史における位置づけを確認する。 ・「争坐位文稿」が書かれた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・文字の連綿や文字の大小、線の太細や抑揚のある運筆などの特色を理解する。 ・用筆・運筆、字形の特徴を意識して、臨書する。 	○	○	○
	12	漢字仮名交じりの書 カレンダー創作	<ul style="list-style-type: none"> ・カレンダーにふさわしい言葉を考える。 ・これまでに学習してきた古典を参考にしながら作品の構想を練り、書体や書風、用具・用材、全体構成を考える。 ・試作を重ね、表現を工夫する。 ・落款を入れ、作品を仕上げる。 ・作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。 	○	○	○
	1	仮名の学習 「高野切第一種」	<ul style="list-style-type: none"> ・「高野切第一種」を鑑賞し、連綿や墨継ぎによる表現の美を感じ取る。 ・和歌の内容と大意、書風について理解する。 ・意連・形連の仕方や墨継ぎの場所を確認し、その効果を理解する。 ・変体仮名を理解し、誤字のないように臨書することを伝える。 ・書風に即した用筆・運筆、字形の取り方などの観点から確認する。 	○	○	○
2	創作活動 創作をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間学習してきた分野の中で、好きなものを選び、創作する。 ・各分野の用筆・運筆を念頭に仕上げられるようにする。 ・一年間の学習を振り返り、書を通して、自分を見つめ直す。 	○	○	○	
合計						70
時間						

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	4単位	学年	2年
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造(東京書籍)			副教材等	プリントなど		

学習の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
レポート、定期考査・小テスト・ワークシート等	定期考査(思考問題)・実験課プリント・振り返りシート・発表・話し合い・活動・質問等	授業態度・実験プリント・活動・提出物・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当	
				(1)	(2)	(3)		
前期	4	第1章 生涯を見通す	・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 ・自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。	○			70	
			・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○			
			・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○		
	5	第2章 人生をつくる	・生涯発達の見点で青年期の課題を理解している。 ・家族・家庭の機能と家族関係について理解を深めている。 ・家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めている。 ・家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。	○				70
			・男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。		○			
			・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○		
6	第3章 子どもと共に育つ	・生涯発達の見点で青年期の課題を理解している。 ・乳幼児期の心身の発達と生活について理解している。 ・親の役割と保育について理解している。 ・乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。 ・子供を取り巻く社会環境について理解している。 ・子育て支援について理解している。	○			70		
		・子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・子供の健やかな発達のために地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○				
		・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○			
7	第4章 超高齢社会を共に生きる	・高齢者を取り巻く社会環境について理解している。 ・高齢期の心身の特徴について理解している。 ・高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解している。 ・生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている。	○				70	
		・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 ・高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。		○				
		・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○			
8・9	第5章 共に生き、共に支える	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 ・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○			70		
		・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。		○				
		・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○			
10	第6章 食生活をつくる	・ライフステージに応じた栄養の特徴について理解している。 ・食品の栄養的特質について理解している。 ・食品の調理上の性質について理解している。 ・健康や環境に配慮した食生活について理解している。 ・食品衛生について理解している。	○				70	
		・食品の調理上の性質について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・食の安全について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○				
		・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○			

11	第7章 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 ・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解している。 ・被服材料について理解している。 ・被服構成について理解している。 ・被服衛生について理解している。 	○		○
		<ul style="list-style-type: none"> ・被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ・健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。 ・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 		○	
12	第8章 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 ・ライフステージに応じた住生活の特徴について理解している。 ・防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解している。 ・適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 	○		○
		<ul style="list-style-type: none"> ・住居の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・住居の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 		○	
1	第9章 経済生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費行動における意思決定について理解している。 ・生活情報を適切に収集・整理できる。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性について理解している。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費者保護の仕組みについて理解している。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題について理解している。 ・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	○		○
		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 			○
2	第10章 持続可能な生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> ・生活と環境との関わりについて理解している。 ・持続可能な消費について理解している。 ・持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。 		○	
		<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 		○	
	第11章 これからの生活を創造する	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 ・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 ・自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。 	○		○
		<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 		○	○

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2単位	学年	2年
使用教科書	家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍)			副教材等	プリントなど		

学習の目標		
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
レポート、定期考査・小テスト・ワークシート等	定期考査(思考問題)・実験課プリント・振り返りシート・発表・話し合い・活動・質問等	授業態度・実験プリント・活動・提出物・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当	
				(1)	(2)	(3)		
前期	4	第1章 生涯を見通す	・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 ・自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。	○			3 5	
			・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○			
			・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。			○		
	5	第2章 人生をつくる	・生涯発達の視点で青年期の課題を理解している。 ・家族・家庭の機能と家族関係について理解を深めている。 ・家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めている。 ・家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。	○				3 5
			・男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することについて問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○			
			・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。			○		
6	第3章 子どもと共に育つ	・生涯発達の視点で青年期の課題を理解している。 ・乳幼児期の心身の発達と生活について理解している。 ・親の役割と保育について理解している。 ・乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。 ・子供を取り巻く社会環境について理解している。 ・子育て支援について理解している。	○			3 5		
		・子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・子供の健やかな発達のために地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○				
		・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。			○			
7	第4章 超高齢社会を共に生きる	・高齢者を取り巻く社会環境について理解している。 ・高齢期の心身の特徴について理解している。 ・高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解している。 ・生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている。 ・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。	○			3 5		
		・高齢者の自立生活を支えるために、家庭や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○				
		・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。			○			
8・9	第5章 共に生き、共に支える	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。	○			3 5		
		・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○				
		・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。			○			
10	第6章 食生活をつくる	・ライフステージに応じた栄養の特徴について理解している。 ・食品の栄養的特質について理解している。 ・食品の調理上の性質について理解している。 ・健康や環境に配慮した食生活について理解している。 ・食品衛生について理解している。 ・ライフステージに応じた栄養の特徴について理解している。 ・自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ・おいしさの構成要素について理解している。 ・目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。	○			3 5		
		・食品の調理上の性質について問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。						

		<ul style="list-style-type: none"> ・食の安全について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 						○
	第7章 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 ・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解している。 ・被服材料について理解している。 ・被服構成について理解している。 ・被服衛生について理解している。 						○
11		<ul style="list-style-type: none"> ・被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ・健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。 ・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 						○
	第8章 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 ・ライフステージに応じた住生活の特徴について理解している。 ・防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解している。 ・適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 						○
12		<ul style="list-style-type: none"> ・住居の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・住居の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 						○
	第9章 経済生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費行動における意思決定について理解している。 ・生活情報を適切に収集・整理できる。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性について理解している。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費者保護の仕組みについて理解している。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題について理解している。 ・家計の構造について理解している。 ・家計管理について理解している。 ・生活における経済と社会との関わりについて理解している。 						○
1		<ul style="list-style-type: none"> ・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 						○
	第10章 持続可能な生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・生活と環境との関わりについて理解している。 ・持続可能な消費について理解している。 ・持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。 						○
	第11章 これからの生活を創造する	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 ・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 ・自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。 						○
2		<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来的な家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 						○

後期

合計 70

時間

教科	家庭	科目	消費生活	単位数	3単位	学年	2~4年
使用教科書	消費生活(実教出版)			副教材等	プリントなど		

学習の目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、消費者の視点に基づく豊かな消費生活の実現を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
経済社会の動向、消費者の権利と責任、消費者と行政や企業との関わり及び連携の在り方などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	消費生活に関する課題を発見し、消費者の視点をもった職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	よりよい消費生活の実現を目指して自ら学び、消費者の支援や持続可能な社会の形成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
小テスト・ワークシート等	プリント・振り返りシート・発表・話し合い・活動・質問等	授業態度・プリント・活動・提出物・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	第1章 社会を支える消費者 第1節 消費生活の役割	○消費市場、労働市場及び金融市場と家庭経済のかかわりについて理解し、経済の循環における家庭経済の役割について考える。	○	○		10
		第2節 生涯の計画と管理	○家族一人一人の生涯を見通した経済生活の計画と管理について理解する。	○		○	15
		第3節 社会の変化と消費生活の変化		○	○		
	5	第2章 消費者被害と消費者の権利・責任	○これまでに発生した主な消費者問題を取り上げ、その背景と問題点、解決を目指した消費者運動の展開などについて理解する。	○	○		
		第1節 消費者が受ける不当な不利益	○消費者問題は、それぞれの時代の経済や産業、人々の価値観等を反映して変化してきており、悪質商法、消費者信用による多重債務、電子商取引等の進展に伴って生じている問題についても理解する。	○		○	
		第2節 消費者の権利確立の方策					
	6	第3章 消費生活と安全と自由					15
		第1節 消費生活の安全の確保	○消費者の権利を擁護し、消費生活の安定と向上を図るための総合的な対策として消費者基本法が改正されるに至った経緯、目的、概要について理解する。	○			
		第2節 消費生活の自由の確保					
	7	第3節 信頼できる情報の確保					
第4章 消費者の自立支援 第1節 支援の必要性		○商品やサービスに関する情報や企業の情報が、様々な方法で提供されていることを理解し、消費者や消費者団体からの情報発信等の双方向の情報授受によって、消費者問題の未然防止や解決が図られることについて考える。	○	○	○	25	
8・9	第2節 事業者からの支援						
10	第5章 環境と消費者					5	
	第1節 豊かさと環境問題	○行政からの情報、各種商品テスト、広告、表示、インターネット等を取り上げ、それぞれの情報の特徴や問題点などについて考え、適切に判断し、活用できるようにする。	○	○			
	第2節 消費の価値観の変化と環境問題						
		第3節 頻発する自然災害					

後期	11	第4節 環境に対する国民の意識と活動の現状	○地球温暖化や廃棄物問題などの環境問題は、人間の諸々の活動に起因していることに気づき、持続可能な社会実現を目指した消費活動ができるようにする。また、環境に配慮された商品やサービスに関心を持ち、環境負荷の少ない商品やサービスを選択できる力を身につける。	○	○	○	15	
		第5節 低い幸福度、地域コミュニティの衰退						
		第6節 持続可能な社会への枠組み						
	12	第7節 環境問題と商品サービスの選択と利用				15		
		第8節 持続可能なライフスタイル						
	1	1	第6章 消費者契約と法	○契約による商品やサービスの購入について、標準的な約款等を取り上げ、契約の成立、効力、解除等の契約に関する基礎的事項を理解する。特に、問題の多い未成年者や高齢者、障害者等の契約について、具体的な事例を通して理解する。	○	○		15
			第1節 生活の中の契約					
		2	第2節 契約と責任	○社会経済状況の変化、市場のグローバル化の進展の中で、商品・サービスの流通や販売方法も複雑化、多様化している現状を理解する。それに伴って、消費者のリスクも複雑化、多様化しており、それらへの適切な対応が必要であることを理解する。	○	○		15
			第3節 複雑・多様化する販売方法と悪質商法					
			第4節 消費者取引と関連法					
第5節 電子商取引と消費生活								
第6節 多様化する支払方法と資金調達			○消費者としての権利を実現し、適切に意思決定し、主体的に行動する消費者を支援するために必要な知識と技術を習得するとともに、自分のライフスタイルを見直し、持続可能な消費生活の在り方について考える。		○	○	○	
第7節 グローバル化と消費生活								
合計							105	
							時間	

105

教科	家庭	科目	服飾手芸	単位数	2単位	学年	2年
使用教科書				副教材等		プリントなど	

学習の目標		
家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、創造的な手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
手芸の種類と特徴及び変遷、各種手芸の技法などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	手芸の美的価値及び製作工程に関する課題を発見し、手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	手芸品の製作を目指して自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
小テスト・ワークシート等	プリント・振り返りシート・発表・話し合い・活動・質問等	授業態度・プリント・活動・提出物・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当	
				(1)	(2)	(3)		
前期	4	1. 刺し子の布巾 (基礎縫い練習)	○刺し子の製作を通して、手縫い糸の種類や特徴、手縫いの基礎縫いなどの知識や技術を習得する。				18	
		①刺し子の基礎縫い	○さらし布にデザインを写し、端縫いの始末の仕方を練習する。デザインを使い、刺し子の縫い始めと縫い終わりの方法を練習する。	○	○	○		
		②さらし布の裁断 アイロン掛け、端縫い	○刺し子糸の色を自由に選び、オリジナルの作品を作る。		○	○		
	5							
		④仕上げ						
	6	系の始末、アイロンがけ 振り返り	○刺し子の作品の系の始末について理解し、系の始末をする。アイロンをかけて作品を仕上げる。 ○振り返りシートに写真を貼付し、感想を入力後提出する。	○	○	○	14	
		2. ティッシュボックスカバー ①デザインを考える。	○ミシンの直線縫いでオリジナルのティッシュボックスカバーを製作する。 ○クルミボタンを使用するデザインであることを理解し、ボタンを効果的に使ったデザインを考える。			○		
	7	②しるし付け、裁断 (表布、裏布)	○指定されたサイズに布を裁断する。				○	
		③クルミボタン作り	○自分の考えたデザインを刺しゅうやピース刺しゅうを用いて表現する。 ○クルミボタンの構造を理解し、ボタンを作成する。	○	○	○		
	8・9	④本体の作成 (ミシンの使用、アイロン)	○ミシンの直線縫いや角の縫い方を理解する。 ○アイロンを上手に活用して丁寧な作品作りに取り組む。		○	○	○	
⑤仕上げ								
		系の始末、アイロンがけ 振り返り	○系の始末をしてアイロンをかけ、作品を仕上げる。 ○振り返りシートに写真を貼付し、感想を入力後提出する。			○	○	
		3. ポーチの製作 (表布、裏布)	○裏袋付きポーチの製作を通して、ファスナー付けの技術修得や、マチのあるポーチ作りから立体物の製作まで学ぶ。	○	○	○	14	

後期	10	(裏袋つき)	①生地選び ②ポーチのデザイン ③デザインの刺しゅう、 アップリケ ④ファスナー付け (しつけ縫い、ミシン本縫い) ⑤ポーチの成形 (しつけ縫い、ミシン本縫い)	① 目的な袋の構成の仕方を修得する。 ○自由にデザインをして、オリジナルの作品を作る。						
			⑥仕上げ 系の始末、アイロンかけ 振り返り	○デザインを表現する手法として刺しゅうやアップリケを用い、刺しゅうやヒース刺しゅう、アップリケ等の技術を習得する。 ○ファスナー付けの方法について理解し、表袋にファスナーを縫い付ける。 ○裏袋付きポーチの構造を理解し、裏袋をミシンで縫う。まつり縫いの縫い方を理解し、裏袋を表袋に縫い付ける。 ○振り返りシートに写真を貼付し、感想を入力後提出する。						
	11		4. フェルトのキーホルダー作り	○フェルトを使って、色々なデザインのキーホルダーを製作する。						
		12		①デザインを写す ②デザインを刺しゅうする ③本体を完成させる ④振り返り	○フェルトへの転写方法を理解し、デザインを写す。 ○刺しゅうの基本ステッチ3つの技法を理解し、刺しゅうを仕上げる。 ○ランケットステッチで本体を縫い合わせ、持ち手を付けてキーホルダーの形にする。 ○振り返りシートに写真を貼付し、感想を入力後提出する。					
	1		マフラー、ハンドウォーマー、 ネックウォーマー、アクリルた わし等	5. 編み物	○毛糸の扱い方、かぎ針編み、棒針編みなどを取り上げ基礎的な編み方の技法、仕上げなどを理解し、技術を身につける。					
				○毛糸の色、かぎ針編み、棒針編みなどを自由に選び、作りたい作品を自分で考えて製作する。						
	2	振り返り	○振り返りシートに写真を貼付し、感想を入力後提出する。							

合計

70

時間

教科	家庭	科目	保育基礎	単位数	3単位	学年	2年
使用教科書	保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ(教育図書)			副教材等	プリントなど		

学習の目標		
家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次の通り育成することを目指す。		
評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。	子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
定期考査・小テスト・ワークシート等	定期考査(思考問題)・実験課プリント・振り返りシート・発表・話し合い・活動・質問等	授業態度・実験・実習レポート・活動・提出物・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間配当	
				(1)	(2)	(3)		
前期	4	1章 子どもの保育 ①保育の意義 ②保育の環境 ③保育の方法	・保育には、子どもの生涯の人格形成の基礎を培う重要な意義があることを理解する。 ・保育者のあるべき姿とはどのようなものかを考える。 ・家庭及び幼稚園、保育所や認定こども園について、それぞれの養育・保育環境の特徴や役割を理解する。	○	○	○	10	
		5	①子どもの発達の特性 ②乳幼児の発育と発達	・現代の子どもや子育てで家庭を取り巻く環境の問題、多様な保育のニーズに関する課題を知り、子どもの健やかな発達のための適切な保育環境について考える。 ・子どもの成長には、子どもを受け止め理解してくれる大人の存在が不可欠であることを知る。 ・保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について調べ、子どもの発達における保育・教育の目的や目標について理解する。 ・発達過程の特徴と、段階に応じた保育の方法を理解する。	○	○		○
	6		2章 子どもの発達 ①子どもの発達の特性 ②乳幼児の発育と発達	・ライフステージにおける乳幼児期の位置づけを確認し、生涯発達のために乳幼児期が大切であることを理解する。 ・発達には順序性・連続性・方向性・相互性という一定の共通性がある一方で、個人差が大きいことを理解する。 ・子どもが主体的に環境にはたらかせ、発達していくために、保育者などが応答的にかかわることが大切であることを理解する。 ・乳幼児期の発育について、各部位別の目安や評価法を知る。また、大人などと比較して、乳幼児期の発育の特性を理解する。 ・乳幼児期の生理的特徴について理解する。 ・乳児期・幼児期における感覚・運動機能、情緒、認知機能、言語、社会性の発達の特性について理解する。 ・子どもと大人ではものとのらえ方に違いがあることを知る。 ・愛着関係の形成過程を学び、その重要性を理解する。 ・安全基地としての親の重要性について理解する。また、家族・きょうだい・友だちなどの対人関係と社会性の発達について考える。	○	○	○	20
		7	3章 子どもの生活 ①子どもの健康と生活 ②子どもの食事	・保育所保育指針などを取り上げながら養護の必要性・目的を理解し、発達の段階に応じた適切な養護の方法を知る。 ・子どもを安全に養護するためのポイントや、注意点について知る。 ・基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の違いを理解し、その具体的な内容について知る。 ・生活習慣を題材にした絵本などから、生活習慣の習得を促すにはどのような工夫が必要かを考える。 ・子どもの栄養と食生活の特徴を知り、必要なエネルギーと栄養素について理解する。 ・食事が生活習慣の確立や心の発達に重要な役割をもつことを認識する。	○	○	○	
	8・9		3章 子どもの生活 ③子どもの衣服と寝具 ④子どもの健康と安全 ◆調理実習 ◆おむつ実験	・近年の幼児に関する食事習慣や健康面の課題を知り、家庭や保育施設でどのようなことが求められているか考える。 ・幼児食実習や幼児用おやつづくりなど、実習を通じて子どもをイメージする。 ・乳幼児に適した被服の素材・型を知り、適切な被服計画ができるようになる。 ・衣服の選択を間違えると、思わぬ事故につながることを知り、安全な衣生活について考えることができる。 ・適切な寝具やおむつの使い方などを理解する。 ・子どもの健康を守るための保育者の役割を理解し、健康状態の観察方法を知る。	○	○	○	35
		10	4章 子どもの福祉 ①保育者の働き方	・子ども特有の病気について知り、予防接種の大切さを理解する。また、病気の際に対処するための知識を得る。 ・子どもの健康を守るために、社会がどのようなサポートを行っているかを知る。 ・住まいに潜む危険について理解し、家庭や保育施設など身近な場所の危険についても考えることができる。 ・発達障がいや医療的ケアをはじめとする、子どもの健康課題について、SDGsと関連させながら理解する。	○	○	○	
				4章 子どもの福祉 ②保育者の働き方	・子どもが保護・養育される権利をもち、尊重されるべき存在であると認識されるまでの歴史を知る。 ・日本の児童観の変遷と、社会環境や法制度のしくみについて理解する。	○	○	○

後期	11	①保育にみる児童観 ②児童福祉の理念と法規・制度	<p>日本の児童観の発展、社会状況、法的規制の状況について、理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの福祉の理念について理解し、歴史的な経緯を知る。 ・児童福祉法や児童福祉関連施設の概要とその役割について理解する。 ・子どもの福祉について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 <p>障がいの有無や貧困・虐待、国籍の違いなど、多様な事情・背景をもつ家庭や子どもたちが十分な保育サービスを受けるために必要な施策を考える。</p>	○	○		
	12	5章 子どもの文化	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康で豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。 ・近年の少子化、高度情報化の影響で、子どもや子ども文化を取り巻く環境に変化が起きていることを知り、それに伴う課題を理解する。 	○	○		
		①子どもの文化の意義 ②子どもの文化を考える場 ③子どもと遊び ④子どもの表現活動 ◆目的に合った遊びを考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健やかな発達における遊びの重要性や意義を、おもちゃづくりなどの活動を通じて理解する。 ・子どもの遊びの内容や時間・場所・仲間などが、近年の社会の変化の影響を受けて変容していることを知り、どのような課題があるか考える。 	○	○	○	
			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊びに対する、保育者としての適切ななかかわり方を理解する。 ・子どもの表現活動によって培われる能力について知り、表現活動の重要性や意義を理解する。 	○	○		
	1		<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動で子どもの意欲を引き出し、心身を育むための、保育者としての適切ななかかわり方を理解する。 ・子どもの遊びについての課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 			○	○
2	保育の学習を振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に応じた子どもの発達を促すことに適した、具体的な遊び方を提案する。 ・保育の学習を通じて自分自身の子どもや保育に関する考えがどう変わったか振り返り、成長を実感する。 			○	○	

30

合計 105

時間

教科	家庭	科目	保育基礎	単位数	2単位	学年	2年
使用教科書	保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ(教育図書)			副教材等	プリントなど		

学習の目標		
家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次の通り育成することを目指す。		
評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。	子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
定期考査・小テスト・ワークシート等	定期考査(思考問題)・実験課プリント・振り返りシート・発表・話し合い・活動・質問等	授業態度・実験・実習レポート・活動・提出物・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間配当	
				(1)	(2)	(3)		
前期	4	1章 子どもの保育 ①保育の意義 ②保育の環境 ③保育の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・保育には、子どもの生涯の人格形成の基礎を培う重要な意義があることを理解する。 ・保育者のあるべき姿とはどのようなものかを考える。 ・家庭及び幼稚園、保育所や認定こども園について、それぞれの養育・保育環境の特徴や役割を理解する。 	○	○	○	10	
	5		<ul style="list-style-type: none"> ・現代の子どもや子育てで家庭を取り巻く環境の問題、多様な保育のニーズに関する課題を知り、子どもの健やかな発達のための適切な保育環境について考える。 ・子どもの成長には、子どもを受け止め理解してくれる大人の存在が不可欠であることを知る。 ・保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について調べ、子どもの発達における保育・教育の目的や目標について理解する。 ・発達過程の特徴と、段階に応じた保育の方法を理解する。 	○	○			
	6	2章 子どもの発達 ①子どもの発達の特性 ②乳幼児の発育と発達	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージにおける乳幼児期の位置づけを確認し、生涯発達のために乳幼児期が大切であることを理解する。 ・発達には順序性・連続性・方向性・相互性という一定の共通性がある一方で、個人差が大きいことを理解する。 ・子どもが主体的に環境にはたらかせ、発達していくために、保育者などが応答的にかかわることが大切であることを理解する。 ・乳幼児期の発育について、各部位別の目安や評価法を知る。また、大人などと比較して、乳幼児期の発育の特性を理解する。 ・乳幼児期の生理的特徴について理解する。 ・乳児期・幼児期における感覚・運動機能、情緒、認知機能、言語、社会性の発達の特性について理解する。 ・子どもと大人ではものどらえ方に違いがあることを知る。 ・愛着関係の形成過程を学び、その重要性を理解する。 ・安全基地としての親の重要性について理解する。また、家族・きょうだい・友だちなどの対人関係と社会性の発達について考える。 	○	○			
		7	3章 子どもの生活 ①子どもの健康と生活 ②子どもの食事	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針などを取り上げながら養護の必要性・目的を理解し、発達の段階に応じた適切な養護の方法を知る。 ・子どもを安全に養護するためのポイントや、注意点について知る。 ・基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の違いを理解し、その具体的な内容について知る。 ・生活習慣を題材にした絵本などから、生活習慣の習得を促すにはどのような工夫が必要かを考える。 ・子どもの栄養と食生活の特徴を知り、必要なエネルギーと栄養素について理解する。 ・食事が生活習慣の確立や心の発達に重要な役割をもつことを認識する。 	○	○		
	8・9	3章 子どもの生活 ③子どもの衣服と寝具 ④子どもの健康と安全 ◆調理実習 ◆おむつ実験	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の幼児に関する食事習慣や健康面の課題を知り、家庭や保育施設でどのようなことが求められているか考える。 ・幼児食実習や幼児用おやつづくりなど、実習を通じて子どもをイメージする。 ・乳幼児に適した被服の素材・型を知り、適切な被服設計ができるようになる。 ・衣服の選択を間違えると、思わぬ事故につながることを知り、安全な衣生活について考えることができる。 ・適切な寝具やおむつの使い方などを理解する。 ・子どもの健康を守るための保育者の役割を理解し、健康状態の観察方法を知る。 	○	○	○		
		10		<ul style="list-style-type: none"> ・子ども特有の病気について知り、予防接種の大切さを理解する。また、病気の際に対処するための知識を得る。 ・子どもの健康を守るために、社会がどのようなサポートを行っているかを知る。 ・住まいに潜む危険について理解し、家庭や保育施設など身近な場所の危険についても考えることができる。 ・発達障がいや医療的ケアをはじめとする、子どもの健康課題について、SDGsと関連させながら理解する。 	○	○	○	
			4章 子どもの福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが保護・養育される権利をもち、尊重されるべき存在であると認識されるまでの歴史を知る。 ・日本の児童観の変遷と、社会環境や法制度のしくみについて理解する。 	○	○		8

後期	11	①保育にみる児童観 ②児童福祉の理念と法規・制度	<p>日本の児童観の多様性、社会状況、法的規制の役割について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの福祉の理念について理解し、歴史的な経緯を知る。 ・児童福祉法や児童福祉関連施設の概要とその役割について理解する。 ・子どもの福祉について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 <p>障がいの有無や貧困・虐待、国籍の違いなど、多様な事情・背景をもつ家庭や子どもたちが十分な保育サービスを受けるために必要な施策を考える。</p>							
	12	5章 子どもの文化	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康で豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。 ・近年の少子化、高度情報化の影響で、子どもや子ども文化を取り巻く環境に変化が起きていることを知り、それに伴う課題を理解する。 							
		①子どもの文化の意義								
		②子どもの文化を考える場								
		③子どもと遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健やかな発達における遊びの重要性や意義を、おもちゃづくりなどの活動を通じて理解する。 ・子どもの遊びの内容や時間・場所・仲間などが、近年の社会の変化の影響を受けて変容していることを知り、どのような課題があるか考える。 							
	④子どもの表現活動	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊びに対する、保育者としての適切ななかかわり方を理解する。 ・子どもの表現活動によって培われる能力について知り、表現活動の重要性や意義を理解する。 								
	◆目的に合った遊びを考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動で子どもの意欲を引き出し、心身を育むための、保育者としての適切ななかかわり方を理解する。 ・子どもの遊びについての課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 								
1										
2	保育の学習を振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に応じた子どもの発達を促すことに適した、具体的な遊び方を提案する。 ・保育の学習を通じて自分自身の子どもや保育に関する考えがどう変わったか振り返り、成長を実感する。 								

10

通信科目の授業は半期である。学習内容は上記に準じるとともに、レポートの提出と成績が重要となる。

合計

70

時間

教科	情報	科目	情報 I	単位数	2単位	学年	1年次
使用教科書	最新情報 I (実教出版)			副教材等	なし		

学習の目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う。学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 情報と情報技術およびこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。
- (2) 様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身につけているとともに、情報化の進展する社会の特質およびそのような社会と人間の関りについて理解を深めようとしている。	様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画しようとしている。
定期考査、小テスト、ワークシート、実習データ	定期考査、小テスト、ワークシート、実習データ、発表、行動観察	小テスト、ワークシート、実習データ、行動観察、提出物、発表

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4 ・ 5	オリエンテーション	コンピュータの起動、終了の方法、OSの基本操作ができるようになる。 ファイルの保存、共有フォルダの利用方法について理解する。 ルールを守ってコンピュータ教室を使用できる。	○			35
		第1章 情報社会と私たち					
		第1節 情報社会	情報社会の現状についてインターネット等で調べることができるようになる。 情報の特性を活用した事例を挙げることができる。	○	○	○	
	第2節 情報社会の法規と権利	知的財産権の概要について理解する。 個人情報とプライバシーを保護する方法を身につけることができるようになる。	○	○	○		
	第3節 情報技術が築く新しい社会	日々進んでいる技術に関心を持ち、その仕組みや概要について調べることができる。 様々な情報技術について理解し、課題解決の方法について考えることができるようになる。	○	○	○		
	第2章 メディアとデザイン						
	第1節 メディアとコミュニケーション	メディア発達の歴史について理解する。 身の回りのメディアを特性に応じて適切に分類できるようになる。 顔の見えない相手とのコミュニケーションの危険性について考えることができるようになる。	○	○	○		
	第2節 情報デザイン	情報バリエーションやユニバーサルデザインについて、それぞれのデザインの意図が読み取れるようになる。 分かりやすく情報を伝達するための手法について考えることができる。	○	○	○		
	第3節 情報デザインの実践	プレゼンテーションソフトを使ってスライド等の資料を作成できる。 Webページの構成について理解し、簡単なWebページを作成できる。	○		○		
	第3章 システムとデジタル化						
第1節 情報システムの構成	コンピュータを構成する各種装置の機能と相互の関係を考え、適切に接続して動作できるようになる。 スマートフォンなどの身近な情報機器について、性能の向上や発展的な活用の方法を考えることができる。 ソフトウェアの種類とその働きについて理解する。	○	○	○			
第2節 情報のデジタル化	アナログとデジタルの違いについて身近な例をもとに説明ができるようになる。 2進法について理解し、10進数、2進数への換算ができるようになる。 音声、画像、動画のデータ量が計算できるようになる。	○	○	○			

10 ・ 11	第4章 ネットワークとセキュリティ					
	第1節 情報通信ネットワーク	情報通信ネットワークの構成について理解する。 通信方式の種類やその違いが説明できるようになる。 WebサーバのIPアドレスを調べることができるようになる。 通信データの転送速度とファイルを圧縮する意義について理解する。 ファイルのデータを効率的に圧縮できるようになる。 目的に応じて、適切にインターネットのサービスを選択して利用できるようになる。		○	○	○
	第2節 情報セキュリティ	パスワードの設定と管理について考え、適切なパスワードの作成・設定ができるようになる。 コンピュータウイルスやマルウェアの被害の実態について理解し、具体的な対策を考えることができる。 情報セキュリティの確保に向けて、目的に応じて、アクセス制御やフィルタリングなど適切な方法を選択することができる。		○	○	○
後 期	第5章 問題解決とその方法					
	第1節 問題解決	問題や問題解決の意味、問題解決の手順について理解する。 問題の発見のための現状を把握する方法について、具体的な例をあげることができる。 ブレインストーミングなどの発想法を使ってグループ内で意見の交流ができるようになる。 問題解決の結果を振り返り、自己評価や相互評価を行い改善を図ることができる。		○	○	○
	第2節 データの活用	表計算ソフトを利用して、データを収集、整理することができるようになる。 クロス集計、相関係数を用いた分析、回帰分析が行えるよう担当。		○	○	○
	第3節 モデル化	モデル化の基本的手順について理解し、問題整理のために図的モデルを作成することができる。 作成したモデルに対して自己評価、相互評価を行って改善に努めることができる。		○	○	○
	第4節 シミュレーション	シミュレーションの意義や方法について理解する。 表計算ソフトの関数を適切に選択・実行して確率的モデルのシミュレーションをいくつか実行できる。		○	○	○
	第6章 アルゴリズムとプログラミング					
1	第1節 プログラミングの方法	アルゴリズム、プログラムそれぞれの用語について説明することができる。 フローチャート、アクティビティ図、状態遷移図の書き方について理解し簡単なアルゴリズムを文章やフローチャート等の図で表現ができるようになる。 プログラミングの手順を理解する。 プログラミング言語のおもな種類とその特徴について理解する。		○	○	○
2	第2節 プログラミングの実践	変数を使用して選択構造、反復構造のプログラムを作成することができる。 配列を使用して反復構造等のプログラムを作成することができる。 データ量と計算量の変化からアルゴリズムを評価し、適切なアルゴリズムを選択することができる。 問題解決のためのアルゴリズムを考え、試行錯誤しながらプログラムを作成することができる。		○	○	○
				合計	70	時間

35

教科	商業	科目	ビジネス基礎	単位数	3単位	学年	2年次以上
使用教科書	ビジネス基礎(実教出版)			副教材等	なし		

学習の目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。
- (2) ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。
- (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力が身につけている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
定期考査、小テスト、ワークシート、提出物、行動観察、	定期考査、ワークシート、レポート、発表	レポート、行動観察、ワークシート、提出物、発表

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	第1章 商業の学習とビジネス					55
		第1節 いざ、ビジネスの世界へ	商業を学ぶ重要性とビジネスの概要について理解する。 企業が日々行っている活動は自分たちの生活に身近な存在であることに気づくことができる。	○			
		第2節 私たちの社会とビジネス	ビジネスの役割について、企業の社会的責任や、環境・エネルギー・食料などの社会的課題とビジネスの動向・課題について具体的な事例を関連付けて学ぶことができる。		○	○	
	5	第2章 ビジネスとコミュニケーション					
		第1節 コミュニケーション	ビジネスにおける信頼関係の構築の意義と重要性について理解する。	○			
		第2節 ビジネスマナー 第3節 情報の入手と活用	ビジネスマナーの意義を理解し、場面に応じた行動が適切に取れるようになる。 企業活動における情報の重要性について理解し、入手した情報の活用・評価・改善ができるようになる。	○		○	
	6	第3章 経済と流通の基礎					
		第1節 経済の仕組みとビジネス	経済の仕組みと流通の必要性について理解する。 経済の基本概念、流通の役割など経済と流通に関する知識を基盤として、流通に関する課題を発見し、その解決方法を考えることができる。	○	○	○	
		第2節 経済活動と流通					
	7	第4章 さまざまなビジネス					
		第1節 ビジネスの種類	ものを作り出すビジネス・サービスを生産するビジネスについて理解する。 メーカーやサービス業の現状と動向から課題を発見し、対応策について考えることができる。	○	○	○	
		第2節 小売業	小売業の種類、組織化について理解する。 小売業の現状と動向から課題を発見し、対応策について考えることができる。	○	○	○	
第3節 卸売業		卸売業の役割、種類について理解する。 卸売業の現状と動向から課題を発見し、対応策について考えることができる。	○	○	○		
	第4節 物流業	物流業の役割、種類について理解する。 物流業の現状と動向から課題を発見し、対応策について考えることができる。	○	○	○		

8・9	第5節 金融業	金融業の種類について理解し、ビジネスにおける金融の重要性を考慮することができる。 金融業の現状と動向から課題を発見し、対応策について考えることができる。	○	○	○	
	第6節 情報通信業	情報通信業のビジネスについて理解し、身近に始まっているサービスや技術の事例について発表できる。 情報通信技術の発展から今後生まれるビジネスについて考え、表現することができる。	○	○	○	
後期	第5章 企業活動の基礎					
	10	第1節 ビジネスと企業	企業の役割や種類について理解する。 企業不祥事の事例から背景や要因について分析し、企業倫理の重要性について考えることができる。	○	○	○
		第2節 マーケティングの重要性	マーケティングの意味、活動について理解する。 ヒット商品の事例から、ヒットに繋がった要因について分析し、答えを導き出すことができる。	○	○	○
	11	第3節 資金調達	企業が資金を調達する方法について理解する。 クラウドファンディングの事例をもとに、資金調達に繋がるビジネスモデルについて考えることができる。	○	○	○
		第4節 財務諸表の役割	企業が外部に提供する情報について理解する。 財務諸表と利害調整の関係について理解する。	○		○
		第5章 企業活動と税	税金の役割と種類について理解する。 企業が支払うおもな税金と納付の方法について理解する。	○		○
	12	第6章 雇用	日本における雇用の特徴について理解するとともに、日本が抱える雇用に関する課題を発見し、対応策について考えることが出来る。 雇用に関する制度について理解し、ワークライフバランスや多様性を意識した職業選択について自身の進路希望と関連付けて考えることができる。	○	○	○
		第6章 ビジネスと売買取引				
		第1節 売買取引の手順	自分たちが普段行っている経済活動が売買取引であることを理解する。 ビジネスの場面において、売買取引の履行と締結に関する取り決めや手順について理解する。	○		○
		第2節 代金決済	代金決済手段の種類について理解する。 新しい決済手段の利点や課題について考えることができる。	○	○	○
	1	第7章 ビジネス計算				
		第1節 ビジネス計算の基礎	ビジネス計算で使われる割合・比較量・基準量について理解し、適切な計算ができる。 メモリーキー等を使っての電卓の操作ができるようになる。	○		○
	第2節 ビジネス計算の応用	度量衡の計算・外国貨幣の換算ができるようになる。 端数期間を含めた利息の計算ができるようになる。	○		○	
2	第8章 身近な地域のビジネス					
	第1節 さまざまな地域の魅力と課題	調べ学習等を通して、さまざまな地域で行われているビジネスについて理解を深める。 地域で行われているビジネスに関する知識をもとに、身近な地域のビジネスに関する課題を発見しその対応策について考えることができる。	○	○	○	
	第2節 地域ビジネスの動向					
合計					105 時間	

教科	商業	科目	簿記	単位数	3単位	学年	2年次以上
使用教科書	簿記(東京法令出版)			副教材等	実教出版 最新段階式簿記検定問題集 全商3級		

学習の目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。
- (2) 取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。
- (3) 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力が身につけている。	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
定期考査、小テスト、ワークシート、提出物、行動観察、	定期考査、ワークシート、発表	レポート、行動観察、ワークシート、提出物、発表

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	第I編 簿記の基本					55
		第1章 企業の簿記	簿記の原理について理解し、取引を記録することと決算の意義について、企業活動の展開と関連付けて考えることができるようになる。	○	○	○	
		第2章 資産・負債・純資産 ～貸借対照表～	資産・負債・純資産の基本的な概念と貸借対照表の役割・構造について理解する。	○		○	
	5	第3章 収益・費用 ～損益計算書～	収益・費用の基本的な概念と損益計算書の役割・構造について理解する。	○		○	
		第4章 取引と勘定	簿記における取引の概念、勘定の意味と役割について理解し、取引の二面性から複式簿記の特徴について考えることができるようになる。	○	○	○	
		第5章 仕訳と勘定への記入	取引を適切に仕訳し、勘定記入のルールに従って正しく記帳ができるようになる。	○		○	
	6	第6章 仕訳帳と総勘定元帳	取引の仕訳を仕訳帳に正しく記帳し、総勘定元帳のそれぞれの勘定に正しく転記ができるようになる。	○		○	
		第7章 試算表	試算表の記帳法について理解し、それぞれの試算表の役割が企業活動でどう活用されているかを考えることができるようになる。	○	○	○	
		第8章 決算	簿記における決算の手続きについて理解し、今まで学習した内容から仕訳帳や総勘定元帳がどのように関連しているかを考えることができるようになる。	○	○	○	
	7	第II編 取引の記帳					
		第1章 現金・預金の記帳	簿記上の現金とされる勘定科目を答えることができるようになる。企業活動において小切手が使われる理由について考え、その利点について説明ができるようになる。	○	○	○	
		第2章 商品売上の記帳	仕入れ・売り上げ・返品・値引きなどの商品売買取引において、3分法による仕訳ができるようになる。仕入帳・売上帳・商品有高帳の作成ができるようになる。	○		○	
8・9	第3章 掛取引の記帳	掛け取引について、売り手と買い手それぞれの立場で仕訳ができるようになる。売掛金元帳・買掛金元帳を作成するうえで、それぞれの店の債権・債務について適切に整理できるようになる。	○		○		

後期	10	第4章 手形取引の記帳	手形の種類、手形の振出、裏書、割引についての仕訳ができるようになる。 手形取引の仕訳から受取手形記入帳・支払手形記入帳が作成できるようになる。	○	○	50
		第5章 その他の債権・債務の記帳	商品売買以外の取引で使われる債権・債務についての仕訳ができるようになる。	○	○	
		第6章 有価証券の記帳	株式・公社債などの有価証券の買い入れと売却の仕訳ができるようになる。	○	○	
	11	第7章 固定資産の記帳	固定資産の概念と種類について理解する。 固定資産の取得・売却に関する仕訳ができるようになる。	○	○	
		第8章 販売費と一般管理費の記帳	販売費と一般管理費の概念と種類について正しく分類できるようになる。 販売費と一般管理費勘定を用いた場合と用いない場合の利点・欠点について考えることができるようになる。	○	○	
	12	第9章 個人企業の純資産の記帳	個人企業の純資産を増加・減少させる取引や引き出し金に関する処理ができるようになる。	○	○	
		第10章 個人企業の税金の記帳	個人企業における所得税や住民税、固定資産税、印紙税、消費税の概念について理解する。 個人企業における税金に関する仕訳ができるようになる。	○	○	
		第III編 決算(1) 第1章 決算整理(その1)	決算整理の意味について理解する。 売上原価の算定、貸し倒れの見積もり、減価償却の計算等の計算ができるようになる。 財務諸表を作成するための棚卸表、8桁精算表が作成できるようになる。 決算整理事項から財務諸表を作成し、会計報告ができるようになる。	○	○	
	1	第IV編 会計帳簿 第1章 帳簿	主要簿と補助簿の関係及び企業の分化制度や内部統制システムと会計帳簿との緩解について理解できるようになる。	○	○	
		第2章 3伝票制による記帳	証ひょうや伝票の意義、伝票の起票ができるようになる。 3伝票制と1伝票制それぞれの利点・欠点について考えることができるようになる。	○	○	
2	第V編 特殊な取引 第1章 特殊な手形取引の記帳	約束手形の書き換え・不渡り、営業外手形などの仕訳ができるようになる。 不渡手形が資産となる理由について考え、表現できるようになる。	○	○		
	第VI編 決算(2) 第1章 決算整理(その2)	有価証券の評価、費用・収益の見越し・繰り延べに関する仕訳ができるようになる。 控除形式の貸借対照表と2区分の損益計算書が作成できるようになる。	○	○		
				合計	105	時間

教科	商業	科目	情報処理	単位数	3単位	学年	2年次以上
使用教科書	情報処理 Prologue of Computer(実教出版)			副教材等	全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集3級 情報処理検定模擬試験問題集 3級		

学習の目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- (3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようとしている。	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
定期考査,小テスト,ワークシート,行動観察提出物,実習データ	定期考査,ワークシート,発表・話し合い,実習データ	レポート,行動観察,ポートフォリオ,ワークシート,発表・話し合い

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間配当	
		章・節		(1)	(2)	(3)		
前期	4	第1章 企業活動と情報処理					50	
		第1節 情報処理の重要性	身近な事例をもとに情報の意義と役割を理解する。社会で利用されている情報システムや、情報処理に関わる仕事などを通して、どのような能力を身につけるべきかを考えることができる。		○	○		
		第2節 情報モラルと法規	情報を正しく扱うことの大切さに気付くことができ、そのために必要なモラルや基本的な考え方や態度を身につける。情報を取り扱ううえで守るべき法規の必要性とその概要を理解する。		○	○		
	5	第3節 コミュニケーションと情報デザイン	企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を身につけることができる。		○	○		○
		第2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク						
	6	第1節 コンピュータシステムの概要	コンピュータの基本的な機能と構造を理解し、ハードウェアとソフトウェアの種類と機能について理解する。コンピュータを活用するための基本的な操作ができるようになる。		○	○		○
		第2節 情報通信ネットワークの仕組みと構成	情報通信ネットワークの仕組みと、それらを構成する技術や装置について理解する。情報通信ネットワークを通じてWebページが閲覧できる手順について考えることができる。		○	○		○
		第3節 インターネットの活用	情報通信ネットワークを利用したビジネス情報の効果的な検索と活用方法について理解する。電子メールを使ううえでの注意点や危険性について考えることができる。		○	○		○
		第4節 情報セキュリティの確保	情報社会に参画するために個人が身につけるべきセキュリティ管理の方法について理解する。情報セキュリティに問題が生じたときの対策について考え、適切な行動をとることができるようになる。		○	○		○
	7	第3章 情報の集計と分析						
第1節 ビジネスと統計		企業活動における表計算ソフトの活用例について理解する。統計の基本的な調査方法や分析方法について理解し、求めた値から分析結果の記述ができるようになる。		○	○	○		
		第2節 関数を利用した表の作成	表計算ソフトの基本的な操作や関数の使い方について理解し、目的に応じて適切な表が作成できるようになる。		○	○	○	

	8・9	第3節 グラフの作成	グラフの種類や構成要素、特色について理解し、表計算ソフトウェアを利用して目的にあったグラフが作成できるようになる。	○	○	○
		第4節 情報の整列・検索・抽出	表計算ソフトウェアのデータベース機能を利用して、分析に必要な情報の整列、検索、抽出などの操作ができるようになる。	○		○
		第5節 問題の発見と解決の方法	問題の発見と解決の手順について理解するとともに、企業活動の改善に使われるツールを扱って情報の分析ができるようになる。 事象をモデル化し、シミュレーションを行う基礎的な技法やアルゴリズムについて考察し、図式化できるようになる。	○	○	○
後期	10 ・ 11	第4章 ビジネス文書の作成				
		第1節 ビジネス文書と表現	文書情報がビジネスの諸活動の中で果たしている役割について理解する。 ビジネス文書の種類について、受け取る相手や目的に応じて、適切な形式で表現することができるようになる。	○	○	○
		第2節 基本文書の作成	ワープロソフトを利用して、ビジネス文書の作成に必要な基本操作ができるようになる。 文書の作成演習を通して、目的に応じた文書が作成できるようになる。	○		○
	12	第3節 応用文書の作成	ワープロソフトの多様な機能を利用して、表やグラフなどを含む応用的な文書が作成できるようになる。 表計算ソフトと連携した文書が作成できるようになる。	○	○	○
	1	第5章 プレゼンテーション				
		第1節 プレゼンテーションの技法	ビジネス活動におけるプレゼンテーションの意義について理解する。 プレゼンテーションの基礎的な技法を身につけることができる。	○		○
		第2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション	プレゼンテーションソフトウェアを活用した資料が作成できるようになる。 作成した資料を使ってプレゼンテーションを実施できるようになる。	○	○	○
2	総合演習	各種ソフトウェアを適切に活用し、様々な報告書や文書を作成、発表することができるようになる。	○	○	○	
合計						105 時間

55

教科	商業	科目	ソフトウェア活用	単位数	2単位	学年	2年次以上
使用教科書	ソフトウェア活用(実教出版)			副教材等	なし		

学習の目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。
- (2) 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- (3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
企業活動におけるソフトウェアの活用について実務的・体系的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
定期考査, 小テスト, ワークシート, 行動観察	定期考査, ワークシート, 発表・話し合い	レポート, 行動観察, ワークシート, 発表・話し合い

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	第1章 企業活動とソフトウェア活用					35
		第1節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用	社会で利用されている情報システムや、ソフトウェアの事例を通して、情報通信ビジネスにおけるソフトウェア活用の意義と重要性について考えることができるようになる。	○	○	○	
	第2節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化	society5.0, IoT, AIについて理解するとともに、ソフトウェアの進化が社会の変化に与える影響を考えることができるようになる。	○	○	○		
	5	第2章 情報通信ネットワークの活用					
		第1節 情報通信ネットワークの導入と活用	ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、コンピュータやプリンタを適切にLANやインターネットに接続することができるようになる。	○	○	○	
	第2節 情報資産の保護	情報資産を保護することの重要性について理解し、ファイルとフォルダのアクセス権の設定や暗号化、バックアップなどの技術を身につける。	○	○	○		
	6	第3章 表計算ソフトウェアの活用					
第1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析		表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析ができるようになる。	○	○	○		
第2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ		表計算ソフトウェアを通して、オペレーションズリサーチの基礎を理解し、目的に応じた手法が選択できるようになる。	○	○	○		
7	第3節 手続きの自動化	マクロの記録機能を用いて、手続きが自動化される手順について理解する。	○	○	○		

後期	8・9	第4章 データベースソフトウェアの活用				
		第1節 ビジネスとデータベース	データベースに関心を持ち、効果的な活用方法や役割などを考えることができるようになる。	○	○	○
		第2節 データベースの作成と操作	データベースの演習を通して、テーブル・クエリ・フォーム・レポート・リレーションシップなどの技術を身につける	○	○	○
		第3節 手続きの自動化	ユーザーフォームを用いて、これまでに作成したクエリやフォーム、レポートを呼び出すマクロを登録できるようになる。	○	○	○
	10	第4節 データベースの構造	データベースの表やデータ構造について理解し、必要に応じた表の正規化ができるようになる。	○	○	○
		第5節 SQLの操作	SQLの演習を通して、文法を理解し、データベースを適切に操作できるようになる。	○	○	○
		第5章 業務処理用ソフトウェアの活用				
	11	第1節 グループウェアの活用	企業等の事例を通してグループウェアを活用した業務の効率化について理解し、グループウェア活用の利点について考えることができるようになる。	○	○	○
		第2節 販売管理ソフトウェアの活用	企業等の事例を通して販売管理ソフトウェアを活用した業務の効率化について理解し、販売管理ソフトウェア活用の利点について考えることができるようになる。	○	○	○
	12	第3節 給与計算ソフトウェアの活用	企業等の事例を通して給与管理ソフトウェアを活用した業務の効率化について理解し、給与管理ソフトウェア活用の利点について考えることができるようになる。	○	○	○
		第6章 情報システムの開発				
	1	第1節 システム開発の基礎	表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発において、どのモデルで開発を進めるかを考えることができるようになる。	○	○	○
	第2節 アルゴリズムの基礎	アルゴリズムを表現するための流れ図を問題解決のために利用することができるようになる。	○	○	○	
2	第3節 情報システムの開発演習	表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアのプログラミング機能を用いて、簡易的な情報システムの開発演習から、企業活動が抱える課題についての現状分析ができるようになる。	○	○	○	
合計						70
時間						

教 科：自立活動

科 目：未来を拓くⅠ（１年生１０月～）、Ⅱ・Ⅲ（２・３年生４月～）

単 位：学年ごとに１単位。

但し、２以上の年次にわたる授業時数を合算して単位の認定を行うことがある。

単位認定：定期考査はなし。出席日数等、必要な要件を満たした場合に単位の認定を行う。

学習目標：個々の生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達を基盤を培う。

受講条件：令和２年度入学生より受講可能。この科目を受講したい場合は担任に相談すること。

受講願を受理後、校内委員会で審議したのち、受講を決定する。

授業内容：学習目標や内容は、以下の６区分２７項目から個々の課題に応じて選ぶ。

<p>1 健康の保持</p> <p>(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事 こと。</p> <p>(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事 こと。</p> <p>(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事 こと。</p> <p>(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する 事 こと。</p> <p>(5) 健康状態の維持・改善に関する事 こと。</p>	<p>4 環境の把握</p> <p>(1) 保有する感覚の活用に関する事 こと。</p> <p>(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関 する事 こと。</p> <p>(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事 こと。</p> <p>(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況につい ての把握と状況に応じた行動に関する事 こと。</p> <p>(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関 する事 こと。</p>
<p>2 心理的な安定</p> <p>(1) 情緒の安定に関する事 こと。</p> <p>(2) 状況の理解と変化への対応に関する事 こと。</p> <p>(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・ 克服する意欲に関する事 こと。</p>	<p>5 身体の動き</p> <p>(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事 こと。</p> <p>(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 に関する事 こと。</p> <p>(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事 こと。</p> <p>(4) 身体の移動能力に関する事 こと。</p> <p>(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事 こと。</p>
<p>3 人間関係の形成</p> <p>(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事 こと。</p> <p>(2) 他者の意図や感情の理解に関する事 こと。</p> <p>(3) 自己の理解と行動の調整に関する事 こと。</p> <p>(4) 集団への参加の基礎に関する事 こと。</p>	<p>6 コミュニケーション</p> <p>(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事 こと。</p> <p>(2) 言語の受容と表出に関する事 こと。</p> <p>(3) 言語の形成と活用に関する事 こと。</p> <p>(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関 する事 こと。</p> <p>(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事 こと。</p>

「総合探究」のテーマ別内容説明

No.	テーマ	定員	内容	実習費
1				
2	地域発見学習	前期 後期 各30名	高知県に関する地理や歴史、ニュースなどを学びます。各分野の専門家を招いて話を聞いたり、自分たちが校外へ出て実際に見学したり、調べたりします。	不要
3	未来へのプロセス	前期 後期 各30名	将来の職業選択を視野に入れた進路に目を向け、社会について広く主体的に学びます。さまざまな情報を収集し、それを活用する力をつけるとともに、最後に全員がテーマを決めて発表をします。	不要
4	私たちと環境	前期 後期 各30名	鏡川流域の身近な自然から、森・川・海を結ぶ生態系の成り立ちについて学ぶとともに、人の生活と自然との共生について探究します。「鏡川の散策」「水生生物の調査」「浦戸湾学習」「バードカービング」など、野外実習が多くあります。	実習費が必要な場合があります。
5	国際理解	前期 後期 各30名	インターネットで外国のことを調べたり、外国の方を招き、その国の文化に触れ、理解を深めます。また校外学習もあります。	実習費が必要な場合があります。
6	生活文化創造学習	前期 後期 25名	「自分たちの生活を潤いあるものに！」を目標に取り組みます。まず陶芸では、素手で粘土をこね各自オリジナルのお皿や器を製作し、次に調理実習で作ったもの（うどん、和菓子など）を盛り付け食します。また、興味のある食べ物（お菓子）の歴史やレシピを調べ各自で冊子やパワーポイント等にまとめます。	必要
7	生涯スポーツをめざして	前期 後期 各30名	参加する人たち全員がレクリエーションスポーツを楽しみ、交流を深め、健康や体力の維持向上を図るとともに、達成感、連帯感など、精神的に充実することも目的としています。卒業後も継続し、「一生涯」楽しみながら体を動かす術を学んでもらう授業です。フライングディスク、ラケットテニス、ソフトバレーボール、ラージボール卓球、ペタンク、キックベースボール等実施予定です。	不要

*今までに登録（受講）したことのあるテーマは、前期後期とも登録できません。

教科	数学	科目	数学課題探求	単位数	2単位	学年	2年次以上
使用教科書	学校作成のテキスト			副教材等	なし		

学習の目標

実生活で活用される数学の復習を取り入れながら生活の中で必要な知識を身に付け、生活に役立てることができる。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
生活の中で使われる四則計算、分数小数の計算や割合などが正確に計算できる。	計算の意味や計算の仕方を考えたり、それらの性質を活用して計算を工夫したりできる。数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かしていける。	計算に進んで関り、数学的に表現・処理したことを振り返り、数学的な処理の良さに気づき生活に活用しようとしている。
提出物・授業態度	提出物	教師による行動観察・授業態度・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	整数、分数、小数の混在する四則計算	加法、減法、乗法、除法の計算が確実にでき、それらを適切に用いることができる。小数、分数の意味や表し方について理解できる。整数、分数、小数の混在する計算の仕方を考え、正しく早く計算できる。	○			35
	5・6	比、割合の計算	もとにする量、くらべる量、割合の意味を理解し、それらを正しく求めることができる。割合を表す「歩合」「百分率」「小数」の関係を理解し正しく変換できる。日常生活で常識的に使われる割合に関心を持つ。	○	○	○	
	7	濃度、損益に関する問題	割合で表された濃度や損益の意味を理解し、それらを計算できる。日常でよく見聞きする損益について関心を持つ。	○	○	○	
	8・9	距離、速さ、時間	距離、速さ、時間の関係について理解し、それらを計算できる。単位の意味を理解し、その変換もできる。	○			
後期	10	仕事算・流水算	仕事算を計算するための考え方(全体を1とする)を理解し、解くことができる。流れの速さの分だけ速さが増すのか減るのかを理解し、距離・速さ・時間の関係を活用して計算できる。身近な事柄について考えようとする。	○	○	○	35
	11・12	数と式	既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりすることができる。無理数の四則計算ができる。	○		○	
	1・2	方程式・不等式	2次方程式、1次不等式を計算の方法を工夫しながら解を、簡単に正確に求めることができる。	○			
合計							70 時間

教科	地歴	科目	社会演習	単位数	2単位	学年	2年次以上
使用教科書	なし			副教材等	整理と演習 完成ワーク 社会		

学習の目標

地理・歴史・公民それぞれの基礎的な用語、内容を身につけ、高校段階での学習内容の理解を深める。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
地理・歴史・公民それぞれの基本的な用語、内容を理解している。資料から様々な情報を効果的に調べまとめることができる。	地理・歴史・公民それぞれの基本的な内容を多角的に考察したり、社会的課題の解決に向けて判断したり、それらを説明したりする力を身につけようとしている。	主体的に基本的な内容の学習や社会的課題解決に取り組もうとしている。
提出物, テスト, 確認テスト	提出物, テスト, 確認テスト	提出物, 教師による行動観察, 振り返りシート

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	公民分野 民主政治	・民主政治の考え方と、議院内閣制や大統領制の特徴について、理解している。 ・よりよい民主政治のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	35
		日本国憲法	・国家の統治原理として法の支配や立憲主義を確立することの大切さについて多面的・多角的に考察し表現している。 ・基本的人権が確立した背景や経緯について、理解している。	○	○	○	
		日本の政治機構と政治参加	・国会の地位と構成について、理解している。 ・法律はどのようにして成立するのか、理解している。 ・国会の課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	
	5	国際社会	・21世紀以降の国際社会の動向について、理解している。 ・国際社会の多極化や国際協力について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	
		資本主義経済・企業	・勢力均衡と集団安全保障の違い、国際連合の機能と主要機関の役割について、理解している。 ・今日の国際情勢の変化を受けて国際連合はどのような役割を強化するべきか多面的・多角的に考察し表現している。	○	○	○	
		国民経済・日本の経済	・価格はどのようにして決まるのか、具体的な市場を取り上げて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・三つの経済主体の活動と、経済循環における役割について、理解している。	○	○	○	
	6	貨幣・金融・財政	・自立した消費者としてどのような行動をとるべきか、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・「市場経済の機能と限界」についてよりよい社会の実現を視野に現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	
		貨幣・金融・財政	・財政の機能としくみについて、理解している。 ・租税の種類やその特徴について、理解している。 ・財政における国と地方の役割分担について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	
		貨幣・金融・財政	・金融のはたらきと金融機関の役割について、理解している。 ・日本銀行の金融政策とその影響について理解し、説明している。	○	○	○	
	7	労働・社会保障	・労働三法の内容について、理解している。 ・現在の日本の労働問題や、労働環境をめぐる課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	
労働・社会保障		・日本の社会保障制度について、理解している。 ・日本の社会保障制度の課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○		

8・9	歴史分野 原始古代	・諸資料を活用し、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解している。	○	○	○	
	中世	・日本や世界のさまざまな地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、画像などの資料を活用し、資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解している。	○	○	○	
		・交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料を活用し、近代化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現している。	○	○	○	
後期	10	近世	・アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、工業化と世界市場の形成を理解する。	○	○	○
			・18世紀の東アジア諸国が、それぞれどのように発展していったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
	11	近代	・帝国主義が起こった原因や、帝国主義国による世界分割の進行と世界秩序の変容について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
		現代	・日本で明治政府が行ったさまざまな改革や、その当時の東アジアの国際関係について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
	12	地理分野 自然地理	・第一次世界大戦の性格と惨禍、国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。	○	○	○
			・第二次世界大戦の性格と惨禍、社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。	○	○	○
	1	系統地理	・冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解している。	○	○	○
			・現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。	○	○	○
	1	系統地理	・現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解している。	○	○	○
			・現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
	2	系統地理	・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。	○	○	○
			・地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解している。	○	○	○
2	系統地理	・自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。	○	○	○	
		・さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルが身に付いている。	○	○	○	
		・生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○	○	○	
合計					70	
					時間	

教科	芸術	科目	現代書道	単位数	2単位	学年	2年次以上
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標

書道 I で学習した内容を深め、書道の創造的諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための知識・技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
ワークシート・作品等	作品・ワークシート・振り返りシート・発表・活動・質問等	授業態度・活動・提出物(作品を含む)・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	個性豊かな漢字の姿	・漢字の五書体の変遷と、その歴史的背景を理解する。 ・各書体の字形や線質の特徴を捉え、古典の豊かな個性を味わう。	○		○	35
		篆書の学習 「泰山刻石」	・篆書の基本点画の用筆・運筆を確認する。 ・「泰山刻石」が作られた経緯や書風、内容と大意、公式書体としての小篆について理解する。 ・書体に即した用筆・運筆を意識して臨書する。	○	○	○	
	5	「石鼓文」	・「石鼓文」が書かれた経緯や書風、内容を理解する。 ・書風に即した用筆・運筆を意識して臨書する。	○	○	○	
	6	隷書の学習 「居延漢簡」	・「居延漢簡」の伸びやかな波磔やリズムカルでスピード感のある書風を鑑賞し、作品の特徴を理解する。 ・書風に即した用筆・運筆を意識して臨書する。	○	○	○	
	7	草書の学習 「十七帖」	・「十七帖」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・学習のめあてを参考に、点画の連続や省略、柔らかさや線の太細など、臨書するポイントを確認する。 ・書体に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。	○	○	○	
		「書譜」	・「書譜」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・文字の大きさや線の太さ、墨の潤滑などの変化に富む書風を鑑賞し、作品の特徴を理解する。 ・書風に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。	○	○	○	

	8・9	「書譜」	<ul style="list-style-type: none"> ・「書譜」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・文字の大きさや線の太さ、墨の潤滑などの変化に富む書風を鑑賞し、作品の特徴を理解する。 ・書風に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。 	○	○	○		
後期	10	行書の学習 「集王聖教序」	<ul style="list-style-type: none"> ・「集王聖教序」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・「集王聖教序」における王羲之の書風の普遍的な魅力を鑑賞し、作品の特徴を理解する。 ・書風に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。 	○	○	○		
	11	「温泉銘」	<ul style="list-style-type: none"> ・「温泉銘」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・「温泉銘」の独特の結構、抑揚に富んだ線質からなる切れ味鋭い書風を鑑賞し、作品の特徴を理解する。 ・書風に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。 	○	○	○		
	12	「祭姪文稿」 「争坐位文稿」	<ul style="list-style-type: none"> ・顔真卿の三稿を鑑賞し、筆者顔真卿の心の動きが伝わるような勢いのある書きぶりを感じ取る。 ・「祭姪文稿」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解するとともに、顔真卿の人物像や書道史における位置づけを確認する。 ・「争坐位文稿」が書かれた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・文字の連綿や文字の大小、線の太細や抑揚のある運筆などの特色を理解する。 ・用筆・運筆、字形の特徴を意識して、臨書する。 	○	○	○		
	1							
	2	創作活動 創作をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間学習してきた分野の中で、好きなものを選び、創作する。 ・各分野の用筆・運筆を念頭に仕上げられるようにする。 ・一年間の学習を振り返り、書を通して、自分を見つめ直す。 	○	○	○		
合計							70	時間

教科	芸術	科目	器楽の楽しみ	単位数	2単位	学年	2年次以上
使用教科書	なし			副教材等	プリント		

学習の目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり、及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
活動状況 ワークシート 実技テスト 筆記テスト	活動状況 実技テスト	活動状況 ワークシート 振り返りシート

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	リコーダー演奏	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの楽器の個人練習を行い、楽器に親しみ、基本的な奏法を学ぶ。 それぞれの楽器について実技テストを行う。 準備、片付けを通して、楽器を大切に扱うことを学ぶ。 	○		○	3 4
	5	ギター演奏		○		○	
	6	鍵盤楽器(キーボード)演奏		○		○	
	7	ライブビデオ等の鑑賞	○	○	○		

	8・9	楽器の起源、種類	・楽器の起源や種類について学習し、筆記テストを行う。	○	○	○	
後期	10	箏の演奏とアンサンブル	・基本的な奏法を学習し、演奏する。 ・アンサンブル活動を通して、呼吸を揃え、相手を思いやる行動を身につける。	○		○	
	11	楽曲演奏	・リコーダー、ギター、キーボード、箏から一つを選択し、演奏曲を決め、個人練習を行い、その成果を実技テストで発表する。	○	○	○	
	12	ライブビデオ等の鑑賞	・和楽器の演奏ビデオを視聴し、演奏の臨場感を味わうとともに、和楽器の種類を学習する。	○	○	○	36
	1	様々な演奏形態	・器楽曲の演奏形態について学習し、筆記テストを行う。 ・鑑賞を通して器楽に触れ、その特長や音楽の文化的・歴史的背景を理解する。	○	○	○	
	2						
				合計	70	時間	

教科	外国語	科目	英語でトーク	単位数	2単位	学年	2年次以上
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標

- 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、
- ・必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
 - ・必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
 - ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。
 - ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。
 - ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。

評価規準(評価の観点及び趣旨)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>

学期	月	記録に残す 評価の領域					単元	題材内容	評価方法及び内容
		L	R	S I	S P	W			
前期	4月			○			Self Introduction	自己紹介	<p>日常的话题について、目的や場面、状況などに応じて伝え合うことを目標とした言語活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声指導、語彙指導 ・表現、文法、言語の働きについての学習 ・異文化理解学習 ・発表 ・やりとり
	5月			○			Feeling	感情	
	6月			○			Daily Schedule	日常生活	
					○		Hobbies / movies / music	趣味・映画・音楽	
					○		Sports	スポーツ	
		○		○	○		前期中間テスト		
	7月			○			School Life	学校生活と学校の特徴	
	8月			○			School Subjects and clubs	教科・部活	
	9月			○			Directions	道案内	
					○		Our Towns	自分の町	
	○		○	○		前期期末テスト			

学期	月	記録に残す 評価の領域					単元	題材内容	評価方法及び内容
		L	R	S I	S P	W			
後期	10月 11月 12月						Halloween	ハロウィン	日常的な話題について、目的や場面、状況などに応じて伝え合うことを目標とした言語活動を行う。 ・音声指導、語彙指導 ・表現、文法、言語の働きについての学習 ・異文化理解学習 ・発表 ・やりとり
				○			Japanese Food	日本の食べ物	
				○			Food around the world	世界の食べ物	
				○			Eating out	レストランにて	
				○			Japanese Festivals and world Festivals	日本と世界の行事	
			○		○		後期中間テスト	・リスニングテスト ・スピーキングテスト	
	12月 1月 2月						Christmas	クリスマス	日常的な話題について、目的や場面、状況などに応じて伝え合うことを目標とした言語活動を行う。 ・音声指導、語彙指導 ・表現、文法、言語の働きについての学習 ・異文化理解学習 ・発表 ・やりとり
				○			Traveling in Japan and traveling abroad	旅行	
				○			Health/ Hospital	健康・病院	
				○			Shopping	ショッピング	
				○			Jobs and future	職業・将来	
			○		○		後期期末テスト	・リスニングテスト ・スピーキングテスト	
合計								70 時間	

教科	芸術	科目	陶芸	単位数	2単位	学年	2年次以上
使用教科書	学校作成テキスト			副教材等	なし		

学習の目標

陶芸の創造的な活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の陶芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、陶芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に陶芸の創造的な活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わしている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって陶芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に陶芸の幅広い創造活動に取り組もうとしている。
ワークシート 実習・実技の状況 行動観察	ワークシート 実習・実技の状況 発表・話し合い活動	行動観察 実習・実技の状況 ワークシート

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	オリエンテーション	動画を視聴して焼き物制作の流れをつかむことができる	○			2
			陶芸を学ぶ目的、作品や課題の提出の仕方、評価方法についてを理解する			○	
	5	小鉢制作	アイデアスケッチして完成した作品像をつかむことができる		○		8
			土練りの技法を理解し、修得する	○			
			玉造による小鉢の成形方法を理解し、丁寧に成形・削りができる	○	○		
	6	陶印制作	素焼き後の作品に、発想力豊かに下絵付けと施釉ができる	○	○		4
			陶印の用途を理解し、デザインのアイデアを考えることができる	○	○		
	7	葉皿制作	印面の仕組みを理解し、丁寧に成形・削りができる	○	○		6
			葉皿の制作工程を理解し、型となる自然の葉の採集ができる	○			
8・9	タタラ作りによるマグカップ制作	板づくりによる葉皿の成形方法を理解し、丁寧に成形・削りができる	○	○		8	
		素焼き後の作品にふさわしい釉薬を選び、施釉ができる	○	○			
			発想豊かに絵付けのアイデアスケッチが描ける		○	○	
			技法を理解し、板づくりによる成形、下絵付け、施釉ができる	○	○		

後期	10	象嵌技法による 鉢制作	技法を理解し、アイデアスケッチして完成した作品像をつかむことができる	○		○	12
			ひもづくりによる成形、削り、象嵌、施釉ができる	○	○		
	11	土笛制作	技法を理解したうえでアイデアスケッチして完成した作品像をつかむことができる	○		○	8
			歌口の作り方を理解して、作品の全体像を考えることができる	○	○		
			手びねりによる成形、削り、下絵付け、施釉ができる		○	○	
	12	アロマポット制作	技法と完成作品の用途を理解し、アイデアスケッチして作品のイメージをつかむことができる	○		○	10
			キャンドルに火をつけてアロマオイルを垂らすための水を加熱すること、キャンドルの光が美しく見えるような穴をあけることを理解して、発想豊かにデザインすることができる	○	○		
			考えたデザインをもとに、手びねりによる成形、削り、下絵付け、施釉ができる		○	○	
	1		これまでに学んだ技法をもとに生活の中で作品を使用する場面を想定し、発想豊かに題材を決定できる	○		○	12
			考えた題材にふさわしい技法を選び、成形、削り、下絵付け、施釉の計画が立てられる	○	○		
	2	自由制作	計画をもとに試行錯誤しながら、成形、削り、下絵付け、施釉ができる		○	○	12
			これまでに制作した作品を互いに鑑賞し合い、1年間の制作を通して学んだことを文章でまとめて表現することができる		○	○	
				○	○		
		合計				70 時間	

教科	美術	科目	洋画	単位数	2単位	学年	2年次以上
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標

絵画(洋画)制作の創造的な活動を通じて、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成することを旨とする。①対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表している。【知識及び技能】 ②造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、思いや願いなどから個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。【思考力・判断力・表現力等】 ③主体的に美術の中の絵画表現を中心に創造的な活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術と美術文化に親しみ、生活や社会を豊かにするために工夫する態度を養う。【学びに向かう力、人間力等】

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。
評価方法 クシート・制作カード、実習・実技の状況、 による行動観察	ワー 教師 評価方法 クシート・制作カード、実習・実技の状況、 話し合い活動	ワー 発表・ 評価方法 師による行動観察、実習・実技の状況、 シート・制作カード、発表・話し合い活動

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	オリエンテーション デッサン基礎①	洋画の1年間の学習計画、授業内容について学習する。 鉛筆の使い方を理解する。	○	○	○	34
		デッサン基礎② トーン練習	鉛筆のさまざまな使い方(表現方法)を理解する。	○	○	○	
		デッサン基礎③ リンゴ鉛筆描写	鉛筆のさまざまな使い方(表現方法)を理解する。	○	○	○	
	5	デッサン演習① 巨匠に学ぶ①	巨匠の素描描写を学習し、理解する。	○	○	○	
			巨匠の素描描写から、描画法を学習し、その描画技法を習得する。	○	○	○	
			鑑賞により振り返り。	○	○	○	
	6	デッサン演習② 巨匠に学ぶ②	巨匠の素描描写を学習し、理解する。	○	○	○	
			巨匠の素描描写から、描画法を学習し、習得する。	○	○	○	
			鑑賞により振り返り。	○	○	○	
	7	洋画(アクリル画)制作	アクリル画についての知識を深める。材料や用具の特性を理解する。	○	○	○	
発想や構想を練り、ていねいに計画的に制作する。			○	○	○		
色の仕組みや性質を理解する。材料や技法を効果的に使い、ていねいに計画的に制作する。			○	○	○		

8・9		色の仕組みや性質を理解する。材料や技法を効果的に使い、ていねいに計画的に制作する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
		材料や用具を大切に扱い、準備や片付けをしっかりと行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
		相互鑑賞を通じて、今後の作品制作の見通しを立てる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
後期	10	洋画(油彩画)制作①	油彩画についての知識を深める。材料や用具の特性を理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
			発想や構想を練り、ていねいに計画的に制作する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
			色の仕組みや性質を理解する。材料や技法を効果的に使い、ていねいに計画的に制作する。 材料や用具を大切に扱い、準備や片付けをしっかりと行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
			色の仕組みや性質を理解する。材料や技法を効果的に使い、ていねいに計画的に制作する。 材料や用具を大切に扱い、準備や片付けをしっかりと行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
			色の仕組みや性質を理解する。材料や技法を効果的に使い、ていねいに計画的に制作する。 材料や用具を大切に扱い、準備や片付けをしっかりと行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
			相互鑑賞を通じて、今後の作品制作の見通しを立てる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	11	洋画(油彩画)制作②	油彩画についての知識をさらに深める。材料や用具の特性を理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
				発想や構想を練り、ていねいに計画的に制作する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
				色の仕組みや性質を理解する。材料や技法を効果的に使い、ていねいに計画的に制作する。 材料や用具を大切に扱い、準備や片付けをしっかりと行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
				色の仕組みや性質を理解する。材料や技法を効果的に使い、ていねいに計画的に制作する。 材料や用具を大切に扱い、準備や片付けをしっかりと行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
				色の仕組みや性質を理解する。材料や技法を効果的に使い、ていねいに計画的に制作する。 材料や用具を大切に扱い、準備や片付けをしっかりと行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
				相互鑑賞を通じて、年間を通じての作品制作の成果を発表し、相互理解を図る。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1	2	色の仕組みや性質を理解する。材料や技法を効果的に使い、ていねいに計画的に制作する。 材料や用具を大切に扱い、準備や片付けをしっかりと行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
			色の仕組みや性質を理解する。材料や技法を効果的に使い、ていねいに計画的に制作する。 材料や用具を大切に扱い、準備や片付けをしっかりと行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
			色の仕組みや性質を理解する。材料や技法を効果的に使い、ていねいに計画的に制作する。 材料や用具を大切に扱い、準備や片付けをしっかりと行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
			色の仕組みや性質を理解する。材料や技法を効果的に使い、ていねいに計画的に制作する。 材料や用具を大切に扱い、準備や片付けをしっかりと行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
			色の仕組みや性質を理解する。材料や技法を効果的に使い、ていねいに計画的に制作する。 材料や用具を大切に扱い、準備や片付けをしっかりと行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
			相互鑑賞を通じて、年間を通じての作品制作の成果を発表し、相互理解を図る。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
合計					70		
					時間		

教科	家庭	科目	色のトピラ	単位数	2	学年	全学年
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標		
身の回りの色彩活用事例を通して、色彩理論を概説し、色彩文化の理解を深めさせ、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。		
評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
生活の中で色の効果・取り入れ方などの基礎知識を習得するとともに、健康で楽しく生活するための色使いについて知識を深めている。	色の基本の考え方や原理を活用して、様々なシーンでの具体的な活用が考察・提案でき、衣食住における色の有効な取り入れ方、設計したことを説明したり、議論したりしている。	ライフケアカラーを活用することですべての人が心豊かな生活を送ることができるという気づきがある。
小テスト・ワークシート・レポート等	ワークシート・記録ノート・レポート・発表・話し合い・質問等	授業態度・レポート・記録ノート・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配分
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	色の基本①	色彩活用事例を参考に、色彩文化の理解の深め方を理解させる。	○			各2時間×25回
		色の基本②	色の専門用語を理解させる。	○			
		色の基本③	配色カードで色相を理解させる。	○			
	5	色の基本④	色相環を作り、理解させる	○		○	
		色の基本⑤	グレースケールを作り、理解させる。	○		○	
		色の基本⑥	等色相面を作り、色の成り立ちを理解させる。	○		○	
	6	色の基本⑦	色の三属性を使って理解させる。	○			
		色の基本⑧	考察した事例を発表し、理解を深めさせる。		○	○	
		色の基本⑨	色彩文化を理解させる。	○			
	7	色の基本⑩	色のイメージ活用について考察した事例を発表し、理解を深めさせる。		○	○	
		色の基本⑪	等色相面を作成し、色の三属性を復習させる。	○			
		色の基本⑫	色名の由来から色彩文化を理解させる。	○			
8・9							
後期	10	色の基本⑬	色相環を復習し、色相配色形式を理解させる。	○			
		色の基本⑭	トーン表を作成し、トーンを理解させる。	○		○	
		色の基本⑮	トーン表を復習し、トーン配色形式を理解させる。	○			
	11	色の基本⑯	3色以上の配色技法を理解させる。	○			
		色の基本⑰	「衣」の色彩活用を理解させる。	○			
		色の基本⑱	「食」の色彩活用を理解させる。	○			
	12	色の基本⑲	「住」の色彩活用を理解させる。	○			
		色の基本⑳	色光を理解させる。	○			
		色の基本㉑	色覚を理解させる。	○			
	1	色の基本㉒	ライフケアカラーを理解させる。	○			
色の基本㉓		色彩設計の意図を理解させる。	○				
色の基本㉔		パッケージデザインについて考察した事例を発表し、知識を深めさせる。	○	○			
色の基本㉕		安全色彩について考察した事例を発表し、知識を深めさせる。	○	○	○		
合計							50 時間

教科	総合	科目	手話	単位数	2	学年	全学年
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標

手話の学習を通して、聴覚障害や聴覚障害者についての理解と認識を深め、聴覚障害者とのコミュニケーション手段を知る。手話で挨拶や自己紹介ができるように基礎を学び、簡単な会話ができるよう学びを深めていく。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
聴覚障害や聴覚障害者の生活について理解を深めるとともに、手話を聴覚障害のある方のコミュニケーション手段として活用できるような基礎的な知識や技術を身につけている。	学んだ技術をもとに、課題や題材の内容について自らの考えや答えを手話を用いて表現できる。実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、聴覚障害者との関わりと福祉について主体的に学習に取り組んだり、振り返って改善しながら、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
小テスト(実技)、レポート 実技内容	グループでの発表、手話による会話での表現、レポート	授業態度、記録ノート、行動観察、レポート

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配分
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	①手話とは	・物の形、表情、動作などの特徴をとらえ、工夫して表現すれば伝えることができることを気づかせる	○			各2時間 ×25回
		・聴覚障害者や手話の基本知識	・「伝えあうのは「ことば」だけでなく、観る力も必要であることを知る ・恥ずかしがらず表現できるようにする	○			
		・聴覚障害について		○		○	
	5	②聴覚障害者の生活		○			
		③あいさつ・指文字	・簡単なあいさつや指文字の表現を理解する。指文字をするときは、手の向きに気をつけるよう注意する。	○		○	
	6	④自己紹介	・自分のことを、手話で紹介できるようにする	○		○	
		・名前、家族、趣味、数字、仕事、案内などが手話でできるようにする	・名前の表現の仕方もさまざまであることを知る ・家族の説明は、年齢や上下関係に気をつけて表現するよう指導する	○		○	
	7	・聴覚障害者の仕事を知る	・今まで習った内容も含めて表現できるようにする			○	
		⑤県名	・都道府県の表し方を知る ・行きたい場所を手話で表現する	○		○	
	8・9	⑥復習	・前期の内容を振り返り、長期休暇の間、何をしていたか手話で表現し合う	○	○	○	
・1日、1週間		・1日や1週間のできごとを発表しあう	○	○	○		
後期	10	・会話をする	・曜日の手話を会話にとりいれる	○	○	○	
		⑦季節	・季節の表現方法を知る。 ・好きな季節、嫌いな季節を手話で表現し合う		○	○	
		・疑問詞の手話単語					
	11	・話しかける手話	・言いたいことを文章にしてから、手話で表現できるようにする	○	○	○	
		⑧さまざまな表現					
	12	・グループで表現を考えて、発表してみる	・グループを作り体験をする	○	○	○	
		⑨歌	・歌を手話で表現できることを知る ・手話で歌ってみる	○		○	
	1	⑩聴覚障害者の体験	・聴覚障害者の日常生活について話を聞き、理解を深める。 ・聴覚障害者と同じく言葉を読まずに意思を伝えあう体験をする。伝達ゲーム(身振り)で伝え合う。	○	○	○	
		⑪まとめ					
		・手話を学習して思ったことを発表する	・1年間の学習を振り返り、覚えている手話の確認や、手話による表現ができたかを確認する ・レポートの内容を手話で表現する	○	○	○	
合計							50 時間

教科	外国語	科目	ハングル入門	単位数	2	学年	全学年
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標

韓国語学習にあたって必要な基礎的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得とともに、背景にある文化に対する理解を深め、韓国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
生活会話から韓国語の文字・発音・基礎文法を理解し、簡単な会話を聞き、読み、書き、話すことができる。	韓国語の様々なシーンでの具体的な活用について考え、表現することができる。聞き手や話し手の意図を的確に捉え、話したり書いたりしながら自分の意見を伝え合うことができる。	我が国の文化や、韓国の文化に関心を持ち、主体的に理解しようとしている。韓国語を用いて自律的にコミュニケーションを図ろうとしている。
小テスト・ワークシート・レポート等	ワークシート・記録ノート・レポート・発表・話し合い・活動・質問等	授業態度・レポート・活動・記録ノート・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	・〈発音〉母音及び子音	・母音及び子音の発音と、読み書きを習得させる。	○			
		・自己紹介	・基本的な自己紹介ができるようになる。	○	○	○	
	5						
	6	・NはNです	・基本文型・物の名前を覚える。	○			
	7	・家族の呼称	・基本文型及び家族の呼称を理解させる。	○			
8・9	・Nにあります	・身の回りの物の所在が言えるようになる。	○	○	○		
	・韓国の文化に触れる	・韓国料理を作り、韓国の食文化に触れる。	○	○	○		
後期	10	・NをVます	・基本的な動詞を使い、日常生活の基本的な行動の言い方を理解させる。	○			
	11	・尊敬、未来形	・尊敬語と動詞の未来形を理解させ、未来のことができ言えるようになる。	○	○	○	
		・韓国の文化に触れる	・民族衣装を着て、韓国の楽器を演奏する。 アヒラン峠を楽器演奏と共に韓国語で歌い、異文化に触れる。		○	○	
	12	・動詞の過去形	・動詞の過去形を使用し、過去のできことや経験が言えるようになる。	○	○	○	
1	・動詞の活用	・動詞の活用形を学習し、日常会話が話せるようになる。	○	○	○		
	・復習		○	○	○		
合計							50 時間

教科	家庭	科目	茶道入門	単位数	2	学年	全学年
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標		
茶道についての知識、技術の習得を通して、日本の伝統文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
茶道の文化に親しみ、歴史や思想などの基礎的知識を理解しているとともに、それらにかかわる技能(基本の所作・点前の作法)を身につけている。	伝統文化の伝承の重要性を踏まえ、茶道の学びを通して、自然や美を感じ、譲り合いや思いやる心、感謝の心を学び、知識・技術の習得に基づいて実践的に表現することができている。	日本の伝統文化に関心を持ち、尊重し学ぼうとする意欲的な態度が見られ、技術向上のために、茶道への関心を高めようとする主体的に取り組もうとしている。
確認テスト(実技)・レポート等	記録ノート・レポート・発表・話し合い・活動・質問等	授業態度・レポート・活動・記録ノート・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当	
				(1)	(2)	(3)		
前期	4	①客のマナー ・客のマナーを学ぶ	持ち物、客のお辞儀の仕方、襖の開け方・閉め方、客の立ち居振る舞い、蹲居の使い方、広間の席入り、床・釜・道具の拝見、お菓子のいただき方、薄茶のいただき方、茶碗の拝見 基本の所作(座る)(お辞儀)(立ち上がる)(歩く・回る)、道具をもって入る・出る 服紗の扱い方、服紗のさばき方 籠のふき方、茶杓のふき方、茶筌どうじ・すすぎ方、茶巾のたたみ方 茶碗のふき方、風炉の柄杓の扱い方、茶杓の扱い方 水指の扱い方、建水・蓋置の扱い方	○			各2時間×25回	
		②基本のけいこ 薄茶運び点前	・基本のけいこを学ぶ 道具を運ぶ、柄杓を引く、茶器・茶杓を拭く、茶筌どうじ、茶碗を拭く	○	○	○		
	6		お茶をばく、お茶を点てる、お茶を出す 仕舞いの礼、茶筌すじぎ、茶杓を拭く 中仕舞い、釜に水をさし水指の蓋をする、道具を下げる	○	○	○		
		薄茶小棚点前(丸卓をつかて)	道具を運ぶ、柄杓を引く、茶器・茶杓を拭く、茶筌どうじ、茶碗を拭く お茶をばく、お茶を点てる、お茶を出す 仕舞いの礼、茶筌すじぎ、茶杓を拭く 中仕舞い、釜に水をさし水指の蓋をする、道具を下げる	○	○	○		
	8・9			○	○	○		
				○	○	○		
	後期	10	③風炉の薄茶点前 薄茶大棚点前(長板をつかて)	・風炉の薄茶点前を学ぶ 道具を運ぶ、柄杓を引く、茶器・茶杓を拭く、茶筌どうじ、茶碗を拭く お茶をばく、お茶を点てる、お茶を出す 仕舞いの礼、茶筌すじぎ、茶杓を拭く 中仕舞い、釜に水をさし水指の蓋をする、道具を下げる	○	○		○
				○	○	○		
11				○	○	○		
		④炉の薄茶点前 ・炉の薄茶点前を学ぶ		○	○	○		
1		⑤初釜						
合計								50 時間

教科	外国語	科目	中国語入門	単位数	2	学年	全学年
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標		
中国語学習にあたって必要な基礎的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得とともに、背景にある文化に対する理解を深め、中国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。		
評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
生活会話から中国語の文字・発音・基礎文法を理解し、簡単な会話を聞き、読み、書き、話すことができる。	中国語の様々なシーンでの具体的な活用について考え、表現することができる。聞き手や話し手の意図を的確に捉え、話したり書いたりしながら自分の意見を伝え合うことができる。	我が国の文化や、中国の文化に関心を持ち、主体的に理解しようとしている。中国語を用いて自律的にコミュニケーションを図ろうとしている。
小テスト・ワークシート・レポート等	ワークシート・記録ノート・レポート・発表・話し合い・活動・質問等	授業態度・レポート・活動・記録ノート・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	・中国とは	・中国についての簡単な説明	○			各2時間×25回
		・あいさつする	・正しい発音・声調の練習	○		○	
		・名前を尋ねる	・簡単なあいさつの練習	○		○	
	5	・食べたいものを尋ねる	・質問に対する答えができるようになる	○	○	○	
			・動詞の肯定形・否定形を知る	○			
	6	・近況を尋ねる	・形容詞文の作り方を知る	○			
			・形容詞文を作り表現する		○	○	
7	・予定を尋ねる	・日付・時刻の言い方を知り実際に表現する	○	○	○		
	・場所を尋ねる	・場所の尋ね方を知る ・～は～にあるという言い方を知り、質問に対する答えができるようになる	○	○	○		
8・9	・注文する	・ある・ない・持っている・持っていないの言い方を知る	○	○	○		
後期	10	・値段を交渉する	・数量の言い方を知る ・値段交渉のやり方を知る	○	○	○	
		・出来事を尋ねる	・完了の言い方を知る ・補語の使い方を知り、会話に取り入れる ・強調文を知る	○	○	○	
	11	・希望を尋ねる	・自分の希望の伝え方を知り実際に表現する	○	○	○	
	12	・行き方を尋ねる	・前置詞の使い方を知り実際に表現する	○	○	○	
	1	・経験を尋ねる	・時間の長さの言い方を知り実際に表現する ・～したことがあるという言い方を知り実際に表現する	○	○	○	

合計 50 時間

教科	国語	科目	話し方講座	単位数	2	学年	全学年
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を育てる。TPOに応じた話し方、雰囲気作り、独創的な自己表現方法を身につける韓国語学習にあたって必要な基礎的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得とともに、背景にある文化に対する理解を深め、韓国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
呼吸法・発声法の基礎的な知識について理解し、適切な発声法が身につけている。 言葉の特徴や表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使う事ができている。	自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して伝える内容を検討することができる力を身につけている。 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、相手の理解が得られるように表現を工夫することができる力を身につけている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、表現活動を通して人との豊かなかかわりを知るとともに他者や社会に意欲的に関わったり、言語を効果的に使おうとしている。
小テスト・ワークシート・レポート等	ワークシート・記録ノート・レポート・発表・話し合い・活動・質問等	授業態度・レポート・活動・記録ノート・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当	
				(1)	(2)	(3)		
前期	4	①音声要素	・腹式呼吸、発声、姿勢、表情、雰囲気作りなどに気をつけさせる	○			各2時間×25回	
		・呼吸法、発声法	・自己紹介、他人紹介		○	○		
	5	②日常の言葉づかいを見直す	・会話の糸口の見つけ方 ・相づちの方法、種類、変化	○				
		・感じのよい話し方を身につける	・表情の作り方・言葉の選び方、敬語 ・5W1Hでの取材(聞き上手の方法)・分析(リサーチ、準備、まとめる力) ・電話のかけ方、受け方			○		○
	6	・プラスの言葉の習熟 ・マイナスの言葉を見直す	・表情の作り方・言葉の選び方、敬語 ・5W1Hでの取材(聞き上手の方法)・分析(リサーチ、準備、まとめる力) ・電話のかけ方、受け方			○		○
7	③取材、分析 ・円滑な会話のための準備		○					
後期	8・9	④TPOにあわせた会話選び	・朗読(読み聞かせ、録音・自分の声を知る)		○	○	各2時間×25回	
		・起承転結の訓練(構成力向上をめざす) ・短い時間での印象づくり	・起承転結の構成の作り方について理解させる。 ・話したい内容について、起承転結を意識して文章を構成し発表する。 ・発表した内容について評価し合いながら、改善点を見つける。	○	○			
	10	⑤口に出して読む ・文章を音声化して伝える				○		○
	⑥職業疑似体験	・場面体験(レポート)			○	○		
11	・どのようにしたら伝わるかを身につける	・伝え方の違いやコツを学ぶ		○				
	⑦自己アピールの表現	・プレゼンテーションや自己主張の方法について理解する。		○				
12	・プレゼンテーションで自分の意思を伝える	・テーマを決めてプレゼンテーション資料を作成し、発表し合う。 録画した発表を上映し、自分の発表について自己評価、他者評価を行い改善点を見つける。			○	○		

合計 50 時間

教科	高大連携	科目	学びを創る	単位数	1単位	学年	全学年
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標

答えが分からないような問題に対しても、他者と積極的にコミュニケーションを図り、色々な意見を統合して、自律的に学びを創ろうとする姿勢を養う。

- (1) 課題解決に向け、論理的思考力や分析力を身につけようとしている。
- (2) グループでのいろいろな意見を統合して、新しい学びを創造しようとしている。
- (3) 自分が所属するグループ内およびグループ外において、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
論理的に思考する場面や効果的に発表しようと工夫する態度が見られる。	既存の意識にとらわれない柔軟な発想力や物事を多面的に考える力を身につけようとしている。	多様な意見を理解しようとする姿勢を持ち、他者に積極的に自分の考えを伝えようとしている。
作業内容チェックシート・レポート・プレゼンテーション等	レポート・話し合い・プレゼンテーション等	授業態度・作業内容チェックシート・レポート・プレゼンテーション・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	オリエンテーション	振り返りシートを作成する。授業・参加者への貢献をみる。			○	35
		課題探求エクササイズ①	振り返りシートを作成する。授業・参加者への貢献をみる。	○		○	
	5	チームビルディング演習①	振り返りシートを作成する。授業・参加者への貢献をみる。	○		○	
		学びを考える「学び履歴」	振り返りシートを作成する。授業・参加者への貢献をみる。	○		○	
	6	課題探求型学習プログラムを創る①～③	カードを使って学習プログラムを企画・作成・思考・改善する。報告とポスター作成をする。振り返りシートを作成する。授業・参加者への貢献をみる。	○	○	○	
		ふりかえりとチームビルディング演習②～③	振り返りシートを作成する。授業・参加者への貢献をみる。	○	○	○	
	7	課題探求型学習プログラムを創る④～⑦	学習プログラムを企画・作成・改善する。報告をする。振り返りシートを作成する。授業・参加者への貢献をみる。	○		○	
	8・9	報告会	ゲームボックスの作成、チーム報告をする。振り返りシートを作成する。授業・参加者への貢献をみる。	○	○	○	
ふりかえり		ゲームボックスの実施、感想シートを作成する。振り返りシートを作成する。授業・参加者への貢献をみる。	○	○	○		
合計							35
							時間

教科	高大連携	科目	大学生生活と心理学	単位数	1単位	学年	全学年
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標

新しい環境や集団の中で感じたり、考えることについて、臨床心理学と健康心理学の知見から基本的な知識を学び、グループワーク体験をしながらその学びを深めていく。

- (1) 心理学の知識を基に、自己を理解し、それを言語化することができる。
- (2) グループワークを通して、自己理解・他者理解を深めることができる。
- (3) 自分が所属するグループ内およびグループ外において、積極的にコミュニケーションを図り、新しい知見を得ようとしている。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
コミュニケーションやストレスマネジメント、アンガーマネジメントなどについて基礎知識を獲得し、説明することができる。	対人関係における自己の思考に着目でき、歪みに気づくことができる。また、円滑な関係を築くためにはどのような工夫が必要かを考えることができる。	カウンセリングマインドやピアサポートについて理解し、自分をとりまく人間関係作りに結びつけて考えることができる。
レポート・グループワークの様子等	レポート・グループワークの様子等	授業態度・レポート・グループワークの様子・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
後期	10	オリエンテーション	e-大福帳の記入、復習課題の提出			○	35 時間
		自己理解と他者理解を深める	e-大福帳の記入、事前課題の提出	○		○	
		コミュニケーション技法の基礎知識の獲得	e-大福帳の記入、事前課題の提出	○		○	
	11	青年期の発達課題について理解する	e-大福帳の記入、事前課題の提出	○		○	
		自分の考え方(=認知)のクセについて考える	e-大福帳の記入、事前課題の提出	○	○	○	
		認知のメカニズムについて、体験から理解する	e-大福帳の記入、事前課題の提出	○		○	
	12	ストレスとストレスマネジメントについて考える	e-大福帳の記入、事前課題の提出	○		○	
		モチベーションについて考える	グループプレゼンの実施、e-大福帳の記入、事前課題の提出	○		○	
		「腹が立つ」アンガーマネジメントについて考える	e-大福帳の記入、事前課題の提出	○	○	○	
	1	カウンセリングの基礎知識の獲得①	e-大福帳の記入、事前課題の提出	○		○	
		カウンセリングの基礎知識の獲得②	e-大福帳の記入、事前課題の提出	○		○	
		人を支えるサポート理論(ピア・サポート)の基礎知識の獲得①	e-大福帳の記入、事前課題の提出	○		○	
	2	人に教える技術を獲得する	e-大福帳の記入、事前課題の提出	○	○	○	
		グループプレゼンテーション	グループプレゼンの実施、e-大福帳の記入、事前課題の提出	○	○	○	
				合計			35

教科	高大連携	科目	自然科学概論	単位数	1単位	学年	全学年
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標

最先端の科学的な話題やその内容について高等学校で学ぶ教科との関連性に触れ、理科の各科目を総合的な視点で考える力を養うとともに、自然科学に対する興味・関心を高め、学ぶことの意義や目的意識を養う。

- (1) 高等学校で学ぶ知識を基に、大学での基礎実験について前向きに取り組もうとしている。
- (2) グループ内で協力しながら実験実習に工夫をして取り組むことができる。
- (3) 自分が所属するグループ内およびグループ外において、積極的にコミュニケーションを図り、新しい知見を得ようとしている。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
講演内容を理解し、実験実習の結果についてインターネットを使って適切にまとめることができる。	大学の先生や学生のアドバイスを受けながら、協力して実験実習に取り組み、結果について説明することができる。	考えを共有することの大切さや楽しさを感じ、講座で得た知識や経験を自分の進路に結びつけて考えることができる。
実習実験の様子・話し合い・プレゼンテーション・レポート等	実習実験の様子・話し合い・プレゼンテーション・レポート等	実習実験の様子・レポート・活動・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
夏季	7月	オリエンテーション		○		○	35
		講座①【物理・化学・生物・地学のいずれかについて】	・大学の先生による講義を理解する	○		○	
		実験実習を行い、チームで結果について考察し・発表準備をする。	・研究施設を使った実験実習に取り組む ・チームで結果について考察し、発表準備する	○	○	○	
		講座②【物理・化学・生物・地学のいずれかについて】	・大学の先生による講義を理解する	○		○	
		実験実習を行い、チームで結果について考察し・発表準備をする。	・研究施設を使った実験実習に取り組む ・チームで結果について考察し、発表準備する	○	○	○	
		発表準備・仕上げ	・チームでディスカッションしながら進めていく	○	○	○	
		全体発表・まとめ・課題提出	・講座終了後、指定した期日までに課題を出す	○	○	○	
				合計			35 時間

令和5年度 登録基礎表

形態	令和4年度入学生で2年次以上で再登録する科目		2年次に必ず登録する科目		主に2年次以上に選択する科目		次年度の3年次以上登録可	
	英語コミュニケーションI 公共 数学I	英語コミュニケーションI 公共 数学I	家庭総合	ヒジメ基礎 物理基礎	文学国語 生物基礎	保育基礎 地学基礎	数学III	次年度の3年次以上登録可
① 3単位	英語コミュニケーションI 公共 数学I	英語コミュニケーションI 公共 数学I	家庭総合	ヒジメ基礎 物理基礎	文学国語 生物基礎	保育基礎 地学基礎	数学III	数学III
② 4単位	科学と人間生活	科学と人間生活		歴史総合 英語コミュニケーションII 倫理	地理総合	数学II	生物 日本史探究 数学C	7・ド・デザインB 地理探究 ★体育男女
② 2単位	情報I	情報I		論理・表現I	政治経済			
③ 3単位	音楽I 書道I 工芸I	公共 美術I 工芸I		数学A 情報処理	化学基礎	地学基礎	消費生活	体育3男女
④ 4単位			家庭総合	歴史総合	地理総合		化学 英語コミュニケーションIII	世界史探究
④ 1	科学と人間生活	科学と人間生活		数学B 音楽II	政治経済 美術II	工芸II	書道II	
④ 2	情報I	情報I		服飾手芸	論理・表現I	倫理	音楽III 工芸III	美術III 書道III
⑤ 3単位	英語コミュニケーションI 数学I	英語コミュニケーションI 数学I		数学A 化学基礎	簿記 生物基礎	古典探究 体育2・保健2男女 総合探究III	7・ド・デザインA ネットワーク活用	国語表現
⑥【前期】 ⑥【後期】	総合探究I 総合探究II	総合探究I 総合探究II		歴史総合(4)	英語コミュニケーションII(4) ヒジメ基礎(3)	総合探究IV		
S5	英語コミュニケーションI(3) 公共(3) 音楽I(3) 工芸I(3) 書道I(3)	英語コミュニケーションI(3) 公共(3) 音楽I(3) 工芸I(3) 書道I(3)		歴史総合(4)	英語コミュニケーションII(4) ヒジメ基礎(3)		体育3男女(3) 国語表現(4)	地理探究(4)
S6			家庭総合(4)	数学II(4) 生物基礎(3)	地理総合(4) 数学A(3)	書道I(3)	論理・表現II(3) 世界史探究(4)	日本史探究(4)
S6【前期】 S6【後期】	情報I(2) 科学と人間生活(2)	情報I(2) 科学と人間生活(2)	数学A(2) 家庭基礎(2)	保育基礎(2) 論理・表現I(2)	体育2(2)男女 保健2(1)男女	保健I(1)男女 音楽II(2)	美術II(2)	
⑦	基礎数学	基礎数学		◎器楽の楽しみ ◎洋画	◎社会演習		◎暮らしと7+	
⑧	基礎英語	基礎英語		◎現代書道 ◎陶芸			◎発展英語	大学への数学
⑩	基礎国語	基礎国語		◎英語でトーク ◎学びを創る(1)(前期)	◎数学課題探求		◎大学生活と心理学(1)(後期)	
⑪	2単位			◎自然科学概論(1)(夏期)			◎国語探究	
他	1単位							

*「体育1」または「保健2」の未履修が決定した生徒については、体育は「体2・保健2」を登録し、保健1はS6前期の保健1を登録してください。

*「体育2」または「保健2」の未履修が決定した生徒については、体育は体育3を登録し、保健2はS6後期の保健2を登録してください。

*「体育2・保健2」の両方の未履修が決定した生徒については、「体育2・保健2」の再履修できます。

*「★体育」については令和5年度教科登録注意事項を確認してください。

*「基礎国語・基礎数学・基礎英語」の登録は、原則として1年生に限りです。

*「家庭基礎」選択者は「数学A」を必ず選択してください。ただし「家庭基礎」を選択できる生徒は大学進学希望者のみに限ります。

* ◎のついている科目は、共通講座で、◎のついている科目は、高大連携です。登録をする場合は、受講資格があるかどうかを確認してください。

* 共通講座の開講科目については、学年末の教科登録までに変更がある場合があります。また、特別講座は最終登録時に次年度の計画が発表になります。

* 「未来を拓く」についてはホーム主任と相談してください。